# SYLLABUS

# 2023 年度 講義要項

1 年（2023 年度以降入学　　5 期生）

2 年（2022 年度入学　　4 期生）

3～4 年（2020～21 年度入学　2・3 期生）

和 歌 山 信 愛 大 学

**和歌山信愛大学　教育学部　子ども教育学科　2023 年度　シラバス　総目次**

シラバスの利用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

- **1 年**（2023 年度以降入学　5 期生）
  - シラバス 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
    - 共通基礎科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～27
    - 専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28～46

- **2 年**（2022 年度入学　4 期生）
  - シラバス 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
    - 共通基礎科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49～65
    - 専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66～95

- **3 年**（2020～21 年度入学　2・3 期生）
  - シラバス 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
    - 共通基礎科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99～103
    - 専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104～154

- **4 年**（2020～21 年度入学　2・3 期生）
  - シラバス 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
    - 共通基礎科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157～158
    - 専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159～166

# シラバス（Syllabus　講義要項）の利用方法

## 1　シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の内容を詳しく記載した文書です。シラバスを見ることにより、当該授業でどのようなことを学べるのか、詳しく知ることができます。

## 2　シラバスの活用方法

（1）　履修する科目の選択

学生の皆さんは『履修のてびき』、シラバスおよび時間割表を参照し、自分が今年度に履修すべき授業科目を確認の上、期間内に履修登録を行ってください。なお、シラバスは大学ホームページでも公開します。

（2）　教科書・教材の準備

履修する科目が決まったら、シラバスの記載をもとに教科書や教材を準備しておいてください。なお、教科書購入方法については別途案内します。

（3）　時間割・教室の確認

時間割および教室は、ガイダンス等で公表される時間割表を確認してください。

（4）　予習・復習内容の確認

シラバスでは、授業時間中の教育内容はもちろん、授業前後の予習・復習、レポートや課題など、授業時間外での学習についても詳細に記載されています。これは学生の皆さんが授業内容を確実に修得することを支援しています。

（5）　オフィスアワーの活用

授業に関することで分からないことや相談したいことがあれば、担当教員のオフィスアワーを利用して、研究室を訪問してください。オフィスアワーにて各教員が在室している時間帯がわかります。

（6）　成績評価方法の確認

シラバスには、学生が当該授業で到達すべき目標を設定しています。学生がその目標に到達したかを確認するため、成績評価が行われます。成績評価の方法は、シラバスに具体的に記載されており、学生はそれを見ることによって、自分の学習内容がどのように評価されるのかを予め確認することができます。また、成績評価の終了後、自分の成績評価に異議のある場合は、シラバスの成績評価に関する記載をもとに質問することができます。異議申し立ての手続きに関しては『履修のてびき』を確認してください。

（7）　授業改善

大学における授業は、原則シラバスに基づいて行われます。したがって、シラバスの改善が授業の改善につながります。シラバスの記載に不明な点がある場合は、積極的に担当教員に質問してください。

## 3　シラバスの見方

（1）　配当年次

当該授業科目を履修できる年次を記載しています。

（2）　開講期

「前期」「後期」「通年」の区分があります。

（3）　科目名

当該授業科目の名称を記載しています。

（4）　担当者

当該授業科目を主として担当する教員の名前を記載しています。

（5）　単位

当該授業科目を修得した場合に与えられる単位数を記載しています。

（6）　卒業 必・選

卒業するために必要な必修科目・選択必修科目・選択科目を記載しています。また、卒業要件とは別に、免許・資格取得に関わる必修科目・選択必修科目があるので、間違わないようにしてください。詳細は『履修のてびき』を参照してください。

（7）　授業形態

「講義」「演習」「実験・実習」の区分があります。

（8）　授業の概要

当該授業科目のテーマ、ねらい、内容の概要などについて記載しています。

（9）　授業の目標

学生が当該授業科目において到達すべき目標（「この授業を受け終わった学生は、何ができるようになっているか」）を具体的に記載しています。授業の目標は成績評価に密接に関わっているので、よく確認してください。

（１０）　授業のテーマ及び内容

各回の授業内容を授業の展開に沿って具体的に記載しています。授業を受ける前に必ず確認し、各回の授業内容と授業全体の流れを頭に入れるよう心掛けてください。

（１１）　成績評価方法

成績評価の方法（定期試験、課題レポート、提出物など）、評価の割合などについて具体的に記載しています。

（１２）　教科書・参考書

教科書は授業を受けるにあたって必ず入手すべき文献であり、必要なものです。参考書は当該授業の内容についてより発展的に自主学習を行いたい場合に参照する文献です。また適宜教材として担当教員より指示がある場合があります。

（１３）　授業外の学習方法

授業外における予習・復習について具体的に指示しています。

（１４）　免許・資格

免許・資格のために必要な必修科目・選択必修科目を記載しています。卒業要件に関わる必修科目・選択必修科目・選択科目と区別して、間違わないようにしてください。

（１５）　実務経験と教授内容

当該授業科目を担当する教員が、その分野でどのような実務経験をもっているかを記載しています。

# 1年
## （2023年度以降入学　5期生）

# 講義要項

# 2023年度　シラバス　目次　1年（2023年度以降入学　5期生）

| 科目区分 | | | 授業科目の名称 | 教員名 | 実務家教員＊ | 単位数 | 配当年次 | 授業形態 | 卒業に必要な科目・単位 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通基礎科目 | 教養科目 | 信愛教育の基礎 | 信愛教育Ⅰ | 大山輝光 | | 1 | 1前期 | 演習 | ● | 5 |
| | | | いのちと倫理 | 小関彩子 | | 2 | 1後期 | 講義 | ● | 6 |
| | | | ボランティア実習 | 森﨑陽子　宮定章 | | 1 | 1通年 | 実験実習 | ● | 7 |
| | | 教育者の教養 | 日本国憲法 | 奥野庸己 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 8 |
| | | | 健康教育 | 松本健治 | | 2 | 1前期 | 講義 | ○ | 9 |
| | | | 情報処理論 | 大山輝光 | | 2 | 1・4前期 | 講義 | ○ | 10 |
| | | | 国際教育論 | 相川真佐夫 | ＊ | 2 | 1後期 | 講義 | ○ | 11 |
| | | | 子どもと遊び | 大橋眞由美 | | 2 | 1後期 | 講義 | ○ | 12 |
| | | リテラシー | 日本語表現 | 宍戸寛昌 | ＊ | 1 | 1前期 | 演習 | ● | 13 |
| | | | 英語コミュニケーションⅠ | 辻伸幸 | ＊ | 1 | 1前期 | 演習 | ● | 14 |
| | | | 英語コミュニケーションⅡ | 辻伸幸 | ＊ | 1 | 1後期 | 演習 | ● | 15 |
| | | | 情報処理演習Ⅰ | 大山輝光 | | 1 | 1後期 | 演習 | ● | 16 |
| | | 保健体育 | スポーツと健康Ⅰ（講義） | 森﨑陽子　原まなみ | ＊ | 1 | 1前期 | 講義 | ● | 17 |
| | | | スポーツと健康Ⅱ（実技） | 森﨑陽子　原まなみ | ＊ | 1 | 1通年 | 実験実習 | ● | 18-19 |
| | | 教師塾 | 教職キャリアデザイン | 森﨑陽子 | ＊ | 1 | 1通年（隔週） | 講義 | ● | 20 |
| | | | 教職基礎ゼミナール | 森﨑　村上　宮定　中村　前島　原ま | | 2 | 1通年 | 演習 | ● | 21-22 |
| | | | 教職基礎実習 | 辻　小田　前島 | ＊ | 1 | 1通年 | 実験実習 | ● | 23 |
| | 地域連携科目 | 紀の国わかやまと世界 | 世界の中の和歌山 | 福田光男 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 24 |
| | | | 歴史・文化と風土 | 小山譽城 | ＊ | 2 | 1後期 | 講義 | ○ | 25 |
| | | | 郷土の自然 | 福田光男 | ＊ | 2 | 1・4後期 | 講義 | ○ | 26 |
| | | 地域探求科目 | 地域連携フィールド学習 | 宮定章　千森督子 | | 1 | 1通年 | 実験実習 | △ | 27 |
| 専門教育科目 | 理念・理論 | | 教職論 | 木本毅 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 28 |
| | | | 教育原理 | 木本毅 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 29-30 |
| | | | 保育原理 | 森下順子 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 31 |
| | | | 教育制度論 | 岸田正幸 | ＊ | 2 | 1後期 | 講義 | ● | 32 |
| | | | 子ども家庭福祉 | 田中和子 | ＊ | 2 | 1後期 | 講義 | ● | 33 |
| | | | 教育方法論（ICT活用含む） | 岸田正幸 | ＊ | 2 | 1後期 | 講義 | ● | 34 |
| | | | 教育課程総論 | 岸田正幸 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 35 |
| | | | 保育の計画と評価 | 原康行 | ＊ | 2 | 1後期 | 講義 | ● | 36 |
| | | | 保育内容総論 | 中村俊之　山下悦子 | ＊ | 2 | 1前期 | 演習 | ● | 37-38 |
| | | | 図画工作 | 大橋功 | ＊ | 2 | 1前期 | 演習 | ○ | 39 |
| | | | 音楽 | 溝口希久生　八代健志 | ＊ | 2 | 1前期 | 演習 | ○ | 40 |
| | | | 生活 | 中井精一 | ＊ | 2 | 1前期 | 演習 | ○ | 41 |
| | | | 子どもと健康 | 中村俊之 | ＊ | 2 | 1後期 | 演習 | ○ | 42 |
| | | | 子どもと環境 | 秋吉博之 | ＊ | 2 | 1後期 | 演習 | ○ | 43 |
| | | | 鍵盤演奏入門 | 溝口希久生 | ＊ | 1 | 1前期 | 演習 | ○ | 44 |
| | 子ども理解 | | 発達心理学 | 桑原義登 | ＊ | 2 | 1前期 | 講義 | ● | 45 |
| | | | 教育心理学 | 村上凡子 | ＊ | 1 | 1後期 | 演習 | ● | 46 |

| | | |
|---|---|---|
| 1年合計単位数 | 63 | 省令で定める基準単位数13単位（令元文科省令第6号 大学等における修学の支援に関する法律施行規則） |
| （うち、実務家教員＊による単位数） | 49 | |
| 学部内全学年（1～4年）合計単位数（2023年度） | 214 | |
| （うち、実務家教員＊による単位数）（2023年度） | 163 | |

| | |
|---|---|
| ● | 必修 |
| ○ | 選択必修 |
| △ | 選択 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 信愛教育Ⅰ | 大山輝光 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | カトリック精神を基盤とした豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指す科目である。聖書の内容を読み解くと共にキリスト教の行事に参加する中で、本学の建学の精神への理解を深める。また、キリスト教の愛と奉仕の精神や、一人ひとりを大切にする心を養う。 |
| 授業の目標 | 信愛教育がバックアップする愛と奉仕の道。カトリック精神の基盤である豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指すことによって本学の建学の精神を理解し体得する。自分自身の考えたことを他者と共有するための力と他者の心に心を傾ける傾聴力を養い、その能力を開発することをめざす。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | カトリック・ミッション大学「信愛」<br>建学の精神 | 8 | 聖書(旧約、新約)について |
| 2 | 信愛モットー「一つの心　一つの魂」 | 9 | 天地の創造、人間の創造 |
| 3 | 和歌山信愛の誕生<br>キリスト教と信愛 | 10 | エデンの園の生活　救い主の約束 |
| 4 | 信愛が大切にしてきたこと | 11 | マリアへの御告げ　クリスマス |
| 5 | 「神」の存在 | 12 | 少年イエス(私生活と公生活) |
| 6 | 「祈り」について | 13 | 聖母マリアとイエス |
| 7 | 「主の祈り」について | 14 | まとめ<br>前期の自分をふり返り聖書を味わう |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | (1)自分の考えをまとめ他者と共有・傾聴する取り組み　60%<br>(2)リアクションペーパー　20%<br>(3)積極的な受講態度　20% |
| 教科書 | 『聖書～新共同訳～〈NI44DC〉』 日本聖書協会 |
| 参考書 | 『込めて』 森田登志子(平成29年9月) |
| 授業外の学習方法 | 週 2 時間程度の自主的な学習が必要である。特に、日常生活や社会の動きについて、授業を通して考え、修得したまなざしでながめ分析すること。現代の人々・子どもたちの生活やいのちにかかわる出来事に対し、問題意識や提案を持てるよう努める。そのために、多様なメディアを通して現代社会についての情報を得るように心がけること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | いのちと倫理 | 小関彩子 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育者・保育者に必要な倫理観の涵養を目指す科目である。カトリック的生命倫理を背景に、人生の始まり（生）と終わり（死）について、具体的事例を交えながら考えを深めていく。戦争、殺戮、自殺、虐待、中絶、死刑、貧困など、現代社会における生命倫理の問題をキリスト教的視点から捉え直し、考察を深める中で、学生一人ひとりがひとの命と生きる意味を深く考え、自分なりの考えや意見を持つことを目指す。 |
| 授業の目標 | 教育者・保育者に必要な倫理観の涵養を目指すことをテーマとする。<br>現代社会における諸問題の複雑な諸相を理解し、それらをキリスト教的視点から捉え直す。また、参加者相互の議論に対して開かれた態度でもって臨み、多様な価値観を理解することを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | この授業の概要と授業方法<br>人間とは何か？ | 8 | 国際社会 |
| 2 | 生物としての人間 | 9 | 経済と人間 |
| 3 | 人格と人権 | 10 | 人生観の諸相 |
| 4 | 善と悪 | 11 | 世界観の諸相 |
| 5 | 他者 | 12 | 自由意志と行為 |
| 6 | 家族 | 13 | 生と死 |
| 7 | 地域と国家 | 14 | まとめ：もう一度、人間とは何か? |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 40%，中間レポート 30%，コメントシート 15%，授業と討論への積極的参加 15% |
| 教科書 | 『人間としての哲学』マガジンハウス(2019年9月) ガエタノ・コンプリ著 |
| 参考書 | 適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業前に、次回の授業に関する教科書の箇所を熟読しておくこと。(週 2 時間程度)<br>授業後は、授業内容を振り返って小課題(コメントシート)を提出すること。(週 2 時間程度) |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | ボランティア実習 | 森﨑陽子<br>宮定　章 | 1 | 必修 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 学外でのボランティア活動を通じて、キリスト教の愛と奉仕の精神の体得を目指す科目である。教育・保育・福祉現場や地域の活動にボランティアとして参加することで、社会に貢献する態度を身につける。また、世代を越えた交流を通じてコミュニケーション力を養うと共に、奉仕や支援を通じて周囲の信頼を得、協力態勢を構築する等、支援型リーダーの在り方を学ぶ。 |
| 授業の目標 | ・キリスト教の愛と奉仕の精神を体得する。<br>・社会に貢献する態度を身につける。<br>・世代を越えた交流を通じてコミュニケーション力を養う。 |

**授業のテーマ及び内容**

授業計画

**事前指導と準備（6時間）**

① ボランティア活動の意義・目的などを学ぶ。
② 活動への参加の方法や流れを把握する。
③ 活動先の活動を研究する。
④ 活動へ参加する際の留意事項について理解する。

**ボランティア活動（20時間）**

① 和歌山県・市、教育委員会等と連携して大学が紹介する活動ないしその他広く募集されている活動から、学生自身がボランティア先を決め、活動を開始する。
② 活動先で、教育・福祉施設やイベントスタッフの活動補助、乳幼児・児童・障害者等との交流、介護、活動支援や学習補助等のボランティア活動を20時間以上行う。
③ 活動内容を、振り返りシートにまとめて提出する。

**事後指導（4時間）**

① 参加した活動を振り返り、レポートを作成する。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | ボランティア活動振り返りシート 60%，事前学習・事後学習内のレポート 40% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『ボランティアへの招待』岩波書店(平成 13 年 3 月) 岩波書店編集部 |
| 授業外の学習方法 | ボランティア実習先について調べ、理解を深める。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 日本国憲法 | 奥野 庸己 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 日本国憲法が規定する「基本的人権」についての体系と内容について学習するとともに、国民の基本的人権を保障するための統治機構（国会、内閣、裁判所、地方自治）について学習する。憲法の基本原理を理解したうえで、日本国憲法の各規定を見ていき、それら基本原理が日本国憲法の中でどのように反映され、どのように保障されているか明らかにする。憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。 |
| 授業の目標 | 日常生活において、憲法を特に意識して生活している者は少ないことと思われる。そこで、憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 憲法総論：一般的な憲法の歴史と基本原理をふまえ、日本国憲法の成立過程・構造・基本原理を学ぶ。 | 8 | 基本的人権の保障7：生存権、教育を受ける権利などの社会権について意義・内容を学ぶ。 |
| 2 | 基本的人権の保障 1：人権の歴史、類型、保障の範囲など人権に関して概要を学ぶ。 | 9 | 基本的人権の保障8：適正手続きの保障などの人身の自由、国務請求権、参政権についてその 意義・内容について学ぶ。 |
| 3 | 基本的人権の保障 2：包括的な人権とされる幸福追求権と法の下の平等についてどのように保障されているか学ぶ。 | 10 | 統治1：日本国憲法における国の政治システムである統治の基本原理について学ぶ。 |
| 4 | 基本的人権の保障 3：精神的自由権の総論と精神的自由権のうち、思想・良心の自由について学ぶ。 | 11 | 統治 2：三権のうち立法権の意味・概念、及びそれを担う国会の地位、組織、権能について学ぶ。 |
| 5 | 基本的人権の保障 4：精神的自由権のうち、信教の自由、学問の自由について学ぶ。 | 12 | 統治 3：三権のうち行政権の意味・概念、及びそれを担う内閣の組織と権能、その他制度について学ぶ。 |
| 6 | 基本的人権の保障 5：表現の自由及び関連する事項について、その意義や重要性について学ぶ。 | 13 | 統治 4：三権のうち司法権の意味・概念、それを担う裁判所の組織と特質、違憲審査制度について学ぶ。 |
| 7 | 基本的人権の保障 6：職業選択の自由、居住移転の自由、財産権などの経済的自由権の内容・意義について学ぶ。 | 14 | 統治 5：税や予算といった国家の財政と地方自治制度の内容、問題点について学ぶ。これまでの授業内容を振り返る。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 80%，授業へ取り組む姿勢・態度 20% |
| 教科書 | 適宜、必要に応じ資料、レジュメ等を配布する。 |
| 参考書 | 『日本国憲法論第2版』成文堂 佐藤幸治著<br>『憲法主義』PHP 研究所 南野森著<br>『憲法ってなんだろう』奈良弁護士会作成<br>その他、適宜資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業の復習を週 4 時間程度行う。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 弁護士実務に就いている者が全授業を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必･選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 健康教育 | 松本 健治 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 大学生として理解しておきたい健康（保健）科学の基礎を学ぶ科目である。わが国の世界最長寿国への歩みと健康作りの３要素、運動、栄養、休養などのライフスタイルのあり方について理解した上で、健康的な生活習慣を身に付けたり、健康に好ましい環境をつくるための知識や能力を高め、将来、教育専門職としての基礎的な教養が身に付くことを目的とする。 |
| 授業の目標 | 健康教育の考え方や健康づくりの方法論を体系的に理解することができ、教育に関する専門職としての意識をもち、将来の地域・職業生活に活かすことを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康とは、健康教育とヘルスプロモーション | 8 | 健康寿命を延ばす生活習慣３<br>（心の健康、休養指針とストレス対策） |
| 2 | 健康寿命を延ばすための生活習慣病、メタボリック症候群の予防とライフスタイルのあり方 | 9 | 健康寿命を延ばす生活習慣４<br>（スポーツのあり方） |
| 3 | 行動科学、健康行動・危険行動、行動を理解する | 10 | 健康寿命を延ばす生活習慣５<br>（生活活動強度と指数） |
| 4 | 健康教育と行動変容理論 | 11 | 危険行動理論・喫煙、飲酒、薬物乱用 |
| 5 | 自己効力感を高めるライフスキル、生きる力、EQ | 12 | 疫学の基礎理論・感染症の予防 |
| 6 | 健康寿命を延ばす生活習慣１<br>（運動所要量と運動指針） | 13 | 安全教育、潜在危険論とドミノ理論 |
| 7 | 健康寿命を延ばす生活習慣２<br>（栄養所要量と食生活指針） | 14 | サクセスフルエイジングとまとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 80%， 出席状況とミニレポートを含む受講態度 20% |
| 教科書 | 事前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。 |
| 参考書 | 『国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)及び適宜、資料を紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 週４時間程度の復習を行うこと。<br>試験対策の時間を確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １・４ | 前期 | 情報処理論 | 大山輝光 | ２ | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | コンピュータを活用して行われる情報処理の基礎を学ぶ科目である。情報社会の光と影、情報機器の安全な取り扱い、インターネットを用いた情報収集など、情報を活用するために求められる基礎的な知識を身につける。必要に応じて演習を取り入れながら学習することで、社会生活を支える基盤となっている情報処理技術について理解を深める。 |
| 授業の目標 | コンピュータを活用することでどのようなことが可能になるのかを理解する。コンピュータの利点と欠点、情報機器の安全な取り扱い、インターネットの光と影など、情報を活用するために求められる基礎的な知識と技術を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（受講に関する注意、授業用コンピュータの利用方法） | 8 | 画像データの種類<br>画像を扱うアプリケーション |
| 2 | 情報の収集と活用<br>インターネットの光と影 | 9 | コンピュータの動作原理と情報処理の流れ |
| 3 | ファイルの種類と取り扱い<br>アナログ情報とデジタル情報 | 10 | コンピュータを構成するハードウェアの種類と特徴 |
| 4 | 情報の単位ビットとバイト<br>ビット数と情報の大きさ | 11 | 出力装置の種類と特徴（OCR や OMR、ディスプレイやプリンタ） |
| 5 | 2進数と16進数<br>文字コード | 12 | 様々な周辺機器とインタフェース<br>情報機器の安全な取り扱い |
| 6 | 文字データと画像データの基礎<br>基数変換 | 13 | ソフトウェアの種類と役割 |
| 7 | 論理演算<br>コンピュータの性能と歴史 | 14 | 情報通信ネットワークの基礎<br>ファイル管理 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 30%， 課題への取り組み状況およびその内容 50%，<br>積極的な受講態度 20% を総合して評価する。 |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。<br>（『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他） |
| 参考書 | 『文科系のためのコンピュータリテラシ』サイエンス社 草薙信照 他<br>『小学生からはじめるわくわくプログラミング』日経BP社 阿部和広 監修 |
| 授業外の学習方法 | 事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。パソコンやスマートフォン等を積極的に活用し、週 4 時間程度の自主的な学習が必要である。試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 国際教育論 | 相川 真佐夫 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | グローバル社会において異文化への柔軟な対応を育成する国際理解教育の基礎的理論と実践を学ぶ科目である。文化の特質や、背景をなす社会や国際教育の歴史及び思想に触れながら、異文化を深く理解するための教育実践をおこなうには何が必要かを考える。教育者としての視点から、相互理解の基準となる自文化の様相、所与の環境への適応として形成された歴史を学び、文化を等差優劣の視点でなく、自他に内在する存在として捉える。国際環境における公正な思考と判断力を培うことを目的とする。 |
| 授業の目標 | 国境を越えて行き交う人の接触が多い社会では、交流ばかりではなく摩擦も起こる。現代社会に生きる子どもたちが、異文化間理解力を身につけ、摩擦の問題解決力を育むことができるよう、教育者としても異文化理解力を身につけ、教育の実践を行うことができるようになる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 国際理解教育概説<br>国際理解教育とは何か、何故必要か | 8 | 国際理解教育の実践：小学校の実践<br>小学校でのプロジェクト型国際理解教育 |
| 2 | 国際理解教育概説<br>国際比較で見る日本の教育の現場と課題 | 9 | 国際理解教育の実践：小学校の実践<br>小学校でのワークショップ型国際理解教育 |
| 3 | 国際理解教育の歩み<br>「総合学習の時間」と国際理解教育 | 10 | 国際理解教育の実践：小学校の実践<br>小学校での地域連携型国際理解教育 |
| 4 | 国際理解教育の歩み<br>外国語教育と国際理解教育 | 11 | 国際理解教育の実践：中学校の実践<br>中学校でのプロジェクト型国際理解教育 |
| 5 | 国際理解教育の歩み<br>諸外国の国際理解教育 | 12 | 国際理解教育の実践：高等学校の実践<br>高等学校でのプロジェクト型国際理解教育 |
| 6 | 国際理解教育のカリキュラム<br>国際理解教育とクロスカリキュラム | 13 | 国際理解教育の国際動向<br>OECD: Education at a Glance |
| 7 | 国際理解教育の実践<br>国際理解教育と教育現場での実践 | 14 | 国際理解教育の国際動向<br>国際理解教育の総括・議 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 60%， 発表 40% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら』 開発教育協会<br>『国際理解教育ハンドブック:グローバル・シティズンシップを育む』明石書店 日本国際理解教育学会<br>『グローバル時代の国際理解教育―実践と理論をつなぐ―』明石書店 日本国際理解教育学会<br>『生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践』メディア総合研究所(平成 27 年 8 月) 石森広美 |
| 授業外の学習方法 | 授業の配布資料を用いて毎週 4 時間程度の復習を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 子どもと遊び | 大橋　眞由美 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 大人が提供する子どものための文化「児童文化」「児童文化財」のみならず、子どもが主体となる子どもの文化「子ども文化」の概要と実践を学ぶ。特に「子ども文化」の中心をなす遊びは、人間関係や環境、言葉や表現、健康などの学びを子どもに提供する。そこには「児童文化財」も関与することから、その扱い方や作り方を体験し、子どもの言語表現や身体表現を導き出すための方法や技術を修得する。これらを通して、遊びの中の学びの意味と可能性を探求し、子ども理解を深め、それらが子どもの発達・発育に及ぼす社会的意義を考える。 |
| 授業の目標 | 子ども理解を深め、子どもの言語表現や身体表現を導き出すための指導方法を修得する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「子どもと遊び」を学ぶことの意義 | 8 | 子どもとおもちゃ |
| 2 | 子どもにとっての遊びの意味 | 9 | 人形劇の様々 |
| 3 | 社会を反映する子どもの遊び | 10 | ペープサートを作る |
| 4 | 子ども・絵本・大人の関係性 | 11 | パペット人形などを作る |
| 5 | 子どもの視点で絵本を読む | 12 | 子どもの発達と児童文化・児童文化財 |
| 6 | 絵本の「読み聞かせ」（1）絵本を読み合う | 13 | 子どもと生育儀礼・年中行事 |
| 7 | 絵本の「読み聞かせ」（2）絵本を楽しむ | 14 | 子どもと祭り・伝承遊び |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%，毎授業時の小レポート 30%，作品 20% |
| 教科書 | 『新版 児童文化』ななみ書房(2016) 皆川美恵子ほか編著 |
| 参考書 | 『演習 児童文化』萌文書林(2010) 小川清美編<br>『ことばと表現力を育む 児童文化』萌文書林(2013) 川勝泰介ほか編著<br>『ペープサート 大百科』ひかりのくに(2014) 阿部惠著 |
| 授業外の学習方法 | 次回の教科書内容を事前に読んでおくこと、子どもの遊びを観察すること、学んだ内容から独自の課題を見出すこと、および試験対策の時間も確保すること。（週 4 時間程度） |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 日本語表現 | 宍戸寛昌 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 現代を生きる教養人として必要な、日本語のコミュニケーション力を身につける授業である。「読む／書く」「聞く／話す」ことを主軸とし、目的や条件に応じた音声・文字表現を反復しながら行う演習と、基礎的な音声・文字表現のルールを講義形式で確認する。また、敬語の使い方などの基本的マナーを学習し、生活の基本的な場面においてコミュニケーションする力を身につける。 |
| 授業の目標 | 実用的な文章の書き方、自己を見つめる目を耕し人間性を豊かにする文章の書き方、実用的な音声表現の仕方など、豊かな自己表現の方法を習得すると共に、教養人として必要なコミュニケーション力を身に付けることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自己紹介の仕方:具体的事柄を入れ自己紹介する。 | 8 | アンケートの基礎:アンケートの方法を知り、行う。 |
| 2 | ノートの取り方:授業を再現できるノートをつくる。 | 9 | プレゼンテーションの方法:効果的な方法を知る。 |
| 3 | 敬語の基礎:敬語の基本的な種類を知り、使う。 | 10 | レポートの書き方:レポートの手順や体裁を知る。 |
| 4 | メールの書き方:依頼やお礼のメールを書く。 | 11 | 小論文の書き方:フォーマットを知り、小論文を書く。 |
| 5 | 手紙の書き方:基本的な書式とマナーを知る。 | 12 | 協働的な話し合い:グループミーティングを行う。 |
| 6 | 説明の方法:説明の順序を知り、説明し合う。 | 13 | 文学的文章の書き方:随筆等文学的文章を書く。 |
| 7 | 調べ方の基礎:図書館や Web での調べ方を知る。 | 14 | 豊かな音声表現:音読、朗読、群読を行う。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 20%, 課題レポート 40%, 演習 40% |
| 教科書 | 『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』三省堂(2008年8月) 橋本 修 他編著 |
| 参考書 | 適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 次回の授業で扱う教科書の箇所を、事前に 30 分間程度を使って熟読しておくこと。<br>前回の授業で扱った内容を、30 分間程度を使って参照可能な形にまとめておくこと。<br>課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 英語コミュニケーションⅠ | 辻伸幸 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 高校までに修得した英語力を根底として、無理なく英文法の概念を学び直し、日常的な語彙や表現を理解した上で、自分の意見を英語で発信できるレベルの英語運用力の習得を目指す授業である。ペアワークやグループワークを取り入れたり、クイズやワークシート、視聴覚教材など多様な媒体を使用したりして、学習者が楽しく興味をもって学び、英語が使える満足感を実感できるようにする。また、発音やリズムに特化したワークにも挑戦し、英語での発信力を強化する。 |
| 授業の目標 | 1 社会生活における英語の語彙や表現を理解する。<br>2 社会生活における英語での「聞くこと」「読むこと」の力を特に高める。<br>3 主体的で対話的に学び英語を用いたコミュニケーション力を高める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 英語の学び方と自身の英語力の把握 | 8 | Doing Business Online |
| 2 | Traveling | 9 | Housing |
| 3 | Daily Life & Shopping | 10 | Making Deals & Contracts |
| 4 | At Restaurants | 11 | Public Service |
| 5 | Job Hunting | 12 | Banking & Finance |
| 6 | At the Office 1（職場関連語句、表現） | 13 | At Seminars & Workshops |
| 7 | At the Office 2（場面や状況説明、スピーチ） | 14 | News & Media と事後テスト |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 40%，課題レポート 40%，授業中の取り組み 20% |
| 教科書 | 『ILLUMIINATING THE PATH TO THE TOEIC TOEIC L&R TEST』金星堂 植木美千子・Brent Cotsworth・山岡浩一・竹内理著<br>『英文法授業ノート』ぺりかん社 北村 孝一郎著 |
| 参考書 | なし |
| 授業外の学習方法 | 分からない語彙は事前に予習として調べておく。 毎回実施する確認テストの準備学習に取り組む。課題や予習・復習は 1 週間に 2 時間程度行う。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 英語コミュニケーションⅡ | 辻伸幸 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 英語コミュニケーションⅠで修得した英語運用力を基に小学校現場や幼児教育等の現場における英語でのコミュニケーション力の向上を目指す科目である。特に、小学校や幼稚園等で必要となる実践的な場面・内容に焦点を当てることによって、学ぶ必然性を生み出し、高い学習意欲を保ちながら無理なく英語でのコミュニケーション力を養う。他教科を英語で学ぶ CLIL（内容言語統合型学習）的内容や日本の教育、文化、観光等の紹介等も含める。ペアワークやグループワークなどで協働学習やタスク学習を導入して、主体的で対話的な学びを展開する。 |
| 授業の目標 | 1 小学校教育における英語の語彙や表現を理解する。<br>2 小学校教育における英語でのコミュニケーション力を高める。<br>3 主体的で対話的に学び英語を用いたコミュニケーション力を高める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | ALT の南小学校への初訪問 | 8 | 授業を終える |
| 2 | ALT とのコミュニケーション | 9 | 幼稚園でのアクティビティ |
| 3 | 学校給食 | 10 | アサガオの栽培とチョウの一生 |
| 4 | 子供の遊び | 11 | おにぎりとカレーの作り方 |
| 5 | 最初の授業 | 12 | タウンマップを作ろう |
| 6 | 授業のスタート | 13 | 日本文化の紹介 |
| 7 | 授業の展開 | 14 | 卒業 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 40%，課題レポート 40%，授業中の取り組み 20% |
| 教科書 | 『Hello, English-English for Teachers of Children』成美堂<br>相羽千州子 藤原真知子 Brian Byrd/Jason Barrows 著<br>『英文法授業ノート』 ぺりかん社　北村 孝一郎著 |
| 参考書 | なし |
| 授業外の学習方法 | 分からない語彙は事前に予習として調べておく。 毎回実施する確認テストの準備学習に取り組む。課題や予習・復習は 1 週間に 2 時間程度行う。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 情報処理演習Ⅰ | 大山輝光 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 情報機器を安全かつ有効に活用するための基礎を学習する科目である。パソコン操作の基本的な操作方法を始め、Web ブラウザや電子メールの利用、インターネットを活用した情報検索と情報倫理、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどの基本的なソフトウェアの使い方など、大学で用いられる情報機器を使用するための知識と技能を身につける。 |
| 授業の目標 | パソコンの実践的な使い方や電子メール、インターネットの活用方法、情報リテラシーを学ぶことにより、コンピュータを安全かつ有効に利用するための知識と技術を習得することを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（受講に関する注意、授業用コンピュータの利用方法） | 8 | プレゼンテーションソフトによるスライド作成、スライドショー |
| 2 | ファイル操作（ファイルの種類、拡張子、サイズ）<br>ワープロソフトによる文書作成<br>コンピュータの基本操作とインターネットを利用した情報検索、電子メールの使い方 | 9 | 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの統合的な利用 |
| 3 | ワープロソフトの活用（図表、ワードアート、様々な書式、テンプレートの利用）<br>情報のデジタル化（ペイントとサウンドレコーダの利用） | 10 | 効果的なプレゼンテーション（アニメーション、画面切り替え効果、発表者ツール） |
| 4 | 表計算ソフトによるデータ処理の基礎 | 11 | フォトアルバムとプレゼンテーションソフトによるビデオ作成 |
| 5 | 表計算ソフトの活用①（図形やグラフの効果的な使い方） | 12 | 画像の加工・合成 |
| 6 | 表計算ソフトの活用②（関数の利用） | 13 | Webページの作成、テキストエディタの利用 |
| 7 | 表計算ソフトにおるデータの集計と分析 | 14 | HTML によるプログラミング入門 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の授業中に提示する課題への取り組み状況およびその内容 30%，<br>課題レポート 30%， 実技試験 30%， 積極的な受講態度 10% を総合して評価する。 |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。<br>（『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他） |
| 参考書 | 『文科系のためのコンピュータリテラシ』サイエンス社　社草薙信照 他<br>『例題30＋演習問題70でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキスト』技術評論社　定平誠 |
| 授業外の学習方法 | 事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。多目的コンピュータ室の機器を積極的に活用し、週 1 時間程度の自主的な学習が必要である。レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | スポーツと健康Ⅰ（講義） | 森﨑陽子<br>原まなみ | 1 | 必修 | 講義 |
| 授業の概要 | | 保健体育の基礎理論について学ぶ科目である。人間の体の仕組みと健康との関連、文化や娯楽（レクリエーション運動）としての価値、運動・スポーツの歴史・使命・仕組み等の制度を理解し、その魅力や楽しさを知るとともに生涯体育の意義を学ぶ。更に、各種競技についてのルールや規則への理解を通じてスポーツへの関心を高め、積極的に生涯体育に取り組めるように繋げていく。 | | | | |
| 授業の目標 | | 生涯を通しての「健康づくり」のために、身体の仕組みと働きを理解することができる。運動を通した「健康づくり」に対する意識を高め、具体的な対策をたて取り組むことができる。スポーツの魅力や楽しさを知り、積極的に生涯体育に取り組むことができる。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生涯スポーツ基本法の理念と生涯体育 | 8 | 体の仕組みと健康 (3) 呼吸・循環器の構造と機能、スポーツとの関わりを考える。 |
| 2 | 健康と体力の定義 (1)「健康」の定義を理解する。 | 9 | 体の仕組みと健康 (4) エネルギー代謝と運動の関係を理解し、スポーツ時のエネルギー代謝の算出方法を学ぶ。 |
| 3 | 健康と体力の定義 (2)「健康」と「体力」の関係を学びスポーツの必要性を理解する。 | 10 | 体の仕組みと健康 (5) 運動と脳・神経系の機能との関係を理解し、精神活動を支えるスポーツの効果について考える。 |
| 4 | 人間の形態の発育と機能の発達との関係 (1) 幼児期から青年期に適切な運動方法を学ぶ。 | 11 | 身近なスポーツと健康 (1) 個人スポーツ競技とそのルールについて学ぶ。 |
| 5 | 人間の形態の発育と機能の発達との関係 (2) 老年期にむけて適切な運動方法を学ぶ。 | 12 | 身近なスポーツと健康 (2) 集団スポーツ競技とそのルールについて学ぶ。 |
| 6 | 体の仕組みと健康 (1) 骨格系の仕組みと働き、運動との関係を理解し骨の健康を考える。 | 13 | レクリエーションとしての運動：文化や娯楽としてのスポーツの意義を考える。 |
| 7 | 体の仕組みと健康 (2) 骨格筋の種類と仕組み、筋収縮の原理を理解し、筋力トレーニングと健康との関わりを考える。 | 14 | 運動・スポーツの歴史・制度：オリンピックを中心に運動・スポーツ普及の歴史と制度について学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 80%，小テスト・ノート 20% |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『大学生のための最新 健康・スポーツ科学』八千代出版 日本大学文理学部体育学研究室編 |
| 授業外の学習方法 | 週2時間程度の小テスト対策及び予習・復習を行う。定期試験対策の時間を確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | スポーツと健康Ⅱ（実技） | 森﨑陽子<br>原まなみ | 1 | 必修 | 実験・実習 |
| 授業の概要 | | 体の仕組みと運動機能の関連を学びながら基礎体力づくり運動を体験し、グループ活動の中で主体的に学びあい協力しながら運動する喜びを味わう。また自ら考案した体力トレーニングを実施することで健康管理法を身につける。 | | | | |
| 授業の目標 | | 「動きの原理」を学びより高い運動技術能力を養う中で「動くことの楽しさ」を体感すると共に、生涯体育の意義を理解し「活動意欲」「コミュニケーション力」の向上を図る。また、生涯を通しての「健康づくり」の為の健康管理法を身につける。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション　生涯体育の意義、<br>即時反応運動と仲間作り | 8 | 「バドミントン」⑵ チーム作りと役割分担 |
| 2 | 基礎体力作り⑴ 筋力について | 9 | 「バドミントン」⑶ ダブルスを中心とする<br>基礎練習 |
| 3 | 基礎体力作り⑵ 瞬発力について | 10 | 「バドミントン」⑷ ダブルスを中心とするルールの習得 |
| 4 | 基礎体力作り⑶ 調整力について | 11 | 「バドミントン」⑸ 実践練習と反省会 |
| 5 | 基礎体力作り⑷ 持久力について | 12 | 「バドミントン」⑹ 団体戦（リーグ戦）と反省会 |
| 6 | 新体力テスト測定と判定<br>各自のトレーニング対策 | 13 | 「バドミントン」⑺ 団体戦（リーグ戦）と表彰式 |
| 7 | 「バドミントン」⑴ バドミントン競技の動きの原理を考える。 | 14 | 「バドミントン」⑻ まとめ<br>夏期休暇中の体力作り課題 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | スポーツと健康Ⅱ（実技） | 森﨑陽子<br>原まなみ | 1 | 必修 | 実験・実習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 基礎体力づくり (5) 即時反応運動・縄跳び課題 | 22 | 「サッカー」(3) 実践練習と反省会 |
| 16 | 「ソフトバレーボールとバレーボール」(1)<br>バレーボール競技の動きの原理を考える　基本練習 | 23 | 「サッカー」(4) 試合　まとめ |
| 17 | 「ソフトバレーボールとバレーボール」(2)<br>技術レベルに分けて実践練習 | 24 | 「バスケットボール」(1) バスケットボール競技の動きの原理を考える　基本練習 |
| 18 | 「ソフトバレーボールとバレーボール」(3)<br>技術レベルに分けて試合 | 25 | 「バスケットボール」(2) チーム作りと役割分担<br>縄跳び測定 |
| 19 | 「ソフトバレーボールとバレーボール」(4)<br>試合　まとめ | 26 | 「バスケットボール」(3) 実践練習と反省会 |
| 20 | 「サッカー」(1) サッカー競技の動きの原理を考える<br>基本練習 | 27 | 「バスケットボール」(4) 試合 |
| 21 | 「サッカー」(2) チーム作りと役割分担 | 28 | 「バスケットボール」(5) 試合　後期授業のまとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 授業ノート 20%,　競技技術 70%,　自主トレーニングの記録レポート 10% |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『大学生のための最新 健康・スポーツ科学』八千代出版 日本大学文理学部体育学研究室編 |
| 授業外の学習方法 | 毎時間の授業ノートを作成し反省と改善方法を検討する。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 教職キャリアデザイン | 森﨑陽子 | 1 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教員となる夢を実現し、自らが持つ能力を活かすための「大学生活のキャリアデザイン」の形成を進めていく科目である。大学生活や教員としての職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していく力を身につける。自身の現状と能力を再認識し、「ありたい将来像について」を考慮しながら、自己を客観視する視点を養成し、自己理解を深めるとともに、大学生活における学習活動（キャリアデザイン）の構築を図る。 |
| 授業の目標 | 現在の保育・教育現場の要請に応えられる、保育者・教育者の在るべき理想像を追及し目標とする。また自己解析を行い高い向上心を持ち目標に至るまでの道のりを自ら計画し、必要とされる保育者・教育者の基礎力・素養を体得していく。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>自らのキャリアを考えるにあたって | 8 | 教職基礎実習事前指導(幼保)3 |
| 2 | なぜ保育者・教育者を目指すのか | 9 | 保育者から学ぶ |
| 3 | 教職基礎実習事前指導(幼保)1 | 10 | 小学校教員から学ぶ |
| 4 | 教職基礎実習事前指導(小学校)1 | 11 | 任命権者から学ぶ |
| 5 | 教職基礎実習事前指導(小学校)2 | 12 | 公務員から学ぶ |
| 6 | 教職基礎実習事前指導(小学校)3 | 13 | 企業から学ぶ |
| 7 | 教職基礎実習事前指導(幼保)2 | 14 | 自らの生き方を考える |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 70%， 授業中の取り組み 30% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『教師になるには』一ツ橋書店 長瀬拓也編著<br>『キャリアデザイン入門(Ⅰ)基礎力編』 日経文庫 大久保幸夫著<br>『キャリアデザイン入門(Ⅱ)専門力編』 日経文庫 大久保幸夫著 |
| 授業外の学習方法 | 1 週間に 1～2 時間程度の予習や復習としての読書や課題等を行う。<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 教職基礎ゼミナール | 森﨑陽子　村上凡子<br>宮定　章　中村俊之<br>前島美保　原まなみ | 2 | 必修 | 演習 |
| 授業の概要 | | 教育者になるために必要な大学での学び方を修得するとともに、和歌山県の教育的問題を探求し、4年間の課題を見いだす科目である。10人程度の少人数に分かれ、大学での学びについてのオリエンテーション（図書館ガイダンス、情報機器の活用法などを含む）をはじめ、大学生として求められる講義や演習への参加姿勢、有効なノートの取り方や活用方法について学ぶ。また、和歌山県の幼児・初等教育における課題を探求し、レポートにまとめ発表することで、レポートの書き方やプレゼン方法など、情報共有を図る手法を身につける。さらに、ゼミ生間や担当教員との交流を通して、所属意識の涵養をねらう。 | | | | |
| 授業の目標 | | 到達目標は、1）文章作法、プレゼンテーションの方法等、学ぶための基本的な能力を身につけること、2）地域の教育の諸課題に関心をもち、その課題に関する文献資料やインターネット上の情報を主体的に収集し、的確に整理と解釈ができるようになること、3）収集した資料をもとに情報を要約し、わかりやすく情報提示をして発表する能力を身につけること、4）自分の意見を適切に表明し、また他者の意見を傾聴することにより、仲間や教員と対話による交流をすることである。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回　100 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 科目のねらい、到達目標、評価方法、進め方についての理解、自己目標の設定 | 8 | 現代における教育の諸課題―グローバルな視点、ローカルな視点の双方から― |
| 2 | 大学で学ぶことの意義と学ぶ方法 | 9 | アカデミック・スキルを磨く　③体験学習の報告書の作成 |
| 3 | 図書館の利用の実際／ICT 機器の活用方法：インターネットでの資料収集の仕方 | 10 | インターネット上で収集した資料の要約と考察 |
| 4 | ICT 機器の活用方法：インターネットでの資料収集の仕方／図書館の利用の実際 | 11 | 教育に関する問題意識に基づいた専門図書の選書と精読 |
| 5 | アカデミック・スキルを磨く　①論説文を読み解く | 12 | 発表の準備　配布資料の作成 |
| 6 | アカデミック・スキルを磨く　②文章作法の基本、正しい引用の仕方 | 13 | 問題意識に基づいたテーマ別発表 |
| 7 | 教育原論：教育史、教育思想の振り返り及び教育の目的と意義 | 14 | 前期まとめ－学んだことの振り返りと自己評価－ |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 教職基礎ゼミナール | 森﨑陽子　村上凡子<br>宮定　章　中村俊之<br>前島美保　原まなみ | 2 | 必修 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 和歌山における子どもの福祉と教育に関する全般的課題 | 22 | 論文作法ーテーマに基づいた論文・レポートの書き方 |
| 16 | 和歌山における幼児教育の課題 | 23 | 効果的なプレゼンテーション方法 |
| 17 | 和歌山における初等教育の課題 | 24 | 発表に向けた準備：配布資料の作成 |
| 18 | 問題意識と地域の教育課題に基づいた研究テーマの設定と資料収集 | 25 | 発表に向けた準備：プレゼンテーションデータの作成 |
| 19 | テーマに基づいたフィールドワーク | 26 | テーマ別学修成果の発表及び意見交流、相互評価① |
| 20 | フィールドワークの記録の作成 | 27 | テーマ別学修成果の発表及び意見交流、相互評価② |
| 21 | 資料の整理と焦点化 | 28 | 学修内容と成果に関する振り返り、今後の学びの展望 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 前期提出報告書 20%，発表 30%（前期、後期各１回），後期発表資料 40%，<br>最終レポート 10% |
| 教科書 | 『なせば成る！スタートアップセミナー学修マニュアル(三訂版)』山形大学出版会　なせば成る!編集委員会編<br>『なさねば成らぬ!「なせば成る！」使いこなしガイドブック(新版)』山形大学出版会　山形大学基盤教育院編 |
| 参考書 | 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館(2018年3月）文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省<br>『保育所保育指針＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月）厚生労働省<br>『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月）文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月）内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『本を読む本』講談社（1997年10月）M.J.アドラー＆C.V.ドーレン 著　外山滋比古・槇未知子 訳<br>『大学で勉強する方法』玉川大学出版部（1995年9月）A.W.コーンハウザー 著　山口栄一 訳 |
| 授業外の学習方法 | 週 2 時間程度、復習と課題に取り組むと共に、次回に行われる教科書の内容を予習しておくこと。レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 教職基礎実習 | 辻　伸幸<br>小田真弓<br>前島美保 | 1 | 必修 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校、幼稚園、認定こども園などでの現場体験／観察実習を通して、教育者・保育者の仕事理解を図る科目である。和歌山市内の公立小学校で２日、幼稚園または認定こども園で２日、和歌山信愛幼稚園で１日の現場体験・観察実習を中心とした実習を行う。教育現場の教員が働く姿や子どもの様子を観察し、教師の職務を理解すると共に、目指すべき将来の教育者・保育者像の具現化を図る。さらに、幼児・児童との関わりを通して、以降の学修課題を見いだし、免許・資格取得に向けて学修意欲向上を目指す。 |
| 授業の目標 | 実際の保育・教育現場での現場体験・観察実習を通して、教員や保育者が働く姿や子どもの様子を観察し、それらの職務を理解すると共に、魅力を発見し教育者・保育者を目指す意識を高める。 |

**授業のテーマ及び内容**

小学校での実習:2 日間
和歌山市内の公立小学校での現場体験・観察実習を通じて、教師の職務への理解を深める。
・小学校教員の魅力と仕事内容を知る。
・児童の見方、児童理解の方法を身につける。
・児童への働きかけ方を知る。
・学級運営・児童や教師の動きに関心を持つ。
・基本的な指導方法及び指導内容を学ぶ。

幼稚園または認定こども園、保育所での実習:3 日間
和歌山信愛幼稚園及び、和歌山市内の幼稚園または認定こども園、保育所での現場体験・観察実習を通じて、保育者の職務への理解を深める。
・幼稚園または認定こども園、保育所の役割・実態を知る。
・幼稚園教員、保育士の魅力と仕事内容を知る。
・幼稚園教員、保育士の幼児への関わりを学ぶ。
・乳幼児の見方、乳幼児理解の方法を身につける。
・学級運営・乳幼児と保育者の動きに関心を持つ。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 現場体験・観察実習記録　50%，レポート課題　50% |
| 教科書 | 適宜、資料を紹介する。 |
| 参考書 | 『教師になるには』一ツ橋書店　長瀬拓也編著<br>『幼稚園教師になるには』ぺりかん社　大豆生田啓友・木村明子著<br>『保育士になるには』ぺりかん社　金子恵美編著 |
| 授業外の学習方法 | 授業前と授業後のレポート課題に取り組む。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 小学校教員・幼稚園教員として実践してきた経験者が全ての回において、教育者・保育者の現場での基礎的実習を指導する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 世界の中の和歌山 | 福田　光男 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 和歌山の世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」と「和歌山の偉人」を主題に、世界に誇る和歌山の魅力を学び、世界に発信できる力を養う科目である。「高野山」「熊野三山」「吉野・大峯」の山岳霊場とそこに至る「高野山町石道」「熊野参詣道」「大峯奥駈道」の参詣道、そして、人々の信仰紀伊山地の大自然によって形成された「文化的景観」が世界遺産に選ばれた理由と意義を探る。また、濱口梧陵、華岡青州、南方熊楠、陸奥宗光等、和歌山が世界に誇る偉人の業績に触れ、彼らを輩出した和歌山の風土と歴史について考察する。「ひと・もの・こと」に焦点をあて、経済的にも文化的にも独自に繁栄してきた世界に誇る和歌山の素晴らしさについて検討していく。 |
| 授業の目標 | 和歌山の歴史・地理を中心に和歌山のもつ魅力について学ぶ。また、和歌山の「ひと・もの・こと・つながり」に焦点をあて、世界に輝く偉人を生んだ和歌山に誇りをもち世界に発信しようとする豊かな心を培う。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 若山・和歌山・WAKAYAMA・海と山と川について | 8 | 医学への貢献：華岡青州等について |
| 2 | 紀伊半島のひと・もの・ことについて・風土と歴史 | 9 | 和歌山から世界へⅠ：南方熊楠と松下幸之助について |
| 3 | 世界に開かれた紀伊湊について | 10 | 和歌山から世界へⅡ：陸奥宗光について |
| 4 | 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」・高野山について | 11 | 世界の中の和歌山・産業について |
| 5 | 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」・熊野三山と参詣道について | 12 | 世界の中の和歌山・自慢について：みどりとみずとみちについて |
| 6 | 世界の中の日本・根来衆と雑賀衆について | 13 | 和歌山から世界へ発信すること・つながりについて |
| 7 | 世界津波の日・濱口梧陵について | 14 | すばらしき和歌山・世界に誇る和歌山について |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 60%， 毎時間の振り返りシート 20%， 発表会の内容 20% |
| 教科書 | 『わかやま何でも帳』(和歌山県教育委員会) |
| 参考書 | 『和歌山県史』『和歌山市史』『小学校の各種の副読本』 |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われる内容について、教科書やその他の資料で調べておくこと。(週 4 時間程度)<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 歴史・文化と風土 | 小山 譽城 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 日本各地の風土と歴史・文化を概観するとともに、紀の国和歌山の歴史と文化について、古代から現代までの歴史上重要な出来事や文化財を事例にあげ、中央の歴史や文化とどのように関連するのか学習する。史料に基づいて史実を検証する態度を身につけると共に、和歌山の歴史と文化について幅広く理解を深める。和歌山の歴史と文化を学ぶことによって、郷土に誇りを持ち、周囲の人々にその特徴を語れるようになることを目標とする。さらに、他国の歴史と文化を尊重する姿勢と教養の修得を目指す。 |
| 授業の目標 | 紀の国の歴史や文化と風土について、中央の歴史上重要な出来事とどのように関連するのか考察する。また、紀の国は自然豊かな景観と多くの文化遺産に恵まれ、進取の精神に富んだ人々が多く、それらの人々が各地の産業に与えた影響などを事例に学習する。そのため、史(資)料に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史・文化と風土について幅広く理解を深める。紀の国の歴史と文化の重要事項を事例に学ぶことによって、自分の郷土の歴史や文化に関心と誇りを持ち、周囲の人々に地域の歴史を興味深く、わかりやすく語れるような人材を育成する。さらに、他国の歴史と文化をも尊重する姿勢と教養が身に付く授業を目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 各地域を理解するには、地域の歴史・文化・風土を理解することが重要であることを学習する。 | 8 | 豊臣秀吉の紀州攻めについて宣教師ルイス・フロイスの報告書と関連して学習する。 |
| 2 | 古代の紀の国とはどのような状況であったのか、住居遺跡や古墳などを中心に学習する。 | 9 | 城下町和歌山について、宣教師ムニョスがどのように称賛したか、当時の実情を学習する。 |
| 3 | 「万葉集」と紀の国について、有間皇子事件や天皇・上皇の和歌浦行幸などを学習する。 | 10 | 紀の国に徳川御三家が置かれた理由について学習する。 |
| 4 | 世界遺産に登録された熊野三山と熊野古道について学習する。 | 11 | 江戸時代の紀州藩の政治と文化について学習する。 |
| 5 | 世界遺産に登録された高野山や町石道について学習する。 | 12 | 幕末・維新期の紀州藩の政治的動向について学習する。 |
| 6 | 源平の合戦と熊野水軍、中世の武士団湯浅党について学習する。 | 13 | 近代の和歌山がどのようにして発展してきたか、その歴史について学習する。 |
| 7 | 織田信長の紀州攻めについて宣教師ルイス・フロイスの報告書と関連して学習する。 | 14 | 紀の国の歴史・文化と風土の授業内容を総括し、その特徴を考察する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 30% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『和歌山県謎解き散歩』新人物往来社文庫（平成 24 年 6 月）小山譽城 編著 |
| 授業外の学習方法 | 各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。（週 4 時間程度）<br>試験・小テスト対策、課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 高等学校や大学での授業経験、『和歌山県教育史』や和歌山・海南・御坊・田辺市などの市町村史の編纂に携わった実務経験・研究成果を授業で活用する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １・４ | 後期 | 郷土の自然 | 福田光男 | ２ | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 変化に富んだ海岸線や緑豊かな山々、清らかな河川、そしてそこに形成される多種多様な生態系など、和歌山の豊かな自然環境について学ぶ科目である。多様な生態系とそこに住む動植物について、その特徴や重要性を学ぶと共に、開発や乱獲、地域の荒廃、外来種の侵入など、生物多様性を脅かす危機と課題を、県が策定した『生物多様性和歌山戦略』を教材に学ぶ。 |
| 授業の目標 | 郷土、和歌山県は、気候が温暖で自然環境にも恵まれた住みよい土地である。全体として山地が大部分で多くの川が紀伊水道や太平洋へそそいでいる。明るい太陽、雨量も多く樹木や農作物の生育にも適している。そのような郷土和歌山の自然について学ぶこと、さらに自然の恩恵をうけている人々の生きざまについて問題解決学習的に学んでいく。この学びを通して、郷土和歌山の自然に親しみをもち、郷土を大切する心を培いたい。また、和歌山の素晴らしさを発信できる能力を養う。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 和歌山の海と山と川の不思議について | 8 | 和歌山の漆器つくりとうるしについて |
| 2 | 和歌山県の植物について | 9 | 和歌山のくじらとりについて |
| 3 | 和歌山県の動物について | 10 | 和歌山の備長炭について |
| 4 | 和歌山県の気象と自然災害について | 11 | 和歌山の桃について |
| 5 | 大昔の海の姿と土地の様子について | 12 | 和歌山の自然への探究について |
| 6 | 和歌山の農産物について学ぶ。 | 13 | 和歌山の自然の素晴らしさについて |
| 7 | 南部梅林とミツバチ | 14 | 和歌山の自然のすばらしさの発表会・まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験　60%,　毎時間の振り返りシート 20%,　発表の内容　20% |
| 教科書 | 『わかやま何でも帳』(和歌山県教育委員会) |
| 参考書 | 『和歌山県史』『和歌山市史』『各市町村副読本』 |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われる内容・問いについて、教科書やその他の資料等で調べておく。(週 4 時間程度)試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 地域連携フィールド学習 | 宮定 章<br>千森督子 | 1 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 地域の文化や特性を地域と連携したフィールド学習で見いだす科目である。和歌山県日高川町と連携し、実習を現地で行う。現地調査や文化体験、地域住民との交流を通して豊かな自然と、歴史・生活文化が織りなす郷土の魅力を再発見するとともに、少子高齢化に伴う過疎の現状を認識し、地域への愛情と地域課題解決に向けた熱意を育む。さらに、地域住民との交流を通して、多様な世代と良好な関係を築く、コミュニケーション力の育成を目指す。 |
| 授業の目標 | フィールド(実社会の現場)での調査や地域住民との交流、文化体験を通して、地域の文化や特性、魅力が発見でき、地域課題解決に向けた熱意が育める。また、多様な世代と良好な関係を築け、コミュニケーション力育成を目標とする。 |

**授業のテーマ及び内容**

授業計画
1.事前学習(6 時間)
　和歌山県の地域文化や地域特性、抱える地域課題について学ぶ
　フィールド調査地の地域文化や地域特性、抱える地域課題について学ぶ
　実習内容の検討、準備

2.フィールドでの実習(20 時間)
　現地視察、現地調査、住民との交流、文化体験

3.事後学習(4 時間)
　調査成果の整理、考察、まとめ、レポート作成

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 60%, 積極的な実習態度 40% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する |
| 参考書 | 『フィールドワーク事始め―出会い、発見し、考える経験への誘い』御茶の水書房(2016 年 4 月) 小馬徹<br>『SDGsの実践 自治体・地域活性化編』学校法人先端教育機構大学院大学出版部(2019 年 8 月) 村上周三・遠藤健太郎他 |
| 授業外の学習方法 | 地域に関する書籍や資料を学習し、抱える地域課題についても理解しておく。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 教職論 | 木本毅 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教職の意義及び教員の役割・職務内容・研修・服務等について学ぶ。子どもの成長に果たす教師の役割と倫理、制度的位置づけ、教職に必要な資質と能力、理想の教職観、職務の具体的内容、教師の仕事の実際、指導法と学習理論、学校運営の理論および就学前教育について学ぶ。また、教職・保育職への進路選択を学ぶ。 |
| 授業の目標 | 学校教育及び就学前教育・保育について、教職・保育職の社会的・歴史的意義と役割及びその職務の内容・あり方、職務上・身分上の義務さらに研修の意義、教員・保育士の養成と進路、校（園）内外の連携する教育・保育の在り方等について理解を深める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人類と教育・保育の果たす役割と学校・保育の誕生。 | 8 | 学習理論②(学習動機論―失敗・達成と原因帰属) |
| 2 | 教育・保育の歴史的・社会的意義と役割。 | 9 | 学習理論③(学習動機論―学習意欲の授業論) |
| 3 | 教員・保育士の職務①(学級経営、学習指導、道徳) | 10 | わかる・楽しい授業・学習・保育法のストラテジー。 |
| 4 | 教員・保育士の職務②(学級経営、生徒指導、養護) | 11 | 教職・保育職の養成と研修・力量形成とその進路。 |
| 5 | 教員・保育士の職務③(特別活動・行事、人づくり) | 12 | 学校・幼稚園・保育所の運営(チームと地域連携) |
| 6 | 指導法概論(よい授業・よい保育法の在り方) | 13 | 特別支援教育・障害児教育の理論と実際。 |
| 7 | 学習理論①(教育心理学―行動・認知主義の理論) | 14 | 学校教育、幼保・こども園の教育の現状と課題。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%, 確認小テスト(2 回) 35%,<br>授業への取り組みの姿勢(発表、課題レポート) 15% |
| 教科書 | 『最新教職論』ウイング(令和 3 年) 木本毅著 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月)<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業の復習及び予習、指示された課題・レポートの作成。(週 4 時間程度)<br>定期試験および確認小テスト（2回）のための自宅学習時間も十分確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者がすべての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 教育原理 | 木本　毅 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育の理念並びに教育に関する歴史、思想、制度、業績等を学ぶ科目である。教育という営みを思想、哲学、業績、人物から学問的にとらえ検証する。教育の意味、歴史、近代学校制度の成立、現代学校教育の状況と課題、教育課程、教授法等を学問的に検証する。さらに、儒教価値観に則る我が国の教育的価値観の高さについても検証する。 |
| 授業の目標 | 教育という営みの本質として「子どもの発達を励ます」という視点を身に着けるために、具体的事例（子どもの姿や学校教育の現状）と結びつけ理解を深めることを目指す。そのため、教育現場の映像素材を随時活用する。同時に教育を支える教育思想や教育制度の現状、歴史についての基本的事項を学ぶ。また学校教育だけでなく、地域の教育にも視野を広めることが教員の資質として大切と考え、社会教育、生涯教育の分野の学習も進める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育学の意義及び教育の本質と目標：教育を研究する教育学の意義と方法を学ぶ。さらに、教育の本質である「人間が学び発達する」ということの意味を、議論を通して理解する。 | 7 | 教育の歴史と制度：近代国家としての教育制度の整備の歴史を解説し、諸外国と日本の教育制度の特徴を理解する。また、「個人の発達」に視点を置いた教育のとらえ方と、「社会の存続発展」に視点を置いた教育のとらえ方の相克、調和についても考察する。 |
| 2 | 人間の発達段階と教育：誕生から成人への発達する各時期の特徴を理解し、人間発達のメカニズムを学ぶ。人類の発達の特性を動物の発達との比較で原理的に理解する。発達理解の歴史にもふれ、「通常化された早産」などの意味も理解する。 | 8 | 教育の思想と学校の役割Ⅰ：「学校教育の祖」と言われるコメニウスの思想と背景を解説し、学校教育を支える教育内容・方法の思想について知る。その上で、現在の学校の教科教育の意味や、道徳教育の意味について理解を深める。 |
| 3 | 人類と教育の歴史：教育の歴史を人類の歴史と結びつけて大きく理解する。人類の発達と個人の発達を重ね合わせて理解し、二足歩行の成立、手という存在の出現、脳の発達、言語の獲得、文字の発明などをたどり、発達についての理解を深める。 | 9 | 教育の思想と学校の役割Ⅱ：ヘルバルトの「人格陶冶」の思想を解説し、学校教育の管理、教授、訓育という分野分けを知り、それぞれの関係性を理解する。特に道徳性の育成と知識の獲得の関連性の理解に注目する。 |
| 4 | 発達と言語：人間の特性としての言語をとりあげ、言語の獲得が人間の発達に果たす大きな役割について理解する。言語と思考についてのヴィゴツキーの論なども解説する。 | 10 | 教育の思想と学校の役割Ⅲ：学校を否定するイリッチの「脱学校論」を敢えて素材として解説し、学校制度の持つ根本的な困難点とその克服について考える。いかにして子どもの学習意欲を高めながら、学校教育を展開するかを、具体的な学校の事例を取り上げて解説する。 |
| 5 | 教育の要素とその相互関係：子ども、教員、家庭、保育所･幼稚園･学校など、教育の構成要素及びそれらの相互関係を解説する。 | 11 | 日本の学校教育の特性：日本の学校教育制度の歴史を説明し、そこから出てくる現代の我が国の学校の特性を解明する。また、諸外国の学校についても解説し、我が国の学校との比較検討を行い、その文化的背景の違いを考察する。 |
| 6 | 教育の思想：中世の教育思想、ルソー、ペスタロッチ、デューイなどの新教育思想の展開と我が国の教育への影響などを解説し、「人間の能力を引き出す」教育のとらえ方を理解する。 | 12 | 現代社会の教育課題Ⅰ（地域と教育）：地域社会での教育の営みの諸相を解説する。生涯学習社会といわれる教育観の発展を理解する。また、学校と地域が結びついて子育てするという観点から、コミュニティ・スクールの考え方も知り、地域に開かれた学校のあり方を考える。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 現代社会の教育課題Ⅱ（子どもの発達を巡る問題）：現代の子どもの発達に歪みをもたらしかねない社会の諸環境を考察し、子どもの体の問題、子どもの食べ物の問題、遊びの問題などを取り上げて、その現状と問題克服の方法を考え合う。 | 14 | 現代社会の教育課題Ⅲ（教育改革の動向）：現在の教育が抱えている諸問題の解説と、近年の教育政策、教育改革動向について解説する。特に「学力」問題、道徳教育の問題、保護者と学校の関係など、具体性を持たせて考え合う。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%， 小テスト(2 回) 40%， 課題提出物 10% |
| 教科書 | 『教育原理』和歌山印刷 木本毅著 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月)文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で行われた内容を復習して、レポートを作成し、次時に提出する。（週 4 時間程度）<br>小テストを含めた試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者がすべての回を担当。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 保育原理 | 森下順子 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育を展開していくときに保育者として大切な基礎・基本を学ぶ。例えば、保育の意義と理念、保育の思想と歴史的変遷、保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法の基本、保育の現状と課題などについてである。保育に関する諸理論を学習し、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の観点から、望ましい保育の専門性や保育の本質について理解を深める。また幼児理解とともに、保護者支援と地域支援の重要性を学び、幅広い視野から保育ができる基礎を培う。 |
| 授業の目標 | 保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育内容と方法の基本について理解する。また、保育の歴史・思想・保育制度の変遷について学び、現在の保育の現状や課題にも関心を持ち、保育者としての基礎的な理解を深めることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・保育現場の日常を知る<br>保育の理念と概念 | 8 | 保育の基本Ⅲ「発達過程・個別配慮の必要な子どもへの支援」 |
| 2 | 子どもを取り巻く環境と保育の社会的意義<br>保育現場や家庭支援の現状 | 9 | 子育て支援と地域連携の必要性と対応 |
| 3 | 保育の基本Ⅰ「養護と教育・倫理観と専門性」 | 10 | 保育内容について（ねらい・内容・領域と方法） |
| 4 | 保育の歴史と思想、歴史的変遷Ⅰ（諸外国） | 11 | 乳幼児期にふさわしい保育内容について |
| 5 | 保育の歴史と思想、歴史的変遷Ⅱ（諸外国） | 12 | 子ども理解<br>「生活と遊びを通して総合的に行う保育」 |
| 6 | 保育の歴史と思想、歴史的変遷Ⅲ（日本） | 13 | 計画・実践・記録・評価・改善の過程の重要性について |
| 7 | 保育の基本Ⅱ「環境を通して行う保育・発達過程に応じた保育」 | 14 | 保育の現状と課題について<br>まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%， 課題レポート 20%， 授業への取り組み 10% |
| 教科書 | 『最新 保育原理－わかりやすく保育の本質に迫る－』保育出版社 上中 修<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月）厚生労働省 |
| 参考書 | 『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 汐見 稔幸他 |
| 授業外の学習方法 | 授業内容を、教科書や配布資料などで 1 週間に 4 時間程度の予習復習をする。子どもに関する時事問題を深める。地域の子育て環境や子どもの育つ環境の現状を知る。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 教育制度論 | 岸田 正幸 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。公教育制度にかかるしくみ法的・制度的仕組みやその役割などといった基本的な内容について理解するとともに、公教育を担う学校に求められている地域との連携及び学校安全についての理解を深める。 |
| 授業の目標 | 講義形式を基本としながら、課題についてのグループ協議や発表等の形態を取り入れることにより、教育をめぐる諸課題や学校の役割について理解を深める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 公教育制度の意義と構造 | 8 | 教育をめぐる諸課題③（学校が抱える課題と取組の実際） |
| 2 | 公教育制度と教育法令 | 9 | 地域における学校の役割①（開かれた学校づくりとその意義） |
| 3 | 中央教育行政の理念と仕組み | 10 | 地域における学校の役割②（学校外の関係者等との連携） |
| 4 | 教育委員会制度の理念と仕組み | 11 | 地域における学校の役割③（コミュニティスクールと地域との連携） |
| 5 | 教育委員会制度と学校経営 | 12 | 学校保健安全法と学校の危機管理 |
| 6 | 教育をめぐる諸課題①（最近の教育政策・制度改革の動向） | 13 | 学校安全の必要性（学校での事件・事故の実際とその対応） |
| 7 | 教育をめぐる諸課題②（教育委員会における取組の実際） | 14 | 安全教育の実際（優れた実践事例研究） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 60%，ミニレポート 40%， |
| 教科書 | 各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 |
| 参考書 | 『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房 川野和清編著 |
| 授業外の学習方法 | 毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。（週 4 時間程度）<br>試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 子ども家庭福祉 | 田中　和子 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもをとりまくわが国の子ども家庭福祉の問題を概観し、子どもの権利擁護への理解を深める科目である。現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権について学ぶと共に、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望についての理解を目指す。 |
| 授業の目標 | 保育士は、児童福祉法にその法的根拠をもつ福祉専門職である。保育士として社会に貢献するうえで欠かすことのできない、子ども家庭福祉の歴史・理念・制度、子どもと家族を取り巻く現代的課題について学ぶ。<br>・子ども家庭福祉についての基礎知識を習得する。<br>・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。<br>・子ども家庭福祉にかかわる専門職の重要性について理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション　保育士と子ども家庭福祉 | 8 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（4）<br>・児童虐待防止 |
| 2 | 子ども観と子ども家庭福祉の歴史 | 9 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（5）<br>・社会的養護 |
| 3 | 現代の子ども家庭福祉における基本理念（1）<br>・児童福祉法、子ども家庭福祉の関連法制度 | 10 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（6）<br>・ひとり親家庭への支援／DV 防止 |
| 4 | 現代の子どもの家庭福祉における基本理念（2）<br>・子どもの権利 | 11 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（7）<br>・障害児福祉サービス |
| 5 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（1）<br>・乳幼児期の保育・教育 | 12 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（8）<br>・子どもの健全育成 |
| 6 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（2）<br>・子育て支援サービス | 13 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（9）<br>・少年非行等への対応<br>・学校における子どもの人権問題への対応 |
| 7 | 子ども家庭福祉の制度・機関・実践（3）<br>・母子保健 | 14 | まとめ　子ども家庭福祉の動向と展望 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%，課題 ・小テスト等 20%，受講態度・授業への参加度 10% |
| 教科書 | 『新・基礎からの社会福祉７　子ども家庭福祉［第３版］』ミネルヴァ書房(令和3年4月)<br>木村容子・有村大士編著 |
| 参考書 | 各回の授業で資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。（週４時間程度）<br>試験・小テスト対策、課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 児童相談所・児童福祉行政経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 教育方法論(ICT 活用含む) | 岸田 正幸 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 情報機器及び教材の活用と教育の方法及び技術の修得を目指す科目である。教育方法学の概要を学ぶとともに、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」を実践的に学ぶことで、理論と実践の融合を目指す。あわせて、学習指導をはじめとした校務での様々な場で情報通信技術を活用できる能力を身につけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 教育の方法及び技術の修得と情報通信技術を活用した教育の理論及び方法の習得を目指す科目である。教育方法学の理論と教育実践に活用するための「方法・技術」を実践的に学ぶことで、理論と実践の融合を目指す。あわせて、教育における情報通信技術の活用の意義と理論、学習指導や校務での活用、さらには情報モラルを育成するための指導法を扱う。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育方法の基礎的理論と実際 | 8 | 情報機器の活用の実際（スタディ・ログ、学習評価、オンラインシステム） |
| 2 | 授業の構成要素とよい授業 | 9 | 情報機器を活用した校務の在り方 |
| 3 | よい授業の実践事例と指導方法（主体的・対話的で深い学びとは） | 10 | 児童生徒に育成すべき情報活用能力（情報モラルを含む） |
| 4 | 指導と評価の一体化（学習評価の基礎的な理解） | 11 | 児童生徒に身につけさせるべきスキルとその指導法 |
| 5 | 情報通信技術の活用の意義と学校におけるICT環境の在り方 | 12 | 学習指導理論を踏まえた学習指導案 |
| 6 | 学習指導における ICT 活用の基礎 | 13 | 優れた教育実践と事例研究 |
| 7 | 学習指導における ICT 活用の在り方（個別最適な学びと協働的な学び） | 14 | 模擬授業 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%，ミニレポート 30% |
| 教科書 | 各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『教育の方法と技術』ミネルヴァ書房(2018 年 3 月) 篠原 正典，荒木 寿友 |
| 授業外の学習方法 | 毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。（週 4 時間程度）<br>試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 教育課程総論 | 岸田 正幸 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | カリキュラム・マネジメントを含む、教育課程の意義及び編成の方法を学ぶ科目である。教育基本法とその意義や関係法規、学習指導要領による教育課程編成の基準と関連事項及び教育の内容教育課程の編成・実施・評価・改善の過程について学習する。学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理念・内容を理解し、様々な教育実践を通して教育課程との繋がりを考える。学習指導要領の変遷や、新学習指導要領の求めるものを考察することを通して教育課程の編成についての理解を深めるとともに、カリキュラム・マネジメント能力の育成を図る。 |
| 授業の目標 | 教育課程の役割や機能、その編成方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、教育課程に関する基礎的な知識を習得する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育活動における教育課程の意義と役割（関係法規を含む） | 8 | 学校における教育課程編成の実際 |
| 2 | 社会に開かれた教育課程とその役割 | 9 | 教育課程編成の事例研究 |
| 3 | 時代の変化とともに求められてきた児童生徒像と学習指導要領の変遷 | 10 | 教育目標を踏まえたバックワードカリキュラムと指導の実際 |
| 4 | 学校における教育課程編成の意義 | 11 | カリキュラム・マネジメントの理解と事例研究 |
| 5 | 幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の性格と教育課程編成 | 12 | カリキュラム評価の理解と実際 |
| 6 | 中学校・高等学校学習指導要領の性格と教育課程編成 | 13 | 現代的な諸課題と教育課程の開発 |
| 7 | 育てたい児童生徒像と教育課程及び指導計画 | 14 | 諸外国の教育課程の特色 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%，ミニレポート 30% |
| 教科書 | 各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月）文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。（週 4 時間程度）<br>試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 保育の計画と評価 | 原　康行 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育計画・評価の意義と内容、方法を学ぶ科目である。保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価の意義を理解し、全体的な計画と指導計画の作成方法について、具体例を通して実践的に学ぶ。子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）を概観し、和歌山県をはじめとする現代社会における幼児教育の課題や乳幼児への理解をより深めることをねらう。 |
| 授業の目標 | 保育の全体的な計画と指導計画の作成について、その意義や方法を理解する。<br>個々の子どもの様子や発達を考慮し、それぞれの成長に応じた指導案を立てることができる。<br>保育の評価や、保育の向上について理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 100 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>幼稚園・保育所・認定こども園について | 8 | 「発達における個人差」と「発達多様性」 |
| 2 | 保育所保育指針、幼稚園教育要領等の解説 | 9 | 保育記録と評価、保育の質の向上 |
| 3 | 保育計画の意義と保育の基本 | 10 | 全体的な計画と指導計画、評価の関係性 |
| 4 | 保育カリキュラムの歴史(1)<br>（オーエン・フレーベル、シュタイナー） | 11 | 指導計画の作成手順<br>(1)（子どもの姿、ねらい、内容）<br>(2)（環境構成と保育者の援助） |
| 5 | 保育カリキュラムの歴史(2)<br>（モンテッソーリ、マラグッチ、倉橋惣三） | 12 | 全体的な計画、指導計画の作成，発表 |
| 6 | 3 歳未満児の発達を考慮した保育・保育計画 | 13 | 全体的な計画、指導計画の発表 |
| 7 | 3．4 歳児、5 歳児の発達を考慮した保育・保育計画 | 14 | 全体的な計画、指導計画の評価、まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験　60%，　課題・プレゼンテーション等　30%，　受講態度・授業への参加度　10% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月）文部科学省<br>『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月）厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月）内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼稚園教育要領解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月）文部科学省<br>『保育所保育指針解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月）厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で使用した資料や参考書を熟読し、理解を深めると共に、疑問点等を次回の授業時に質問すること。講義内で発表する「全体計画」「指導計画」等の課題作成，各回，講義修了時に配布する復習シートの記入の時間も確保すること。(週4時間程度) |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 担当者(全ての回)は、保育所、幼稚園、認定こども園での，保育力向上に関する保育コンサルテーションを行う実務経験者である。実務経験を活かし、実践的教育を行う。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 保育内容総論 | 中村俊之<br>山下悦子 | 2 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づく、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5 領域のねらい及び内容の関連について実践的に学ぶ科目である。保育内容とは保育・幼児教育の特性を具体的に示すものである。保育内容総論では、今日の保育・幼児教育の現状をふまえて、俯瞰的視点で保育内容を捉える。保育・幼児教育における現状と課題、乳幼児の成長・発達、および具体的な生活への理解を深め、保育内容の意義を考察するとともに、保育・幼児教育の特性とその可能性への理解を目指す。テキストや視聴覚教材（映像）を通して、幼稚園教育要領、保育所保育指針における幼児教育の理念・基本、乳幼児期の発達をふまえた幼児教育の方法的特質、各領域におけるねらい及び内容の関連の理解を深めるとともに、ICT 機器の活用方法を学び、幼児教育の指導計画を作成する能力を身につける。 |
| 授業の目標 | 1）乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえた幼稚園・保育所・こども園等における指導の考え方を理解する。<br>2）乳幼児期の教育・保育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション　乳幼児期の教育・保育の目的と保育内容<br>幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して、乳幼児期の教育・保育の目的について学ぶと共に、保育内容の意義について考える。 | 8 | 遊びと保育内容　遊びを中心とした教育・保育<br>乳幼児期の遊びを中心とした教育・保育の指導的特性について学ぶ。 |
| 2 | 乳幼児の園生活　園生活と保育内容の5領域<br>遊びを中心とした乳幼児の園生活の実際と、保育内容の5領域の考え方を学ぶ。 | 9 | 遊びと保育内容　「ねらい」と「内容」の設定<br>各領域の「ねらい」と「内容」について学ぶ。 |
| 3 | 0～1歳児の生活と保育内容<br>映像資料を通して、0～1歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。 | 10 | 遊びと保育内容　遊びを通した総合的な指導<br>映像資料や教材を基に、領域間の繋がりを考えた総合的な指導について考える。 |
| 4 | 2～3歳児の生活と保育内容<br>映像資料を通して、2～3歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。 | 11 | 保育内容と計画　保育における計画作成の基礎<br>乳幼児期の保育・教育における計画の意義と構成、作成のポイントについて学ぶ。 |
| 5 | 4～5歳児の生活と保育内容<br>映像資料を通して、4～5歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。 | 12 | 保育内容と計画　保育内容の構成と教材研究、ICTの活用<br>具体的なテーマをもとに指導案を作成するとともに、資料を基に適切な教材やICT機器の活用法について考える。 |
| 6 | 環境を通した幼児教育・保育　環境構成の在り方<br>環境を通しての幼児教育・保育の指導的特性と環境構成の考え方について学ぶ。 | 13 | 幼稚園・保育所・こども園での教育と小学校教育の接続<br>保幼小の接続に向けたアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの在り方の現状と課題について学ぶ。 |
| 7 | 環境を通した幼児教育・保育　子どもの発達に応じた教育・保育の展開<br>映像資料や教材を基に、子どもの発達に応じた教育・保育の展開について学ぶ。 | 14 | まとめ<br>授業全体を振り返り、今後の学修課題について考察する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 70%， 課題レポート 20%， 授業へ取り組む姿勢・態度 10% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | なし |
| 授業外の学習方法 | 1週間に4時間程度の予習・復習等を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 幼稚園教諭経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 図画工作 | 大橋 功 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校学習指導要領(図画工作科)の目標・内容を学習指導するための必要な美術・図画工作の専門的技能・知識を高める科目である。造形遊びの活動、絵画表現、立体表現、工作など制作活動や鑑賞活動を通して材料や用具の扱い方など、指導者としての美術や図画工作の基礎基本を学ぶ。 |
| 授業の目標 | 子供達の心を育て、造形表現活動の楽しさを味わわせると共に造形表現の可能性を引き出し伸ばすことのできる教育者・保育者になるため、教育・保育現場で造形表現活動を展開するための基礎的技能・知識を身に付け、自ら創作を通して感性を磨く。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 造形表現活動を楽しさの軸でとらえ直す | 8 | 紙版画による表現２ −刷り　完成・鑑賞 |
| 2 | 今の気持ちを表そう −ドローイングとペインティング | 9 | アートで SDGs１ -ごみ問題と造形活動（海洋プラごみに焦点を当てて） |
| 3 | 「なんだこれは？」−常識を破ることからはじまるワクワクアート | 10 | アートでSDGs２ -共同制作（素材の分別と活用） |
| 4 | 「なんだこれは？」−つくり、つくりかえ、つくりだす楽しさを味わう | 11 | アートでSDGs３ -共同制作（発想・構想〜作品制作−材料に応じた道具） |
| 5 | モダンテクニック技法１ −デカルコマニー、フロッタージュ | 12 | アートでSDGs４ -共同制作（完成・鑑賞） |
| 6 | モダンテクニック技法２ −スパッタリング、マーブリング、タタミ染め | 13 | 多様性を活かした協働による表現 |
| 7 | 紙版画による表現１ −技法を知る〜製版 | 14 | 造形的な見方考え方を働かせた鑑賞活動 - アートゲームと対話による鑑賞 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 制作した作品 60%，演習カードの記述内容 20%，演習時の取り組み状況 20% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版(2018年) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 担当教員が作成した演習カード |
| 授業外の学習方法 | 毎回 4 時間程度、授業で課した課題に取り組むとともに、学修したことを整理し「演習カード」にまとめて提出する。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 音楽 | 溝口希久生<br>八代健志 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校学習指導要領・音楽科の内容の「表現」「鑑賞」領域の学習指導に必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける科目である。表現活動（歌唱、器楽、「音楽づくり」）と鑑賞の演習を通して、「表現」「鑑賞」領域の指導内容を理解する。これらの演習を基盤として、小学校音楽科の授業を行う上で必要な知識・技能等の基礎的能力を身に付けることで、豊かな指導のあり方を学ぶ。 |
| 授業の目標 | 小学校の音楽科の表現（歌唱、器楽、「音楽づくり」）と鑑賞の演習を通して、表現や鑑賞に関する指導内容を理解し、音楽科の指導を行う上で必要な基礎的能力を身につけることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回　100 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業の概要）（溝口　希久生・八代　健志）<br>器楽の活動（1）（八代　健志）<br>様々な打楽器の奏法とアンサンブル | 8 | 「音楽づくり」の活動（1）（溝口　希久生）<br>様々な音素材による即興表現 |
| 2 | 器楽の活動（2）（八代　健志）<br>リコーダーの奏法とアンサンブル　指導の手順 | 9 | 「音楽づくり」の活動（2）（溝口　希久生）<br>日本伝統音楽を教材としたお囃子づくり |
| 3 | 器楽の活動（3）（八代　健志）<br>器楽教材の分析と指導（表現力）の手順 | 10 | 「音楽づくり」の活動（3）（溝口　希久生）<br>日本伝統音楽を教材としたお囃子づくりの発表と評価 |
| 4 | 器楽の活動（4）（八代　健志）<br>器楽合奏のグループ発表と省察 | 11 | 「音楽づくり」の活動（4）（溝口　希久生）<br>わらべうた音階による旋律づくり |
| 5 | 歌唱の活動（1）（八代　健志）<br>低学年の歌唱教材の教材分析と指導（拍・拍子、呼吸） | 12 | 鑑賞の活動（1）（溝口　希久生）<br>鑑賞活動の意義、指導内容との関連 |
| 6 | 歌唱の活動（2）（八代　健志）<br>中学年の歌唱指導による教材分析と指導（問答、発声） | 13 | 鑑賞の活動（2）（溝口　希久生）<br>曲想と音楽の構造との関わり、鑑賞教材の分析 |
| 7 | 歌唱の活動（3）（八代　健志）<br>高学年の歌唱指導による教材分析と指導（音の重なり、音程）　グループごとの発表と評価 | 14 | 鑑賞の活動（3）（溝口　希久生）<br>「図形楽譜づくり」による鑑賞活動と批評 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 30%，歌唱・器楽・音楽づくりの基礎技能 40%，<br>課題追求の姿勢・発想等 30%<br>技能だけでなく、自ら音や音楽に積極的に働きかけ、表現活動に取り組む姿勢・発想等を重視する。 |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省 |
| 参考書 | 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月）文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月）内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>随時、必要な資料等を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | その回の授業内容を振り返り、歌唱や器楽の練習をし、次回の内容を予習しておくこと（週 4 時間程度）。課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 小学校での教職経験を活かし、実践現場での音楽の教授内容を提示する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 生活 | 中井精一 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校生活では、具体的な活動や体験を通して身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、学校、家庭及び地域の生活に関する内容や身近な人々・社会及び自然を関わる活動について、理解を深める。次いで、飼育・栽培などの学校生活に関する活動や公共施設の利用及び地域に関する活動を通して、実践的な技能を身に付ける。 |
| 授業の目標 | ①教科誕生・改訂の経緯とその社会的背景について理解できる。②楽しい生活科の授業を行えるように、具体的な事例を通して授業づくりのあり方を学び、新しい生活科の目標や内容について理解し、基礎的・基本的な知識と技術を身に付けることができる。③生活科における「遊び」の意味を理解し、楽しい授業を成立させるために、気付きの質の高め方や支援のあり方について事例をもとに考えることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーションと生活科の概観 | 8 | 【自然や物を使った遊び】不思議さやおもしろさの発見 |
| 2 | 学習指導要領の概要と生活科 | 9 | 【動植物の飼育・栽培】動物の飼育と植物の栽培 |
| 3 | 【学校と生活】学校と幼稚園・こども園等との連携 | 10 | 【生活や出来事の伝え合い】伝え合う活動と言語活動 |
| 4 | 【家庭と生活】家族の大切さ | 11 | 【自分の成長】自分の成長の振り返り |
| 5 | 【地域と生活】地域との関わり | 12 | 生活科の評価と支援 |
| 6 | 【公共物と公共施設の利用】みんなの物とみんなの場所 | 13 | 生活科における「気付き」と「遊び」についての実践 |
| 7 | 【季節の変化と生活】身近な自然と四季のある日本 | 14 | 総括とまとめ（事例研究と論文作成） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の授業の「振り返り」の提出　30%，授業中に指定した課題レポート　20%，<br>授業への貢献度　10%，最終回での「論文作成」　40% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領解説　生活編』東洋館出版社(2018年2月）文部科学省 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省<br>小学校生活検定済み教科図書の他、授業中に適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 復習として、授業の「振り返り」を行い、400 字程度にまとめて次回授業までに提出すること。<br>予習として、次回授業内容の学習指導要領などを事前に読んでおくこと。<br>「論文作成」のために、毎回の授業内容を整理・記録をしておくこと。<br>以上の内容を週 4 時間程度行うこと。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 子どもと健康 | 中村 俊之 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 乳幼児の生活や遊びの現状と課題について各種調査データ等を踏まえて理解を深め、現在の乳幼児期の健康課題とどう関連しているか学んでいく。また、領域「健康」のねらい及び内容の理解を深めるために乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活と怪我や病気の予防、運動発達などの専門的事項について視聴覚教材を活用しながら知識を身につける。 |
| 授業の目標 | 領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康の定義及び乳幼児期の健康課題 | 8 | 乳幼児の体力・運動能力の現状と課題 |
| 2 | 領域「健康」のねらい及び内容 | 9 | 生活習慣に関する指導・計画 |
| 3 | 乳幼児期の発育・発達と援助のあり方 | 10 | 運動遊びに関する指導・計画(0～2 歳児) |
| 4 | 乳幼児の生活習慣の形成と保育者の援助 | 11 | 運動遊びに関する指導・計画(3～5 歳児) |
| 5 | 乳幼児の遊びの重要性と保育者の役割 | 12 | 乳幼児期の怪我や病気の特徴と予防 |
| 6 | 子どもの運動遊びの現状と課題 | 13 | 乳幼児の健康・安全教育と管理 |
| 7 | 乳幼児期の運動発達の特徴 | 14 | 領域「健康」と小学校教育との接続 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 70%, レポート・課題等 20%, 授業へ取り組む姿勢・態度 10% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 1週間に 4 時間程度の予習・復習等を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 子どもと環境 | 秋吉博之 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼稚園教育要領の領域「環境」には、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことが示されている。このような幼児の育ちを理解し、屋内外での活動から環境に対する理解を深め、受講者が身近な環境との関わりの中で得た事例について発表をする。これらを通して、「環境」に関わる保育の基本的な知識と技能を身につける。 |
| 授業の目標 | 保育活動の理解を深め、教育現場で実践していくための基礎的な力量を育成する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「環境」のねらいと意義 | 8 | 身近な自然環境 (1) 植物採集、樹木・葉遊び |
| 2 | 領域「環境」の内容と活動のあり方 | 9 | 身近な自然環境 (2) 動物との出会い |
| 3 | 環境に対する幼児の認識 (1) 探究心 | 10 | 身近な自然環境 (3) 石はどうしてまるい |
| 4 | 環境に対する幼児の認識 (2) ものやひとの認識 | 11 | 身近な自然環境 (4) 虹はどうしてできる |
| 5 | 環境に関わる幼児の活動や遊び | 12 | 保育内容「環境」の保育計画 |
| 6 | 園外保育における領域「環境」の指導のあり方 | 13 | 保育園・幼稚園の環境構成と評価 |
| 7 | 物的環境としての園具、遊具、素材 | 14 | 領域「環境」での幼保小の接続 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 50%, 課題レポート 40%, 授業へ取り組む姿勢・態度 10% |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省 |
| 参考書 | 適宜、資料を紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度)<br>授業で指示する課題について取り組むこと。(毎回 180 分程度)<br>各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度) |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 鍵盤演奏入門 | 溝口希久生 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 鍵盤楽器演奏初級者を対象とし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要な基礎的・基本的な演奏技能習得をねらいとする。基礎的な音楽の構造を学び、読譜力を身につけながら、保育所・幼稚園・小学校において子どもの音楽表現が引き出せるようなピアノの基礎的な技能を身につける。学生の課題や実態に適した教材の選択と指導を行う。 |
| 授業の目標 | 保育士に必要な基礎的･基本的なピアノ演奏技能を習得する。読譜力、基礎理論を身に付けて、ピアノで基礎的な音楽表現ができる。保育士に必要な弾き歌い、伴奏の基本的なピアノ演奏技能および演奏にかかわる基礎理論を身に付ける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回　100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業の進め方、授業評価の説明、楽器の扱い等）<br>・鍵盤と手の位置・大譜表と指番号 | 8 | 移調奏③（ひげじいさん、むすんでひらいて）<br>・音名と調号<br>（ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調） |
| 2 | 右手の旋律奏（マーチ・きらきら星）<br>・ト音記号の音名、四分休符・音価 | 9 | 移調奏④（きらきら星）<br>・調号と主音 |
| 3 | 左手の旋律奏（マーチ）<br>・へ音記号の音名、高音部譜表と低音部譜表 | 10 | 両手の移調奏①（メリーさんのひつじ）<br>・ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調の調号 |
| 4 | 両手の旋律奏（マーチ・きらきら星）<br>・大譜表、音符の部分名称 | 11 | 両手の移調奏②（いとまきのうた）<br>・ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調<br>・速度記号・表情記号 |
| 5 | 両手の旋律奏（かえるのうた・ひげじいさん・ちょうちょう）<br>・音階の種類（長音階） | 12 | 両手の弾き歌い奏<br>・弾き歌いのポイント |
| 6 | 移調奏①（マーチ）<br>・移調、半音と全音、シャープとフラット | 13 | 発表会にむけた練習<br>・発表会へ向けての練習 |
| 7 | 移調奏②（かえるのうた、きらきら星）<br>・音階（ト長調、ニ長調、イ長調、へ長調） | 14 | 発表会 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験（課題曲・自由曲）60%,　課題曲の練習や授業へ取り組む姿勢　40% |
| 教科書 | 『こどものうた 100』チャイルド本社(1982 年 4 月）小林 美実 |
| 参考書 | 随時、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | ピアノ演奏は、日々の練習の積み上げが必要となる。その回の授業の内容について十分な復習の練習と次回の授業に向けての予習を週 2 時間程度すること。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 発達心理学 | 桑原義登 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 胎生期、乳児期、幼児期、児童期、青年期における人間の成長や発達の過程で生じる課題について発達心理学の視点からとらえる授業である。心身の発達の特徴や、発達の基礎的理論及び研究方法を、最新の研究成果の知見を交えて学ぶ。知的機能、社会性、パーソナリティの発達に焦点を当てながら、その特徴や発達障害、発達に影響を及ぼす要因について考えることで、子ども理解の基礎を培う。 |
| 授業の目標 | 生涯発達の視点から、各発達段階における心身の発達の特徴や発達理論を理解してもらう。発達心理学の知見により、保育や教育現場での発達を踏まえた学習支援及び発達課題や問題行動に対しての基礎となる考え方を理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 発達心理学とは | 8 | 乳児期の運動・社会性・言語の発達 |
| 2 | 発達を促す要因（素質要因と環境要因） | 9 | 幼児期の各領域における発達と学び |
| 3 | 発達理論について | 10 | 児童期の教科学習における発達と学び |
| 4 | ライフサイクルを通した発達課題について | 11 | 反抗期の意味と思春期以降の発達課題 |
| 5 | 学習と学習理論について | 12 | 発達心理学の視点からの生徒指導上の問題行動 |
| 6 | 動機付けと評価について | 13 | 発達心理学の視点からの児童虐待と愛着障害 |
| 7 | 胎児期と周産期のリスクと発達への影響 | 14 | 発達期に出現する障害児の理解 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験　70%，　授業の最後に行う小レポート　20%，　授業への取り組み　10% |
| 教科書 | 『ベーシック発達心理学』東京大学出版会　開　一夫編 |
| 参考書 | なし |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われるプリントや教科書の内容をよく読んでおくことと、各年齢における子どもの行動の特徴を観察しておくこと。（週 4 時間程度）<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 児童相談所心理専門職と臨床心理士としてのスクールカウンセラー等の経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 教育心理学 | 村上凡子 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育心理学は、幼児、児童及び生徒といった学習者の発達的特性を踏まえた学習支援について心理学が過去から蓄積してきた基礎的な知識や理論を理解するための科目である。各時期の発達的特性に応じた保育、教育のあり方を学ぶ。主体的な学習を学習者自らが進めていくための学習支援を実践できるよう、認知、行動両面からの学習、記憶、動機づけ、学級集団のしくみ、学習評価等に関する代表的な理論を発達の特徴と関連付けて取り上げる。これらは、保育、教育のすべての領域、教科等に共通して身につけておくべき事項である。 |
| 授業の目標 | 到達目標は<br>1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的なの基礎的事項を実際の保育・教育場面と関連付けて理解していること、<br>2) 子どもの主体的学習を支えるための動機付け、学級集団のしくみと集団づくり、学習評価の在り方に関する教育心理学の理論を発達の特徴と関連付けて理解していること、<br>3) 多様な子どもの心身の発達的特徴を踏まえて、地域の教育的課題と関連付けて、主体的な学習活動を支えるための必要な指導の基礎となる理論を理解していること、の 3 点である。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育心理学を学ぶ意義と教師の役割ー地域の教育課題を踏まえてー | 8 | 教師期待効果と望ましい教授活動の在り方について検討ーロールプレイングの学びを通してー |
| 2 | 環境との相互作用としての自己、性格の発達過程 | 9 | 学習支援ニーズと学習理論との関連の検討ー適正処遇交互作用理論を踏まえてー |
| 3 | 基本的生活習慣、社会性、人間関係の発達及び学習過程と支援 | 10 | 集団づくりの基礎理論による学級経営計画の作成と検討ーPM理論に焦点を当ててー |
| 4 | 言語、数量認識等の認知機能の発達及び学習過程 | 11 | 学習評価に関する基礎理論と授業・保育設計の基本 |
| 5 | 行動論からみた学習過程とその支援方法についての発表・検討ー条件付けの理論、プログラム学習ー | 12 | 事例検討を通した多様な学習支援ニーズとつまずきへの支援（グループ協同学習） |
| 6 | 認知論からみた学習過程とその支援方法についての発表・検討ー記憶の仕組みを踏まえてー | 13 | 主体的な学習活動を成立させるための授業記録観察演習 |
| 7 | 学習の動機付けの理論と主体的な学習活動との関連 | 14 | 主体的な学習の創造における発達・学習の支援者としての教師の在り方についての討論 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%, 小テスト 20%, 予習復習課題 10% |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『改訂版 たのしく学べる最新教育心理学』株式会社図書文化社（2017 年）櫻井茂男編著<br>『エピソードに学ぶ教育心理学』株式会社有斐閣(2022 年)中谷素之・中山留美子・町岳 著 |
| 授業外の学習方法 | 1 週間に 1 時間程度の予習復習を行う。その内容は、毎回の要点や感想をノートにまとめ、翌回に向けて配布される予習資料に関して疑問点や意見をノートに書くことである。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

# 2年
# （2022年度入学　4期生）

# 講義要項

## 2023年度　シラバス　目次　2年（2022年度入学　4期生）

| 科目区分 | | | 授業科目の名称 | 教員名 | 実務家教員＊ | 単位数 | 配当年次 | 授業形態 | 卒業に必要な科目・単位 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通基礎科目 | 教養科目 | 信愛教育の基礎 | 信愛教育Ⅱ | 大山輝光 | | 1 | 2通年 | 演習 | ● | 49-50 |
| | | 教育者の教養 | 人類生態学概論 | 松本健治 | | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 51 |
| | | | 子どもと文学 | 大橋眞由美 | | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 52 |
| | | | こころの科学 | 桑原義登 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ○ | 53 |
| | | | 生命と進化 | 芝田史仁 | | 2 | 2後期 | 講義 | ○ | 54 |
| | | | 現代メディア論 | 伊藤宏 | ＊ | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 55 |
| | | リテラシー | フランス語コミュニケーション | GODFROY ROBIN | ＊ | 1 | 2前期 | 演習 | ○ | 56 |
| | | | 中国語コミュニケーション | 相川恵 | ＊ | 1 | 2前期 | 演習 | ○ | 57 |
| | | | 情報処理演習Ⅱ | 大山輝光 | | 1 | 2前期 | 演習 | ● | 58 |
| | | 教師塾 | インターンシップ（事前・事後指導を含む） | 森﨑陽子　千森督子 | | 2 | 2通年 | 実験実習 | △ | 59 |
| | 地域連携科目 | 紀の国わかやまと世界 | まちづくりの経済学 | 濱田智司 | ＊ | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 60 |
| | | | 地域の生活文化 | 千森督子 | | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 61 |
| | | | 文学と郷土 | 平松正昭 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ○ | 62 |
| | | 地域探求科目 | 地域力再生論 | 宮定章 | | 2 | 2前期 | 講義 | ● | 63 |
| | | | 地域連携フィールドゼミナール | 森﨑　森下　宮定<br>小田　千森 | | 4 | 2通年 | 演習 | ● | 64-65 |
| 専門教育科目 | 理念・理論 | | 社会福祉 | 太田作也 | ＊ | 2 | 2前期 | 講義 | ● | 66 |
| | | | 社会的養護 | 桑原義登 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ● | 67 |
| | 教科・保育内容の専門領域 | | 国語（書写を含む） | 小林康宏 | ＊ | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 68 |
| | | | 算数 | 山本紀代 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ○ | 69 |
| | | | 理科 | 秋吉博之 | ＊ | 2 | 2前期 | 講義 | ○ | 70 |
| | | | 社会 | 西端幸信 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ○ | 71 |
| | | | 器楽 | 溝口希久生　八代健志 | ＊ | 2 | 2通年 | 演習 | ○ | 72-73 |
| | | | 体育 | 原まなみ　大平誠也 | ＊ | 1 | 2前期 | 演習 | ○ | 74 |
| | | | 家庭 | 中根真富　岡部美代恵 | ＊ | 1 | 2後期 | 演習 | ○ | 75 |
| | | | 初等英語 | 辻伸幸 | ＊ | 1 | 2後期 | 演習 | ○ | 76 |
| | | | 子どもの言葉 | 小林康宏 | ＊ | 1 | 2前期 | 演習 | ○ | 77 |
| | | | 子どもの表現Ⅱ | 大橋功　八代健志 | ＊ | 1 | 2前期 | 演習 | ○ | 78 |
| | 子ども理解 | | 幼児理解の理論と方法 | 村上凡子 | ＊ | 2 | 2前期 | 演習 | ● | 79 |
| | | | 子どもの保健 | 内海みよ子 | | 2 | 2後期 | 講義 | △ | 80 |
| | 教育・保育の指導法 | | 保育内容の指導法Ⅰ | 中村俊之　山下悦子 | ＊ | 2 | 2後期 | 演習 | ● | 81-82 |
| | | | 初等教科教育法（国語） | 小林康宏 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ● | 83 |
| | | | 初等教科教育法（生活） | 中井精一 | ＊ | 2 | 2後期 | 講義 | ● | 84 |
| | | | 初等教科教育法（音楽） | 溝口希久生 | ＊ | 1 | 2後期 | 演習 | ● | 85 |
| | | | 初等教科教育法（図画工作） | 大橋功 | ＊ | 1 | 2後期 | 演習 | ● | 86-87 |
| | | | 初等教科教育法（体育） | 原まなみ　大平誠也 | ＊ | 1 | 2後期 | 演習 | ● | 88 |
| | | | 特別活動指導論 | 谷尻治 | ＊ | 1 | 2後期 | 講義 | △ | 89 |
| | 実習 | | 幼稚園実習Ⅰ | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 2 | 2通年 | 実験実習 | △ | 90 |
| | | | 幼稚園実習指導Ⅰ | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 1 | 2通年 | 演習 | △ | 91-92 |
| | | | 保育実習Ⅰ(施設) | 森下順子　原康行 | ＊ | ※ | 2後期<br>3前期<br>通年 | 実験実習 | △ | 93 |
| | | | 保育実習指導Ⅰ（施設） | 森下順子　原康行 | ＊ | ※ | 2後期<br>3前期<br>通年 | 演習 | △ | 94-95 |

| | | |
|---|---|---|
| 2年合計単位数 | 64 | 省令で定める基準単位数13単位<br>（令元文科省令第6号<br>大学等における修学の支援に関する法律施行規則） |
| （うち、実務家教員＊による単位数） | 44 | |
| 学部内全学年（1～4年）合計単位数（2023年度） | 214 | |
| （うち、実務家教員＊による単位数）（2023年度） | 163 | |

※「保育実習Ⅰ（施設）」（2単位）「保育実習指導Ⅰ（施設）」（1単位）は3年次の単位認定のため、2年次の合計単位数に算入しない。

| | |
|---|---|
| ● | 必修 |
| ○ | 選択必修 |
| △ | 選択 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 信愛教育Ⅱ | 大山輝光 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | カトリック精神を基盤とした豊かな人間性と支援型リーダシップの涵養を目指す科目である。聖書の内容を読み解くと共に、キリスト教の行事に参加する中で、「地の塩」「世の光」として周囲の人々の信頼を得て活躍するための心構えを学ぶ。 |
| 授業の目標 | 信愛教育Ⅰで学んだことを基礎として、自分の内面に向き合い自分をどのように成長させていったらよいかを考える。習慣的に身につけているものの見方・考え方を乗り越え、自分の知の地平を広げることで、自己肯定感と他者を受容する力を高める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回　50 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 信愛が大切にしてきたこと<br>建学の精神　一つの心、一つの魂 | 8 | 聖書の中から<br>種まきのたとえ、毒麦のたとえ |
| 2 | 神の存在について | 9 | 網のたとえ　迷える子羊 |
| 3 | 祈りについて　主の祈り | 10 | 兄弟のいさめ<br>一切のものを捨てる若者 |
| 4 | 聖書について<br>天地創造　人の存在 | 11 | ぶどう園の労働者<br>実のないいちじく |
| 5 | エデンの園<br>救い主の約束 | 12 | 十人の乙女のたとえ<br>タレントのたとえ |
| 6 | 救い主 イエスの誕生 | 13 | からし種のたとえ<br>よい木と悪い木 |
| 7 | イエスの少年時代とマリア | 14 | 前期のまとめ　得たもの<br>前期の自分をふり返り聖書を味わう |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 信愛教育Ⅱ | 大山輝光 | 1 | 必修 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回　50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 幸いと不幸 | 22 | 塩のたとえ |
| 16 | イエス 罪深い女をゆるす | 23 | カナの婚礼　姦通の女 |
| 17 | 善きサマリア人のたとえ<br>マリアとマルタ | 24 | 最後の晩餐 |
| 18 | うるさい人　祈りの力 | 25 | イエスの受難 |
| 19 | おろかな金持ち | 26 | 十字架の道 |
| 20 | 目を覚ましておれ<br>忠実なしもべ 不忠実なしもべ | 27 | イエスの死と復活 |
| 21 | からし種のたとえ<br>狭い戸口 | 28 | まとめ　得たもの<br>1 年間の自分をふり返る |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | (1) 自分の考えをまとめ他者と共有・傾聴する取り組み　60%<br>(2)リアクションペーパー　20%<br>(3) 積極的な受講態度　20% |
| 教科書 | 『聖書～新共同訳～〈NI44DC〉』日本聖書協会 |
| 参考書 | 『込めて』森田登志子（平成29年9月） |
| 授業外の学習方法 | 週 1 時間程度の自主的な学習が必要である。授業で扱った内容を各自の現実の生活に生かすよう努める。また、世の中で起こっているさまざまな問題に対し、自分なりの解決方法を考えてみる。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 人類生態学概論 | 松本 健治 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 人間の健康と環境との関係についての学問である人類生態学を学ぶことによって、自然の生態系を乱さず、人類の生存にとって好ましい外部環境を調整する方策を考究する。また、講義を通して、地球温暖化など地球規模の環境問題について幅広い知識を身に着け、あらゆる生命体の生命の質（ＱＯＬ）は様々な環境要因によって左右されることを修得理解できるようになり、将来、教育専門職としての基礎的な教養が身に付くことを目的とする。 |
| 授業の目標 | 人類生態学について最新の研究情報や社会的な話題など、様々な事例を取り上げながら講義を行う。予習内容として 60 分を目途に事前配布資料を通読することおよび復習内容として 90 分を目途に配布資料中にある課題についてミニレポートする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 環境と人類との相互関係、生態系の営み | 8 | 食の安全性をめぐって |
| 2 | 物理的環境（その１）温熱条件、騒音、振動 | 9 | 衣服環境と住居環境、シックハウス症候群 |
| 3 | 物理的環境（その２）電磁波、異常気圧 | 10 | 水をめぐる問題 |
| 4 | 化学的環境（その１）「空気」を中心に | 11 | 公害の人類への影響、環境保全の原則 |
| 5 | 化学的環境（その２）有害化学物質の吸収、障害の予防、変異原と催奇形原 | 12 | 地球環境問題（その１）地球環境と生活、残留性有機汚染物質、内分泌攪乱化学物質 |
| 6 | 生物的環境（その１）病原微生物、病原体を保有または媒介する動物 | 13 | 地球環境問題（その２）オゾン層の破壊、地球温暖化、有害廃棄物の越境移動 |
| 7 | 生物的環境（その２）寄生虫、有毒動植物を中心に | 14 | 地球環境問題（その３）酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、海洋汚染 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 80%， 出席状況とミニレポートを含む受講態度 20% |
| 教科書 | 事前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。 |
| 参考書 | 『国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)及び適宜、資料を紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 週 4 時間程度の予習・復習を行うこと。<br>試験対策の時間を確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 子どもと文学 | 大橋　眞由美 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもは、身近な人やものと関わりながら、発達・発育していく。新生児であっても、大人の語り掛けに反応する。発達・発育に伴い、絵本に興味を持ち、紙芝居を友達と共有でき、静かにおはなしを聞くことができるようになる。そのような文学体験が、人間関係を育み、豊かな言葉や表現の獲得につながる。ここでは、おはなし、絵本、紙芝居を中心にして、その概要を学び、具体例を示しながら、それらの魅力を探る。教育者・保育者自らの文学体験が、子ども理解につながり、子どもの言葉や表現を導き、子どもの発達・発育を促すことを学ぶ。 |
| 授業の目標 | 自らの文学体験を高め、子どもの感性と想像力を育むための指導方法を修得する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「子どもと文学」をめぐる施設と活動 | 8 | 絵本（3）　保育に於ける実践事例　3・4歳児 |
| 2 | わらべうた・おはなし・幼年文学 | 9 | 絵本（4）　保育に於ける実践事例　5歳児など |
| 3 | 紙芝居（1）　紙芝居の歴史と構造 | 10 | 絵本（5）　保育に於ける実践事例　障がいのある子どもと共に |
| 4 | 紙芝居（2）　紙芝居の様々 | 11 | 「おはなし会」の企画（1）<br>対象・テーマなどの設定 |
| 5 | 紙芝居（3）　子どもの視点で紙芝居を楽しむ | 12 | 「おはなし会」の企画（2）<br>プログラムの作成 |
| 6 | 絵本（1）　絵本の様々 | 13 | 「おはなし会」の企画（3）<br>前半グループの発表と相互評価 |
| 7 | 絵本（2）　保育に於ける実践事例　0～2歳児 | 14 | 「おはなし会」の企画（4）<br>後半グループの発表と相互評価 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 50%，毎授業時の小レポート 30%，「おはなし会」相互評価 20% |
| 教科書 | 『保育者と学生・親のための　乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』ミネルヴァ書房(2009) 福岡貞子ほか編著<br>『新版 児童文化』ななみ書房(2016) 皆川美恵子ほか編著 |
| 参考書 | 『ことばと表現力を育む　児童文化』 萌文書林(2013) 川勝泰介ほか編著<br>『保育の中の絵本』 かもがわ出版(2015) 正置友子ほか編著 |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと、及び、グループでの企画・発表とレポート対策のための時間も確保すること。（週 4 時間程度） |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | こころの科学 | 桑原義登 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 「こころ」について、臨床心理学的理解の仕方を学ぶ科目である。こころと行動のメカニズムなどの基礎知識や心理学の諸理論について学ぶことにより、人と人との関わりや環境が人間の心や行動にどのように影響するかを考えてもらう。行動観察・生育歴の調査・心理検査などによる臨床心理学的な見立てやカウンセリングなどの臨床心理面接技法などによる手立ての方法についても学んでもらう。心理学の基礎知識を基本にして、社会的に問題になっているいじめ・不登校などの問題行動の理解の仕方や心理学的支援の仕方についても身につけてもらう。 |
| 授業の目標 | こころと行動のメカニズムなどの心理学の基礎知識や臨床心理学的な応用力を学ぶことにより、保育や教育等の現場での子ども理解や課題となる行動を見立てる力量（アセスメント）と手立てを行う力量（臨床心理学的支援）を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学を学ぶ意義と基本的な考え方 | 8 | 面接や観察による臨床心理学的見立て |
| 2 | 心理学の歴史と学派 | 9 | 心理検査による臨床心理学的見立て |
| 3 | こころの発達とライフサイクルの視点 | 10 | 臨床心理学的支援のあり方 |
| 4 | 動機付け・情動・性格・知能などの基礎知識 | 11 | 不登校の臨床心理学的理解と支援 |
| 5 | 感覚・知覚・記憶・学習・適応などの基礎知識 | 12 | いじめの臨床心理学的理解と支援 |
| 6 | ストレスとメンタルヘルス | 13 | 発達期の障害への臨床心理学的理解と支援 |
| 7 | 精神分析による心のしくみと防衛機制 | 14 | 事例検討による臨床心理学的理解と支援 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%, 授業の最後に行う小レポート 20%, 授業への取り組み 10% |
| 教科書 | 『はじめての心理学概論』ナカニシヤ出版 古見文一 他著 |
| 参考書 | なし |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われるプリントや教科書の内容をよく読んでおくことと、子どもの行動をよく観察しておき、問題意識を持って授業に臨んで欲しい。（週 4 時間程度）<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 児童相談所心理専門職と臨床心理士としてのスクールカウンセラー等の経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 生命と進化 | 芝田 史仁 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 生物進化の仕組みとその基盤となる生物学の基礎を学ぶ科目である。生命の定義とその起源、細胞、遺伝子と遺伝の仕組み、突然変異、自然選択、性選択、遺伝的浮動、種分化など、生物種の多様性をもたらす仕組みについて、最新の研究成果に基づくデータを紹介しながら解説する。 |
| 授業の目標 | 細胞や遺伝子など、生命の基本的成り立ちや、生物種の多様性をもたらす仕組みについての理解を深め、太古から続く生命連鎖への理解に基づく生命観と、命への真摯な態度を身につけることを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション：生物とは | 8 | 生物進化と自然選択 |
| 2 | 細胞の構造と機能 | 9 | 性選択 |
| 3 | 物質と代謝 | 10 | 動物の行動と社会 |
| 4 | 遺伝とDNA | 11 | 個体と個体群の生態 |
| 5 | 遺伝子の発現 | 12 | 生物間相互作用と共生 |
| 6 | 生物の生殖・発生・分化 | 13 | 生物群集と生態系の機能 |
| 7 | 遺伝的変異と種分化 | 14 | 地球生態系の現状と未来<br>まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 80%， 授業へ取り組む姿勢・態度 20% |
| 教科書 | 指定しない |
| 参考書 | 『大学1年生のなっとく生物学』田村隆明著 講談社<br>『大学1年生のなっとく生態学』鷲谷いづみ著 講談社 |
| 授業外の学習方法 | 週4時間程度の復習を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 現代メディア論 | 伊藤 宏 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 私たちは情報の中に生きているといっても過言ではなく、情報に無縁の生活はあり得ない。いわゆる高度情報化社会で生きていくためには、良質な情報を入手し、それらを正確に読み解いた上で的確な判断をなし得るスキルが必須となる。そこで、情報を提供するメディアに着目して、まずその特性について学んでいく。そして、マスメディアの具体的な活動と、提供された情報の内容を通して、現状と問題点について様々な側面から考察する。 |
| 授業の目標 | 到達目標は、<br>1)様々なメディアの特徴や問題点について理解する。<br>2)メディアから得られる情報の収集法、活用法を理解する。<br>3)現代社会の状況を情報発信、情報受信の観点から理解する。<br>4)情報を使いこなし、それに基づいて自分の考えを述べられるようになる、ことである。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | はじめに～メディアとは何か | 8 | 「ニュース」とは何であるか |
| 2 | メディアの発達史 | 9 | メディアと企業論理 |
| 3 | パーソナルメディアと日常生活 | 10 | メディアと客観報道 |
| 4 | マス・コミュニケーションとメディア | 11 | メディアと政治権力 |
| 5 | メディアとジャーナリズムとの関わり | 12 | メディアと人権 |
| 6 | マスメディアの特徴とその論理 | 13 | インターネット情報の特徴と問題点 |
| 7 | マスメディアによる情報提供（報道）の仕組み | 14 | 私たちが身につけるべきメディアリテラシー |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%， 課題レポート 20%， 授業への取り組み 10% |
| 教科書 | 特に指定はせず、講義毎にプリントを配布する。 |
| 参考書 | 『メディア論』みすず書房(昭和62年7月） M・マクルーハン著<br>『テレビニュースの社会学』世界思想社(平成18年3月）伊藤守著 |
| 授業外の学習方法 | 週 4 時間程度の復習を行うこと。<br>試験対策、レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | （社）共同通信社記者経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | フランス語コミュニケーション | GODFROY ROBIN | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 国際言語としてのフランス語の修得を目指す科目である。発音やよく使われる表現などに重点を置くとともに、それらを十分に理解できるようフランス語の文の構造も初歩から指導する。ネイティブスピーカーからの直接的な言葉により、言語の背景にある異文化の理解も図る。生きたフランス語の運用能力を身に付けると同時に、フランスの文化・習慣の理解もできるようにする。 |
| 授業の目標 | ネイティブスピーカーからフランス語の音声と会話表現を学び、練習問題をとおして基礎文法を固め、初歩的な会話能力を身につける。フランス語の初歩的な文法と語彙を学び、フランス社会の習慣や文化に親しみながら、フランス語による多文化圏でのコミュニケーション能力の涵養を目指す。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | Alphabet、発音の基礎、性と数 | 8 | 様々な動詞を使って話す |
| 2 | 基本動詞（être と avoir）、主語の代名詞、簡単な自己紹介 | 9 | 発音、基本動詞、前置詞、否定形、定型文章等 |
| 3 | 数字（1～２０）、曜日、月、色 | 10 | 人を描写する、身体・性格と様々なものの状態を言う |
| 4 | 「～がある・～がいる」を言う、主な疑問詞（どこ、いつ、なぜ等） | 11 | 朝の支度を言う（起きる、シャワーを浴びる、朝食をとる等）1（＋代名動詞） |
| 5 | 主な前置詞、否定形 | 12 | 朝の支度を言う（起きる、シャワーを浴びる、朝食をとる等）2（＋代名動詞） |
| 6 | 時刻の言い方、天気の言い方 | 13 | 過去形1（作り方：助動詞＋過去分詞） |
| 7 | 好みや趣味を言う | 14 | 過去形２（過去を表す言葉：昨日、先週、去年　等） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%，小テスト 30%，授業への取り組み 20% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『アン・グラメール』駿河台出版社 シルヴァンソヴグラン・西部由里子・細貝健司 著 |
| 授業外の学習方法 | 週に 1 時間程度、前の授業の内容を復習すること（各授業の冒頭に、20 分程度、前授業についての学習理解が口頭でチェックされる）。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | フランス語通訳者を行っている者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 中国語コミュニケーション | 相川 恵 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 国際的な理解と多文化圏でのコミュニケーション能力の涵養を目指し、国際言語としての中国語の修得を目指す科目である。基本的な発音の習得や文法の理解を中心に、日常場面で適切な応答表現ができる中国語の運用能力を身につけ、グローバル化する国際社会に通用する異文化コミュニケーション能力の修得を目的とする。 |
| 授業の目標 | 中国語の発音を修得し、基本的なコミュニケーションに必要なフレーズを通して、基礎的文法と語彙を身につける。また、語学だけでなく、中国・台湾・香港などの中華圏の文化事情の知識も身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中国語について紹介、発音の基本練習 | 8 | 第6課：場所を尋ねる　指示代名詞、存在を示す「在」 |
| 2 | 第1課:あいさつする　人称代名詞、動詞「是」、疑問詞「吗」の使い方 | 9 | 第7課：注文する　所有と存在を示す「有」、数量の言い方 |
| 3 | 第2課：名前を尋ねる　疑問詞「谁」、「什么」、「的」 | 10 | 第8課：値段の交渉をする　指示代名詞、量詞、値段の言い方、尋ね方 |
| 4 | 第3課：食べたいものを尋ねる　動詞述語文、副詞「也」、疑問詞「呢」 | 11 | 予定の尋ね方・時刻の言い方から値段交渉の言い方、尋ね方まで |
| 5 | 第4課：近況を尋ねる　形容詞述語文、曜日の言い方、尋ね方 | 12 | 第9課：出来事を尋ねる①　完了を表す「了」、連動文 |
| 6 | あいさつ言葉からいろいろな尋ね方まで | 13 | 第10課：出来事を尋ねる②　様態補語、「是・・・的」 |
| 7 | 第5課：予定を尋ねる　疑問詞「哪儿」、時刻の言い方、前置詞「和」 | 14 | 中国語の正しい発音を意識した基本的な会話 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の授業中に提示する課題への取り組み状況およびその内容　40%,<br>授業内に行う小テスト 30%,　定期試験 30% |
| 教科書 | 『できる・つたわるコミュニケーション中国語』白水社 岩井伸子、胡興智 著 |
| 参考書 | 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社　新訂版(2016年11月1日) 相原茂、石田知子、 戸沼市子 著 |
| 授業外の学習方法 | 1 週間に 2 時間程度の予習・復習等を行うこと。<br>課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 中国語講師、ホテル、法廷、刑務所等にて通訳業務を行った者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 情報処理演習Ⅱ | 大山輝光 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 情報処理演習Ⅰで学んだ基礎知識を土台に、各種文書の作成方法、表計算ソフトを使用したデータ処理やグラフ作成を学ぶ。また、論文やレポートの作成、プレゼンテーションソフトを利用した発表方法の基礎について学ぶ。パソコンを用いた音楽データの扱いや映像制作の方法を学習することで、マルチメディアを活用した自発的学習を促す教育の方法について考える。 |
| 授業の目標 | パソコンと周辺機器、アプリケーションソフトの実践的な使い方、ビジュアルプログラミング言語について理解する。情報を処理・活用し、文書やグラフ、プレゼンテーション、動画などで表現するための知識と技術、プログラミング教育用教材に対する基礎的な知識を習得することを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回100分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（受講に関する注意、課題レポートの作成と提出方法） | 8 | プログラミング教育用教材入門（ビジュアルプログラミング言語の利用） |
| 2 | 新聞・ポスター、論文・レポートの作成（段組、ヘッダー・フッター、ページレイアウト、参考文献） | 9 | プログラミング教育用教材の理解①（Scratchの利用） |
| 3 | 表計算ソフトを利用したデータ処理、グラフ作成、集計表とグラフの入った資料作成 | 10 | プログラミング教育用教材の理解②（micro:bitの利用） |
| 4 | 表計算ソフトにおけるプログラミングの方法①（ワークシートを活用するマクロ） | 11 | プログラミング教育用教材の理解③（機械学習入門） |
| 5 | 表計算ソフトにおけるプログラミングの方法②（処理、条件判断、繰り返し） | 12 | マルチメディアを活用した表現の方法①（ビジュアルプログラミング言語による音声・静止画像・動画像の利用） |
| 6 | 表計算ソフトにおけるプログラミングの方法③（VBAによるシミュレーション） | 13 | マルチメディアを活用した表現の方法②（HTMLとJavaScript） |
| 7 | プレゼンテーションソフトを利用した発表の方法（スライドマスター、配付資料、周辺機器の接続、スライドショー） | 14 | マルチメディアデータの扱い、映像制作の方法 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の授業中に提示する課題への取り組み状況およびその内容 30%，<br>課題レポート 30%， 実技試験 30%， 積極的な受講態度 10% を総合して評価する。 |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。<br>（『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他） |
| 参考書 | 『Excel環境におけるVisual Basicプログラミング』共立出版(平成25年11月) 加藤潔 著<br>きのくにICT教育 小学校プログラミング教育 学習指導案集<br>きのくにICT教育 中学校プログラミング教育 学習指導案<br>きのくにICT教育 高等学校＜共通教科情報科＞プログラミング教育 学習指導案 |
| 授業外の学習方法 | 事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。多目的コンピュータ室の機器を積極的に活用し、週1時間程度の自主的な学習が必要である。レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | インターンシップ<br>（事前・事後指導を含む） | 森﨑陽子<br>千森督子 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育者・保育者となる前に、社会人としての勤労意識を養う科目である。民間企業や地方公共団体などで就業体験を行う。実習体験を通じて、その職業に対する理解を深め、社会人として求められる勤労観を深く知ることを目標とする。また、就業体験の前に事前研修を、就業体験の後に研修報告会を行う。さらに、教職・保育職との違いや類似点、大学での学びと実社会との関連などに直接体験を通じて気付き、人間的な成長を図ることを目標とする。 |
| 授業の目標 | インターンシップを通して社会人としての勤労意識を養う科目である。<br>【目標】①自己を理解し適性を知る<br>②就職活動に向けた準備や手続きを理解する<br>③就労の実態を体感し、就職活動の幅を広げる<br>④多様な人々と共に目標に向けて協力する力を養う |

**授業のテーマ及び内容**

授業計画

事前指導

ガイダンスⅠ（インターンシップ意義・目標・心得と実習先の選択、エントリーシート作成等）

ガイダンスⅡ（エントリー練習シートチェックとWebエントリー方法の説明、実習先決定と理解等）

ガイダンスⅢ（事務手続きを含む事前準備、ビジネスマナー、参加にあたっての注意事項等）

実習　1日8時間10日間程度の実習に取り組む(実習期間中は実習要録作成)

事後指導

ガイダンスⅣ（実習要録整理し提出、自己の到達状況把握）

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%， 実習要録 20%， 授業への参加度 10% |
| 教科書 | 教科書は特に指定せず適宜資料を配布 |
| 参考書 | 『大学生のためのキャリアデザイン　自己を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 川﨑友嗣編<br>『インターンシップ入門:就活力・仕事力を身につける』玉川大学出版部　日本インターンシップ学会関東支部監修、折戸晴雄他編 |
| 授業外の学習方法 | 配布資料等の復習を行い、理解を深める。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | まちづくりの経済学 | 濱田　智司 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 地域経済を支える“まち”の過去・現在・未来について学ぶ科目である。“まち”の生い立ち、流通革命や産業構造の変化に伴う中心市街地の空洞化といった過去の事象から、現在どのような問題が生じているかを経済・産業構造から概観し、今後期待される“まちづくり”のあり方について、最新の動向「コンパクトシティ」や「リノベーションまちづくり」等の解説を行いながら“まちづくり”と経済との密接な関係を学んでいく。 |
| 授業の目標 | 新たなまちづくり手法として注目されている「リノベーションまちづくり」について、実際に「ぶらくり丁や周辺のまち」に出てみて、関係者から話を聴きながら、今後のまちづくりの課題を学ぶ。まちづくりへの模擬体験を通し、自らの責任と積極的な社会参画の意識を持つことで、社会人として、まちづくりという地域貢献手法への意識を高めることを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 100 分(但し、10～11 回、12～13 回は連続で 200 分) | |
|---|---|---|---|
| 1 | 【戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状】<br>戦後日本経済の変遷とまちづくりの現状を概観する。 | 8 | 【先進事例との比較:高松市丸亀町と和歌山市】<br>高松市丸亀町商店街と和歌山市ぶらくり丁商店街の中心市街地活性化を比較し、失敗原因を探る。 |
| 2 | 【和歌山経済の変遷①】<br>維新後の和歌山市の状況を概観し、街の成立の歴史的経緯を学ぶ。 | 9 | 【リノベーションまちづくり】<br>新たなまちづくり手法として注目されている「リノベーションまちづくり」とは何かを学ぶ。 |
| 3 | 【和歌山経済の変遷②】<br>和歌山の経済的な特徴を概観し、高齢化率や県内生産性の低下等の現状を学ぶ。 | 10<br>11 | 【フィールドワーク:リノベーションまちづくりを学ぶ】<br>ぶらくり丁周辺で実際に実施されている「リノベーションまちづくり」について、実際にぶらくり丁周辺や本町公園にてフィールドワークを行い、まちの実態を把握する。 |
| 4 | 【国のまちづくり施策①】まちづくりに必要な5つの視点や役割、要素等を学ぶ。 | | |
| 5 | 【県と市のまちづくり施策】<br>街づくり関連法制度等、県や和歌山市が取り組んでいる中心市街地の活性化について学ぶ。 | 12<br>13 | 【フィールドワーク:まちづくりの課題を学ぶ】<br>まちづくりの継続的事業であるポポロハスマーケットの運営状況から、現在のまちづくりが抱えている問題点を学び、実際の企画運営等の概要を経験しながら、まちづくりの意義を学ぶ。 |
| 6 | 【市民有志や学生の参画】「2030 わかやま構想」について市民有志や学生の参画状況を概観する。 | | |
| 7 | 【先進事例研究:湯浅町、長野県飯田市】<br>和歌山県湯浅町、長野県飯田市、のまちづくり事例を学ぶ。 | 14 | 【フィールドワークで学んだテーマの情報共有】<br>フィールドワークで学んだ点を共有化した後、グループで発表し、まちづくりの課題を改めて考える。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%, 課題レポート 20%, 受講態度・授業への参加度 10% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『リノベーションまちづくり』学芸出版社刊(2014 年 9 月) 清水義次著 |
| 授業外の学習方法 | 授業の復習は週 4 時間程度行うこと。また、「まちづくり」に関するインターネット検索を適宜行い、先進事例等やまちづくりの問題・課題等を自分なりに考えて、授業に参加すること。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 和歌山商工会議所登録専門家、和歌山県商工会連合会スーパーバイザーを務めている者がすべての回を担当。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 地域の生活文化 | 千森督子 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 地域の生活文化が形成される背景について理解し、世界や日本各地の多様な生活文化について概観する。その後、和歌山の伝統的な暮らしにみられる生活文化について学ぶ。和歌山の各地域別(紀北・紀中・紀南)に、気候風土や人々の生業、暮らしの中で育まれ、伝承されてきた生活文化について知る。地域の生活文化への理解を促し、郷土和歌山への愛着心育成を目指す。 |
| 授業の目標 | 地域の生活文化が理解でき、郷土和歌山への愛着心を育むことができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域の生活文化とは | 8 | 紀北(3)漆器業の町黒江の生活文化 |
| 2 | 世界各地の特色ある生活文化 | 9 | 紀中(1)有田川流域の農家住宅にみる接客空間の変容 |
| 3 | 日本の生活文化の特性 | 10 | 紀中(2)湯浅の醤油醸造家の生活文化 |
| 4 | 日本各地の特色ある生活文化 | 11 | 紀中(3)山間部の生活文化と沿岸部の生活文化 |
| 5 | 和歌山県の生活文化の特性 | 12 | 紀南(1)熊野川・北山川流域の川と共に生きる人々の生活文化 |
| 6 | 紀北(1)紀の川流域の農家住宅にみる生活文化 | 13 | 紀南(2)紀伊山地の農林業家の生活文化 |
| 7 | 紀北(2)傾斜環境に立地する漁師町雑賀崎の生活文化 | 14 | 紀南(3)懸泉堂の先駆的な洋風化事例にみる生活文化 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | レポート 90%, 授業に取り組む姿勢(意見発表等) 10% |
| 教科書 | 教科書は用いず、適宜、資料を提供 |
| 参考書 | 『生活文化を考える』光生館 川崎衿子・茂木美智子<br>『街道の日本史35 和歌山・高野山と紀ノ川』株式会社吉川弘文館(2003年12月) 藤本清二郎・山陰加春夫編 |
| 授業外の学習方法 | 次回の内容に該当する書籍や資料を学習し、理解を深めておくこと (週 4 時間程度)。復習を兼ねた課題作成の時間も確保しておく。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 文学と郷土 | 平松 正昭 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 日本の文学作品（詩歌、俳諧、小説、説話、神話等）について、和歌山を中心に古代から近現代に至るまで時代順に学習し、それらの作品の舞台となった地域の文化・歴史・風土及び地域環境等について理解を深める科目である。古典分野では、記紀神話・平家物語等の舞台となった和歌山、紀伊万葉の理解と故地探訪、西行、芭蕉等の和歌山での足跡等を学ぶ。近現代分野では、佐藤春夫や有吉佐和子等の和歌山県出身及び縁のある作家を軸に、その作品や業績等を学習し、この授業を通して和歌山の一層の理解、親近感等を培う。 |
| 授業の目標 | 高校の学習ではあまり触れられてこなかった和歌山に関する文学作品を中心に学習し、和歌山の文化・歴史・風土及び周辺環境等の一層の理解を深める。授業ではスライドや様々な資料を使うとともに、紀伊万葉をはじめとした文学石碑探訪も行う。本学習を通して和歌山にこれまで以上の親近性、愛着、誇る心等が受講者の中に育つことを目的とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 日本文学史からみた和歌山の文学の位置づけ及び「日本神話」について学習する | 8 | 松尾芭蕉、与謝蕪村等の近世の俳人と和歌山との関連について学習する |
| 2 | 「古事記」「日本書紀」等に登場する和歌山について学習する | 9 | 和歌山に関係する民話、伝統、昔話、縁起物等について学習する |
| 3 | 万葉集①：万葉集の中に多く詠まれたいわゆる「紀伊万葉」について学習する | 10 | 明治以降の文学における和歌山①： 夏目漱石を中心に学習する |
| 4 | 万葉集②「紀伊万葉」故知の探求、和歌浦、有間皇子等について学習する | 11 | 明治以降の文学における和歌山②： 佐藤春夫を中心に学習する |
| 5 | 平家物語①：平家物語の概要と物語に描かれた和歌山について学習する | 12 | 昭和の文学における和歌山：有吉佐和子を中心に学習する |
| 6 | 平家物語②：平家物語に登場する人物（平維盛等）や熊野信仰、高野山等関連事項について学習する | 13 | 近現代の文学における和歌山：和歌山出身の作家や作品について学習する |
| 7 | 和歌山出身と言われる西行の歌や業績、足跡等について学習する | 14 | 近代以降の和歌山の文学に登場する和歌山方言について学習する |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%， 課題、レポート等 20%， 受講態度・授業への参加度 30% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布 |
| 参考書 | ふるさと教育副読本『わかやま発見』 和歌山県教育委員会編 |
| 授業外の学習方法 | 授業の事前学習と発表、紀伊万葉故知の石碑に関するレポート作成、授業ノート作成と点検（週 4 時間程度）。試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必･選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 地域力再生論 | 宮定 章 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 和歌山が抱える地域課題についての理解を進め、課題解決するための力を身につける授業である。過疎高齢化が進む和歌山県の町づくり事例や空き家問題解決に繋がる古民家再生の先駆的な事例等について学ぶ。講義形式だけでなく、ゲストスピーカーを招き（行政関係者、地域住民、NPO 関係者等）、地域共生の課題を見出す。さらに、グループ別に現地調査を実施して、協働的・実践的に学習する。そこで学んだ内容を報告し合い、地域社会の一員として何が出来るかを「自分事」として考察する力を養う。 |
| 授業の目標 | ・和歌山県が抱える様々な地域課題を理解し、今後求められる持続可能で包摂的な地域社会のあり方について考える。<br>・行政機関の担当者や地域住民、NPO 関係者等の話を聞き、コミュニケーションの中から課題を発見し、解決方法を考える力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域力再生とは<br>オリエンテーション（授業の概要と計画、評価の説明等） | 8 | 地域住民との対話 |
| 2 | 持続可能で包摂的な地域社会に向けた課題の経緯 | 9 | 多文化共生推進者との対話 |
| 3 | 地域課題の解決方法を知る | 10 | 地域住民・NPO との対話 |
| 4 | 地域課題の解決方法を考える | 11 | グループごとに課題整理 |
| 5 | 和歌山県の行政担当者との対話 | 12 | グループごとに報告準備 |
| 6 | 地域企業との対話 | 13 | 報告会の練習と最終レポートの準備 |
| 7 | NPO との対話 | 14 | 学習体験報告会・まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 小レポート 65%, 最終レポート 35% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『地域再生入門』ちくま新書 山浦晴男<br>『SDGsの実践』自治体･地域活性化編 事業構想大学院大学出版部 |
| 授業外の学習方法 | 質疑のインタビューのための準備等を行う。（週 4 時間程度）<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 地域連携フィールド<br>ゼミナール | 森﨑陽子　森下順子<br>宮定　章　小田真弓<br>千森督子 | 4 | 必修 | 演習 |
| 授業の概要 | | フィールド学習により地域特性への理解を深めながら、内在する地域課題を解決する意欲と課題解決力の向上を図る科目である。担当教員のもと、10〜15 人程度の少人数グループに分かれて、ゼミ形式で学習を深める。各自治体及び地域の団体等と連携して、地域の特性や町の仕組み、抱える課題を調査・探求し、町の整備、活性化や歴史的風致維持向上にむけた計画、提案を考える。 | | | | |
| 授業の目標 | | フィールド(実社会の現場)での実践教育により地域社会の現状と特性への理解を深めながら、内在する地域課題を解決する意欲と課題解決力育成を目標とする。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 200 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域特性の理解を深め、課題を明確にする | 8 | ゼミ学習：フィールド学習準備 |
| 2 | ゼミ選択：フィールド学習の進め方を理解し、所属ゼミ決定 | 9 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　① |
| 3 | ゼミ学習：フィールド学習地域の仕組みについての学習 | 10 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　② |
| 4 | ゼミ学習：フィールド学習地域の特性についての学習 | 11 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　③ |
| 5 | ゼミ学習：フィールド学習地域が抱える課題検討 | 12 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　④ |
| 6 | ゼミ学習：フィールド学習内容の検討 | 13 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑤ |
| 7 | ゼミ学習：フィールド学習内容の整理 | 14 | 前期ゼミの振り返り・学習成果の確認 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 地域連携フィールド<br>ゼミナール | 森﨑陽子　森下順子<br>宮定　章　小田真弓<br>千森督子 | 4 | 必修 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 200 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑥ | 22 | ゼミ学習：研究成果の整理 |
| 16 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑦ | 23 | ゼミ学習：研究成果の考察 |
| 17 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑧ | 24 | ゼミ学習：研究成果のまとめ |
| 18 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑨ | 25 | ゼミ学習：提案整理 |
| 19 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑩ | 26 | 研究発表会：発表準備 |
| 20 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑪ | 27 | 研究発表会：研究成果、提案発表 |
| 21 | フィールド学習：地域と連携し、研究課題に取り組む　⑫ | 28 | 研究発表会：研究成果、提案の相互評価 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | ゼミ学習・フィールド学習への取り組み 40%，研究発表会 60% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『地域に学ぶ、学生が変わる-大学と市民でつくる持続可能な社会』 東京学芸大学出版会<br>地域と連携する大学教育研究会編<br>『地域と大学の共創まちづくり』学芸出版社　小林英嗣、地域・大学連携まちづくり研究会他 |
| 授業外の学習方法 | フィールド学習地域に関する文献調査等を１週間に２時間程度行うこと。<br>研究発表会の準備・まとめ等の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 社会福祉 | 太田 作也 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育の基礎理論として、社会福祉の理念と仕組みについての理解を深める科目である。社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、社会福祉の制度や実施体系等について学ぶ。また、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて学ぶと共に、社会福祉の動向と課題について理解を深めることを目指す。 |
| 授業の目標 | この世に生をうけてから亡くなるまでの生涯にわたり、私たちの生活と社会福祉は密接な関わりを持っている。具体的なトピックを取り上げながら、福祉専門職としての保育士に求められる、社会福祉の歴史・理念・制度・政策などについての基礎知識を学ぶ。<br>・社会福祉の歴史と現状、制度・政策に関する基礎知識を身につける。<br>・自らが社会福祉の当事者（専門職、利用者、地域住民）であるとの認識を持つ。<br>・社会福祉に関する知識を保育現場で活かすことへの意欲を持つ。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>「社会福祉」の基礎的理解、理念、歴史 | 8 | 社会福祉サービスの供給方法（社会福祉法人の取組） |
| 2 | 社会福祉ニーズとは何か、その把握方法 | 9 | 地域福祉の概観 |
| 3 | 社会福祉サービスの分野（児童、障害） | 10 | 地域福祉の推進組織と担い手（民生委員、ボランティア） |
| 4 | 社会福祉サービスの分野（高齢、母子・父子・寡婦、生活保護） | 11 | 社会福祉協議会の変遷（声なき声に寄り添う）と地域福祉 |
| 5 | 社会福祉サービスの分野（生活困窮） | 12 | 社会福祉協議会の変遷（災害ボランティア活動）と地域福祉 |
| 6 | 社会福祉サービスの供給方法（施設福祉と在宅福祉） | 13 | 社会福祉の専門職とソーシャルワーク実践 |
| 7 | 社会福祉サービスの供給方法（ホームヘルパー） | 14 | 社会福祉の法、関連諸制度、社会福祉の動向、まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 60%， 課題・小テスト等 20%， 受講態度・授業への参加度 20% |
| 教科書 | 各回の授業で資料を配布する。 |
| 参考書 | 『七訂版 社会福祉概論』中央法規出版（2022 年 1 月）西村昇・日開野博・山下正國編著 |
| 授業外の学習方法 | 授業の復習、各課題別小レポート作成及び小テスト対策に向けた学習を週 4 時間程度行う。定期試験対策の時間も確保する。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 社会福祉協議会での実務経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 社会的養護 | 桑原義登 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育者として必要な社会的養護の理念と制度の基礎的理解を目指す科目である。現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解するとともに、社会的養護の制度や実施体系、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援について学び、社会的養護の現状と課題について理解を深める。 |
| 授業の目標 | 現代の社会情勢の中での社会的養護の必要性や意義を理解したうえで、保育等の現場で社会的養護が必要な子どもを発見して関係機関と連携しながら対応していく知識や技術を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 最近の社会情勢と社会的養護の必要性 | 8 | 社会的養護の制度と実施体系 |
| 2 | 社会的養護の意義と変遷 | 9 | 施設養護の特徴・役割・課題 |
| 3 | 児童虐待の実態から見る現状と課題 | 10 | 家庭的養護（里親制度）の特徴・役割・課題 |
| 4 | 児童養護施設等の課題と今後の展望 | 11 | 児童虐待防止の制度と被虐待児童への支援 |
| 5 | 家庭養護と社会的養護の関係 | 12 | 社会的養護事例の発達に沿った支援を考える |
| 6 | 社会的養護の日常生活支援と自己実現に向けた支援 | 13 | 地域と連携した支援のあり方 |
| 7 | 社会的養護の治療的支援と自立支援 | 14 | 児童虐待模擬事例のグループワーク |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%，授業の最後に行う小レポート 20%，授業への取り組み 10% |
| 教科書 | 『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』萌文書林 吉田眞理 |
| 参考書 | 『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』萌文書林 原田旬哉他 |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われるプリントや教科書の内容をよく読んでおくことと、実習等で支援を必要とする子どもに注意して問題意識を持って授業に参加してください。（週 4 時間程度）<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 児童相談所心理専門職と臨床心理士として児童福祉施設等への支援を行っている経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 国語（書写を含む） | 小林康宏 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校学習指導要領(国語科)の学習指導の背景となる国語学の専門的理解を深める科目である。指導要領に示された「読み・書き・聞く・話す」の指導内容を探究することを中心に、言語活動の特質やあり様、それを支える言語そのものの系統性や法則性、そして国語科教育の特質について学ぶ。 |
| 授業の目標 | 言語そのものの系統性や法則性の理解を深めつつ、小学校学習指導要領（国語科）の構造・各領域の内容、言語活動の特徴を理解し、指導の基本を修得すると共に、書写指導に関する基礎的知識・技能の実践による習得を目指す。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 国語科教育の全体像:指導内容の概観をする。 | 8 | 「言葉の特徴や使い方」の特徴:指導内容を知る。 |
| 2 | 「話すこと・聞くこと」の特徴:指導内容を知る。 | 9 | 「言葉の特徴や使い方」の指導:言語活動を行う。 |
| 3 | 「話すこと・聞くこと」の指導:言語活動を行う。 | 10 | 「伝統的な言語文化」の特徴:指導内容を知る。 |
| 4 | 「書くこと」の特徴:指導内容と系統性を知る。 | 11 | 「伝統的な言語文化」の指導: 言語活動を行う。 |
| 5 | 「書くこと」の指導:教材を使い言語活動を行う。 | 12 | 「書写」の特徴:指導内容を系統的に知る。 |
| 6 | 「読むこと」の特徴:指導内容と系統性を知る。 | 13 | 「書写」の指導:授業の基本的な方法を知る。 |
| 7 | 「読むこと」の指導:教材を使い言語活動を行う。 | 14 | 「情報の扱い方」の特徴:指導内容を知る。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 30%， 毎回の授業後に提出する小レポート 30%， 模擬授業 40% |
| 教科書 | 『「言葉による見方・考え方」を育てる！子どもに確かな力がつく授業づくり７の原則×発問&指示』明治図書　小林康宏<br>『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版社(2018 年２月）文部科学省 |
| 参考書 | 適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 受講した授業の内容を復習カードにまとめ、次時の授業で行う内容を予習カードにまとめる等、1 週間に 4 時間程度の予習・復習等を行うこと。試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 算数 | 山本紀代 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校学習指導要領(算数科)の学習指導に必要な数学の専門的理解を深める科目である。指導要領に示された学習内容「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の内容を数学的観点から深く掘り下げ、講義や演習を通して小学校教員に必要な数理的な考え方を身に付けることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 算数の指導について自ら考える力を養うための算数の教科内容の深い理解を目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学習指導要領と「算数」の教科内容 | 8 | 「測定」領域に関連する話題（量の概念と比較） |
| 2 | 「数と計算」領域に関連する話題（整数・小数・分数） | 9 | 「測定」領域に関連する話題（量の単位と測定） |
| 3 | 「数と計算」領域に関連する話題（式と計算） | 10 | 「変化と関係」領域に関連する話題（単位量当たりの大きさ） |
| 4 | 「数と計算」領域に関連する話題（四則演算） | 11 | 「変化と関係」領域に関連する話題（割合・比） |
| 5 | 「数と計算」領域に関連する話題（概数と見積り） | 12 | 「変化と関係」領域に関連する話題（比例・反比例） |
| 6 | 「図形」領域に関連する話題（平面図形・立体図形） | 13 | 「データの活用」領域に関連する話題（測定値の平均） |
| 7 | 「図形」領域に関連する話題（角・面積・体積） | 14 | 「データの活用」領域に関連する話題（表・グラフ）・プログラミングの考え方 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 40%，課題レポート 30%，授業への取り組み 30% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版(2018年2月) 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。授業内容に関する調査・考察を含め週 4 時間程度の自主学習。課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当する |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 理科 | 秋吉博之 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校理科では、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、「物質・エネルギー」「生命・地球」の各領域について理解を深め、観察・実験などの技能を修得する。 |
| 授業の目標 | 小学校理科の「物質」、「エネルギー」、「生命」、「地球」の各領域における学習内容について、観察・実験を通して、理科の授業実践のための知識と技能を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 理科室での安全指導 | 8 | 小学校理科 3、4 年・物質領域 |
| 2 | 小学校学習指導要領〈理科〉 | 9 | 小学校理科 5、6 年・物質領域 |
| 3 | 野外活動の実際 | 10 | 小学校理科 3、4 年・エネルギー領域 |
| 4 | 実験器具の使い方(1)生命・地球領域 | 11 | 小学校理科 5、6 年・エネルギー領域 |
| 5 | 実験器具の使い方(2) 物質・エネルギー領域 | 12 | 小学校理科 3、4 年・地球領域 |
| 6 | 小学校理科 3、4 年・生命領域 | 13 | 小学校理科 5、6 年・地球領域 |
| 7 | 小学校理科 5、6 年・生命領域 | 14 | 理科のこれからの課題 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 50%, 観察・実験への取り組み 30%, 授業への取り組み 20% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『理科教育法 第 3 版』大学教育出版(2018 年 10 月) 秋吉博之編著 |
| 参考書 | 小学校理科検定教科書(東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、新興出版社啓林館) |
| 授業外の学習方法 | 各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度)<br>授業で指示する課題について取り組むこと。(毎回 180 分程度)<br>各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度) |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 社会 | 西端 幸信 | 2 | 選必 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 社会科の成立と変遷、目的を踏まえ、小学校学習指導要領に示される小学校第３学年から第６学年の目標および内容構成について概説する。その上で、社会科の方法原理、評価、授業作りの理論や学習指導の方法等を実践事例を通じて学び、各学年に配当されて学習課題を見極め、社会科指導の力量を培うとともに、確かな授業観、学習指導観を形成する。 |
| 授業の目標 | 1.社会科の目的、目標、内容構成を理解する。<br>2.社会科の指導内容の詳細を理解し、学習指導に必要な資質を養う。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会諸科学の成果を背景とした社会科の楽しさを授業実践から考える | 8 | 社会科の授業作りの理論 |
| 2 | 社会科の成立と変遷１（戦後から昭和 52･53 年告示まで） | 9 | 社会科の学習指導の方法 |
| 3 | 社会科の成立と変遷２（平成元年告示から現在） | 10 | 評価の高い実践に学ぶ |
| 4 | 新小学習指導要領における社会科の目的・目標と内容構成原理（第３学年・第４学年） | 11 | 現行の小学校社会の実践に学ぶ１（第３学年・第４学年の授業例より） |
| 5 | 新小学習指導要領における社会科の目的・目標と内容構成原理（第５学年・第６学年） | 12 | 現行の小学校社会の実践に学ぶ２（第５学年の授業例より） |
| 6 | 社会科の方法原理 | 13 | 現行の小学校社会の実践に学ぶ３（第６学年の授業例より） |
| 7 | 社会科の学力と評価の理論 | 14 | 現代的課題を探る |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%，授業後のレポート等提出物 50% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年２月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版(2018 年２月) 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 週４時間程度の復習及びレポート作成を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者が全ての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 器楽 | 溝口希久生<br>八代健志 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 初等音楽科教育の現場で様々な様式の楽曲で用いられる楽器の音色や奏法、合奏の特性を理解し、演奏の基本を習得することを目指す科目である。器楽作品の指導方法の研究を念頭に置き初等教育の現場で採り上げられる様々なスタイルの楽曲を、実際に音を出しながら、指導すべき問題を採り上げる形で授業を進める。 |
| 授業の目標 | ①打楽器、リコーダー、和楽器などの楽器の演奏や合奏等の演習を通して、それぞれの楽器の音色や奏法、アンサンブルや合奏の特性を理解し、楽器演奏の基本を習得する。さらに、多様な音楽に触れるようにし、様々な楽器の演奏を通して、楽器の音色や奏法、合奏の特性を理解した指導のあり方を学ぶ。（八代健志）<br>②ピアノ演奏を中心に、自身の器楽演奏能力向上を目指す。与えられたメロディーを、どのような方向性を持って演奏すれば、音楽的であるか瞬時に判断できるようになるとともに、鍵盤楽器の特性を把握し、適切な指導をできるようになることを目標とする。（溝口希久生） |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 100 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、授業概要、評価の説明<br>ピアノ演奏：ハ長調の和音伴奏（Cのコード伴奏） | 8 | パーカッションリズムアンサンブル(1)基礎リズム |
| 2 | ピアノ演奏：ハ長調の和音伴奏（C、Gのコード伴奏・コード・コードネーム） | 9 | パーカッションリズムアンサンブル(2)身体を使ったリズム表現 |
| 3 | ピアノ演奏：ハ長調の和音伴奏（C、Gのコード伴奏による弾き歌い・和音記号） | 10 | パーカッションリズムアンサンブル(3)ボディーパーカッション |
| 4 | ピアノ演奏：（Fのコード伴奏・主要三和音） | 11 | 器楽合奏（1）楽器の使い方：マリンバ等打楽器 |
| 5 | ピアノ演奏：ハ長調の和音伴奏（属七和音の和音伴奏・主要三和音の構成音） | 12 | 器楽合奏（2）楽器の使い方：鍵盤ハーモニカ |
| 6 | ピアノ演奏：ハ長調の和音伴奏（主要三和音と属七和音の機能） | 13 | 器楽合奏（3）楽器の使い方：その他の楽器の練習 |
| 7 | ピアノ演奏：ハ長調の和音伴奏（和音の響きの移り変わり） | 14 | 前期まとめと発表<br>ピアノ演奏の発表と前期のまとめ |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 器楽 | 溝口希久生<br>八代健志 | 2 | 選必 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | オリエンテーション、授業概要の説明<br>ピアノ演奏:ハ長調とヘ長調の和音伴奏(主要三和音) | 22 | リコーダーアンサンブル(1)ソプラノリコーダーの基礎奏法 |
| 16 | ピアノ演奏:ヘ長調の和音伴奏(ヘ長調の主要三和音と属七和音) | 23 | リコーダーアンサンブル(2)アルトリコーダーの基礎奏法 |
| 17 | ピアノ演奏:ト長調の和音伴奏(ト長調の主要三和音と属七和音) | 24 | リコーダーアンサンブル(3)リコーダーでのアンサンブル |
| 18 | ピアノ演奏:ニ長調の和音伴奏(ニ長調の主要三和音と属七和音) | 25 | 器楽合奏(1)小編成の合奏曲の演奏導入 |
| 19 | ピアノ演奏:ハ長調からヘ長調へ移調した伴奏(ヘ長調) | 26 | 器楽合奏(2)合奏演奏導入 |
| 20 | ピアノ演奏:ハ長調からト、ニ長調へ移調した伴奏(ト・ニ長調) | 27 | 器楽合奏(3)合奏 |
| 21 | ピアノ演奏:ハ長調からヘ、ト、ニ長調へ移調した伴奏(ヘ・ト・ニ長調) | 28 | 発表とまとめ<br>ピアノ演奏と器楽合奏の発表と評価 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 実技試験 50%, 器楽演奏の技能 30%, 課題テスト等 20% |
| 教科書 | 『楽譜 たのしいポケット歌集 新版』教育研究社<br>『こどものうた 100』チャイルド本社(1982 年 4 月) 小林 美実 |
| 参考書 | 必要に応じて、授業中に適宜紹介、資料配布をする。<br>『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 文部科学省<br>『保育所保育指針解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | その回に行われた内容を十分復習して練習し、次回の内容を予習しておくこと (週 3 時間程度)。試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 体育 | 原まなみ<br>大平誠也 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校学習指導要領(体育科)の学習指導に必要な身体教育学の専門的技能を高める科目である。子どもの運動発達や体育授業に関する意識について学習した上で、小学校体育の運動領域のうち、主として陸上運動系、ボール運動系、水泳系、表現運動系を中心に体育実技を行い、その技能を高めることを目標とする。 |
| 授業の目標 | 自らの現状を認識し、小学校学習指導要領(体育科)の学習指導に必要な身体教育学の専門的技能と知識を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>体つくり運動系：今の自分を知ろう　簡易体力テスト(反復横跳び、上体起こし、垂直跳びなど) | 8 | ボール運動系：バスケットボール（ゴール型) |
| 2 | 体力を高める運動・多様な動きを高める運動 | 9 | 表現運動系：リズムダンス・表現遊び・リズム遊び |
| 3 | 陸上運動系：短距離走・リレー | 10 | 表現運動系：フォークダンス |
| 4 | 陸上運動系：ハードル走 | 11 | 器械運動系：跳び箱・マット運動 |
| 5 | 陸上運動系：走り幅跳び | 12 | 器械運動系：鉄棒運動 |
| 6 | ボール運動系：ソフトバレーボール（ネット型) | 13 | 水泳系：水遊び、浮く・泳ぐ運動 |
| 7 | ボール運動系：キックベース（ベースボール型) | 14 | 水泳系：水泳 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 授業への参加態度(姿勢、発言、振り返りカード） 60%， 実技に関するレポート 40% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社(2018 年 2 月）文部科学省 |
| 参考書 | 『やってみる ひろげる ふかめる』光文書院(平成21年10月) 細江文利他<br>『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月）文部科学省<br>『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月）文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 各実技における指導上の留意点について、教科書を参考にしながら事前にまとめておく。実技を通して試みた指導事項について振り返りを行い、まとめておく。(週 1 時間程度)<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当する。<br>小学校教員としての経歴を生かし、各運動領域における体育指導にかかる指導事項を安心・安全をキーワードに体験を通して育成する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必･選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 家庭 | 中根真富<br>岡部美代恵 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 家庭科の各領域(「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」)に関係する内容を専門的観点から掘り下げることにより、生活学的知識と必要な技能等を習得しながら、教材に関する基本的な指導内容について学ぶ。 |
| 授業の目標 | 生活の営みに関わる見方・考え方を育成することができ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力が養われ、小学校家庭科の授業を担当できる基礎的力量形成を図ることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 家庭生活と家族 (1) 家族が協力して家庭生活を営むための仕事とその役割分担について （中根真富） | 8 | 生活を豊かにするための布を用いた製作（1）基礎的な知識と技能について（岡部美代恵） |
| 2 | 家庭生活と家族 (2) 家族の一員としてだけでなく集団や地域の一員としての役割について(中根真富) | 9 | 生活を豊かにするための布を用いた製作（2）製作計画と製作の工夫について（岡部美代恵） |
| 3 | 日常の食事と調理の基礎 (1) 食事の役割について(中根真富) | 10 | 快適な住まい方（1）住まいの主な働きと構成について（岡部美代恵） |
| 4 | 日常の食事と調理の基礎 (2) 調理の基礎技能について（中根真富） | 11 | 快適な住まい方（2）季節の変化に合わせた、自然に配慮した住まい方について(岡部美代恵) |
| 5 | 日常の食事と調理の基礎 (3) 実践的・体験的な学習を目指した調理実習について（中根真富） | 12 | 快適な住まい方（3）住まいの整理・整頓や清掃の仕方について（岡部美代恵） |
| 6 | 日常の食事と調理の基礎 (4) 栄養バランスを考えた献立について（中根真富） | 13 | 金銭教育の教材の開発について（岡部美代恵） |
| 7 | 日常着の快適な着方と手入れの必要性について -科学的な根拠からの検証-（岡部美代恵） | 14 | 環境に配慮した物の使い方の事例研究について(岡部美代恵) |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績　70%,　課題に関するレポートや作品　20%,<br>授業への貢献（意見発表等）10% |
| 教科書 | 小学校検定教科書『わたしたちの家庭科 5･6』開隆堂　鳴海多恵子、石井克枝、堀内かおる　著作者代表<br>小学校検定教科書『新しい家庭 5･6』東京書籍　浜島京子、岡陽子　編集者代表 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省<br>『早わかり&実践　新学習指導要領解説　小学校家庭　理解への近道』開隆堂　長澤由喜子、木村美智子　他 |
| 授業外の学習方法 | 週 1～2 時間程度の予習・復習を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 初等英語 | 辻伸幸 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校等における外国語活動・外国語に必要な背景知識の理解を高め、それらを意識し関連付けて授業を構成する多様な活動を実際に展開できる英語運用力を修得する科目である。背景知識を最初に学ぶ。次に、それらを意識したり関連させたりしながら「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の活動体験を通して授業実践に必要な英語運用力を身に付けることを目指す。ペアワークやグループワークなどの協働学習を組み入れ主体的、対話的に学んでいく。個人やグループでの学びの振り返りを行い到達目標の達成状況や課題の発見等も行っていく。 |
| 授業の目標 | 小学校等における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身に付ける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、自身の英語運用力の把握<br>小学校英語教育の実際 | 8 | 活動の体験を通した英語運用力向上 2<br>絵本 |
| 2 | 英語の音声、発音と綴りに関する基本的な知識 | 9 | 活動の体験を通した英語運用力向上 3<br>ゲーム |
| 3 | 文構造、文法に関する基本的な知識 | 10 | 活動の体験を通した英語運用力向上 4<br>クイズ |
| 4 | 語彙に関する基本的な知識 | 11 | 活動の体験を通した英語運用力向上 5<br>自己紹介、地域紹介、文化紹介 |
| 5 | 第二言語習得に関する基本的な知識 | 12 | 活動の体験を通した英語運用力向上 6<br>言語活動 |
| 6 | 聞くこと、話すこと、書くこと、読むことの知識 | 13 | 活動の体験を通した英語運用力向上 7<br>国際理解教育・国際交流活動 |
| 7 | 活動の体験を通した英語運用力向上 1<br>チャンツや歌 | 14 | 授業実践に必要な知識獲得や英語運用力向上を続けるための振り返り |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 40%， 課題レポート 40%， 授業中の取り組み 20% |
| 教科書 | 専門的事項については適宜資料配布<br>英語運用力定着のため『英検2級をひとつひとつわかりやすく』学研 柳瀬実佳(著) |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版(2018年2月)文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 毎回のミニテストの準備をしっかり行う。 1 週間に 2 時間程度の予習・復習を行う。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 子どもの言葉 | 小林康宏 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 言葉に対する感覚や言葉で表現する力の形成に関する理解を深める科目である。幼児が自分の気持ちを言葉で表現する楽しみを感じたり、伝え合う喜びを味わったり、絵本や物語などに親しみ，保育者や友達と心を通わせたりするために、幼児の言葉の発達への理解や言語活動への体験的な理解を深め、保育者として必要な基礎的知識を獲得することを目指す。 |
| 授業の目標 | 領域「言葉」の内容を理解すると共に、幼児が言葉を獲得していく過程を発達段階に即して理解することができる。また、絵本や紙芝居など、幼児の言葉を育てるための基礎的な知識・技能を身に付けることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 領域「言葉」とは何か:領域の内容を理解する。 | 8 | 信頼と言葉:信頼を生む言葉を体験し理解する。 |
| 2 | 言葉と環境:言葉の発達に必要な環境を知る。 | 9 | 思いと言葉:思いを伝える言葉を体験し理解する。 |
| 3 | 発達の理解:言葉の発達の特性と理解の仕方を知る | 10 | 感情体験と言葉:感情体験と言葉の関係を知る。 |
| 4 | 保育の実際:保育現場での「言葉」の育て方を知る。 | 11 | 絵本の読み聞かせの方法:基本的な方法を知る。 |
| 5 | 実践上の留意点:実践する上での課題を知る。 | 12 | 読み聞かせ体験:絵本の読み聞かせをし合う。 |
| 6 | 「劇的表現」と言葉:「劇的表現」を体験する。 | 13 | 紙芝居体験の体験：紙芝居の方法を知り行う。 |
| 7 | 「ごっこ遊び」と言葉:「ごっこ遊び」を体験する。 | 14 | 文字と言葉:幼児と文字との関係について知る。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 20%， 提出物 40%， 授業への取り組み 40% |
| 教科書 | 『保育内容「言葉」（最新保育講座)』ミネルヴァ書房 秋田喜代美 他編<br>『領域 言葉（事例で学ぶ保育内容)』萌文書林 無藤隆 監修,宮里暁美 編集 |
| 参考書 | 『幼稚園教育要領解説＜平成 30 年 3 月＞』フレーベル館(2018 年 3 月) 文部科学省<br>『保育所保育指針解説＜平成 30 年 3 月＞』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成 30 年 3 月＞』フレーベル館<br>(2018 年 3 月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 受講した授業の内容を復習カードにまとめ、次時の授業で行う内容を予習カードにまとめる等、1 週間に 1 時間程度の予習・復習等を行うこと。試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 子どもの表現Ⅱ | 大橋　功<br>八代健志 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼児の表現活動の基礎を学ぶ科目である。子どもの表現Ⅰで学んだ、幼児の表現の基礎をさらに深める。音楽表現・造形表現領域を中心に、子どもの表現活動の内容と、発達、保育現場での表現活動について、教材研究や模擬保育を通じて実践的に学ぶ。 |
| 授業の目標 | 【造形】行事や四季の変化、子どもの発達段階との関連、また、五感を刺激し創造性を育むため、いろんな技法や材料体験ができるよう考慮し、造形表現をどのように遊びの中で展開し、主体的な活動に結びつけていくか保育現場で実践可能な内容について演習を通して学ぶ。<br>【音楽】子どもの表現Ⅰで学んだ幼児の音楽表現の基礎をさらに深める。音楽あそびだけでなく、造形あそびと融合した活動を通して、表現力の幅を広げ、幼稚園や保育の現場で即戦力となる実践力をさらに高める。脚本、音楽等、オリジナルの作品をグループで作り、紙芝居に仕上げていく。グループごとに出来上がった作品の発表を行い、相互で交流し、自分たちの表現について振り返る。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 新聞紙による造形遊びの実践を通して環境構成と活動の展開方法を学ぶ（大橋　功） | 8 | 表現することを通して、表現力や豊かな感性を養う幼児の音楽表現について（八代健志） |
| 2 | 描画材料を活用した造形遊びの実践を通して環境構成と活動の展開方法を学ぶ（大橋　功） | 9 | 音楽あそび（八代健志） |
| 3 | 段ボールによる造形遊びの実践を通して環境構成と活動の展開方法を学ぶ（大橋　功） | 10 | 音楽づくり（八代健志） |
| 4 | 土粘土による造形遊びの実践を通して環境構成と活動の展開方法を学ぶ（大橋　功） | 11 | ことばのリズムや心情にあわせた音楽づくり（八代健志） |
| 5 | 保育現場で活用できる題材開発(1)想像の世界で楽しく遊ぶ題材の開発の方法を学ぶ（大橋　功） | 12 | お話の音楽づくり（八代健志） |
| 6 | 保育現場で活用できる題材開発(2)伝達に軸を置く題材の開発の方法を学ぶ（大橋　功） | 13 | 紙芝居と効果音づくり（八代健志） |
| 7 | 保育現場で活用できる題材開発(3)開発した題材の発表・話し合い（大橋　功）<br>造形表現のまとめ（大橋　功） | 14 | 作品発表（八代健志）<br>音楽表現のまとめ（八代健志） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 【造形表現】<br>制作した作品 30%，演習カードの記述内容 10%，授業への取り組み10%<br>【音楽表現】<br>レポート提出 30%，授業への取り組み 20% |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月）文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月）厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 【造形表現】次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。<br>【音楽表現】各回で履修した音楽表現を復習し、次回発表する。<br>各回１時間程度の復習を行うこと。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 前期 | 幼児理解の理論と方法 | 村上凡子 | 2 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | この科目は、幼児教育の基本となる幼児理解を主題とする科目である。幼児期の発達的特性を運動、認知、社会的能力の多角的な側面から理解し、乳幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の学びや成長を支えるための基本的な事柄を取り上げる。学びの過程では、つまずきや困難な状態も生じる。当事者の子どもに加えて周囲の子ども、また保護者との関係、周りの環境にも視点を広げ、つまずきの要因を把握するための方法、望ましい対応の原則を理解できるよう、具体的な保育場面に照らし、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を踏まえて観察方法、その記録法等を学ぶ。 |
| 授業の目標 | 本科目の到達目標は、<br>1）幼児理解の意義、幼児の発達や学びを捉える原理を多様な面から理解し、幼児理解を深めるための教員の基礎的な態度を理解していること、2）幼児理解を適切に行うために、保育場面の観察と記録の意義、目的、目的に応じた観察方法等に関する基礎的な事項を示すことができ、幼児のつまずきを周りの幼児や保護者との関係など多様な観点から理解することができること、3）幼児理解を深めるために保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解していること、の3点である。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 幼児理解の意義と目的 | 8 | 観察及び記録の演習と記録をもとにした保育の省察 |
| 2 | 幼児理解のための認知発達過程の理論 | 9 | 子ども同士の相互理解と相互信頼を生み出すための基礎的な理論 |
| 3 | 気質・人格の発達過程からみた幼児理解 | 10 | 集中が苦手な子どもの理解と支援の原則 |
| 4 | 実際の造形表現を通した多面的な幼児理解 | 11 | 選択性緘黙症児の理解と支援の原則ー |
| 5 | 運動能力からみた幼児理解 | 12 | ネグレクトを受けている子どもの成長を支えるための理解と支援 |
| 6 | 幼児理解のための基本的な対人態度 | 13 | 保護者への共感的理解のための基礎的な理論 |
| 7 | 保育場面における観察と記録の目的及び方法 | 14 | 保護者への共感的理解のための演習 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 80%，小テスト 10%，予習・復習ノート 10% |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月） 文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月） 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月） 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>他適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』建帛社 小田豊他著 |
| 授業外の学習方法 | 1 週間に 4 時間程度の予習、復習を課す。その内容は、毎回の要点や感想をノートにまとめること、翌回の予習資料に関して疑問点や意見を記述することなどである。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 子どもの保健 | 内海　みよ子 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や子どもの身体的な発育・発達と保健について理解すると共に、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。さらに、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 |
| 授業の目標 | 子どもの特徴は成長発達することである。各発達段階の特徴について学ぶとともに、生活環境、育児環境が子どもの健康に及ぼす影響について学ぶ。<br>1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。<br>2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。<br>3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。<br>4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の必要性と適切な対応について理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小児保健の意義：ひとのライフサイクルの基本となる子どもの健康 | 8 | 子どもの生活リズム獲得のための保健 |
| 2 | 健康の概念と健康指標 | 9 | 健康状態の観察、その方法と評価 |
| 3 | 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動 | 10 | 心身の不調時の観察方法と対応 |
| 4 | 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 | 11 | 発育・発達の評価と健康診断、保護者との連携 |
| 5 | 地域における保健活動の役割 | 12 | 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴 |
| 6 | 子どもの身体発育及び運動機能の発達の特徴 | 13 | 子どもの疾病予防と保健的対応 |
| 7 | 生理機能の発達と保健 | 14 | 子どもの精神保健：こころの健康と保健 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%， 課題・小テスト等 30%， 受講態度・授業への参加度 20% |
| 教科書 | 『子どもの保健』ななみ書房 中根淳子・佐藤直子 編著 |
| 参考書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 週 4 時間程度の復習及び課題作成を行うこと。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 保育内容の指導法Ⅰ | 中村俊之<br>山下悦子 | 2 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼稚園教育要領に示された、各領域のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点、幼稚園教育における評価の考え方、領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 |
| 授業の目標 | 1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。<br>2) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。<br>3) 幼児期の教育・保育における評価の考え方を理解する。<br>4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 200 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション<br>幼児教育・保育の目標と保育内容の指導法 | 8 | 乳幼児の発達と学びの過程：表現<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『表現』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。 |
| 2 | 乳幼児の発達と学びの過程：言葉<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『言葉』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。 | 9 | 領域『表現』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『表現』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。 |
| 3 | 領域『言葉』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『言葉』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。 | 10 | 乳幼児の発達と学びの過程:環境<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『環境』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。 |
| 4 | 乳幼児の発達と学びの過程:人間関係<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『人間関係』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。 | 11 | 領域『環境』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『環境』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。 |
| 5 | 領域『人間関係』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『人間関係』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。 | 12 | 保育構想の策定<br>資料を用いて領域間の繋がりを理解し、具体的な指導場面を想定した保育構想を作成する。 |
| 6 | 乳幼児の発達と学びの過程：健康<br>幼稚園・保育所等の事例を基に、『健康』領域における乳幼児の発達の姿や他領域との関連、小学校教科との連携について学ぶ。 | 13 | 保育実践と改善<br>策定した保育構想を基に、役割を分担してロールプレイを行い、グループ討議を通じて評価、保育構想の修正を図る。 |
| 7 | 領域『健康』における環境構成と援助<br>映像資料や事例研究を通して、領域『健康』における保育内容と具体的な環境構成の在り方、指導上の留意点について学ぶ。 | 14 | 幼児教育・保育における評価の考え方・まとめ<br>教育・保育の改善を目指す、評価の考え方と方法について学ぶ。授業全体を振り返り、保育内容の指導法Ⅱに向けた学修課題を検討する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 10%， 提出物 30%， 授業へ取り組む姿勢・態度 60% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |

| | |
|---|---|
| 参　　考　　書 | 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月 )内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 1 週間に 2 時間程度の予習・復習等を行うこと。<br>課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免　許　・　資　格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 幼稚園教諭経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 初等教科教育法（国語） | 小林康宏 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、国語科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの指導領域ごとに、教材研究の仕方、ICT の活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、国語科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解すると共に、基礎的な学習指導理論を理解し、教材研究や、学習指導案作成、及び、模擬授業の実施と振り返りを通し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 国語科で目指すもの:学習指導要領を読み解く。 | 8 | 「書くこと」の授業:模擬授業と振り返りを行う。 |
| 2 | 国語科の授業とは:授業づくりの原則を理解する。 | 9 | 「読むこと」の理解:指導と評価の要点を知る。 |
| 3 | 「話すこと・聞くこと」の理解:指導の要点を知る。 | 10 | 「読むこと」の授業作り:指導案・板書計画を作る。 |
| 4 | 「話すこと・聞くこと」の授業作り:指導案を作る。 | 11 | 「読むこと」の授業:模擬授業と振り返りを行う。 |
| 5 | 「話すこと・聞くこと」の授業:模擬授業を行う。 | 12 | 「知識及び技能」とは:指導内容を理解する。 |
| 6 | 「書くこと」の理解:指導と評価の要点を知る。 | 13 | 「書写」の授業作り:指導案・板書計画を作る。 |
| 7 | 「書くこと」の授業作り:指導案・板書計画を作る。 | 14 | 「書写」の授業:模擬授業と振り返りを行う。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 30%， 毎回の授業後に提出する小レポート 30%， 模擬授業 40% |
| 教科書 | 『小学校国語『見方・考え方』が働く授業デザイン －展開７原則と指導モデル 40 プラスα－』東洋館出版社　小林康宏<br>『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（2018 年２月）文部科学省 |
| 参考書 | 適宜紹介する。<br>『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 受講した授業の内容を復習カードにまとめ、次時の授業で行う内容を予習カードにまとめる等、1 週間に 4 時間程度の予習・復習等を行うこと。試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 初等教科教育法(生活) | 中井精一 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校生活では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、幼児教育や他教科との連携、総合的な学習との関連を踏まえながら、 社会や自然と関わる活動や自分自身の生活や成長に関することを学び、模擬授業などを通して主体的・対話的で深い学びを深めるための実践的な知識と技能を身につける。 |
| 授業の目標 | ①学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、新しい生活科の目標や内容について理解できる。②学習指導要領の内容を理解した上に、体験的な活動を通して、生活科の学習指導案を作成することができる。③学習指導案に基づいて、模擬授業の計画を立てることができる。④模擬授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を目指した生活科の授業の実践力を高めることができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 初等教科教育法(生活)で学んでほしいこと(オリエンテーション) | 8 | 動植物の飼育・栽培の実際(ICT の活用) |
| 2 | 学習指導要領における生活科の位置づけとESD | 9 | 授業づくりと教師の役割 |
| 3 | 生活科授業づくりのスタート | 10 | 教材研究と指導計画の作成 |
| 4 | フィールドワークの実際(学外授業) | 11 | 学習指導案の作成から模擬授業へ |
| 5 | 効果的な交流会にするために | 12 | 模擬授業と授業検討会(1)模擬授業の準備 |
| 6 | 自然や身近にあるものを使った「遊び」(ものづくり) | 13 | 模擬授業と授業検討会(2)模擬授業の実施 |
| 7 | 生活科と「持続可能性(ESD／SDGs)」との関係 | 14 | 総括とまとめ(「これからの生活科授業」をテーマに論文の作成を行う) |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の授業の「振り返り」の提出 30%，授業中に指定した課題レポート 20%，<br>授業への貢献度 10%，最終回での「論文作成」 40% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領解説 生活編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>小学校生活検定済み教科図書の他、授業中に適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 復習として、授業の「振り返り」を行い、400 字程度にまとめて次回授業までに提出すること。<br>予習として、次回授業内容の学習指導要領などを事前に読んでおくこと。<br>「論文作成」のために、毎回の授業内容を整理・記録をしておくこと。<br>以上の内容を週 4 時間程度行うこと。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 初等教科教育法(音楽) | 溝口希久生 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員を希望する学生が教育実習や現場において必要となる音楽科の実践的基礎能力を身につけることを目的とする。ビデオによる授業を視聴したり、教員による模擬授業を行ったりしながら、具体的な小学校音楽科授業像が描けるように講義する。また小学校音楽科学習指導案を作成しながら資料に沿って講義を進める。模範の事例を基本としてグループによる模擬授業を行い、小学校音楽科授業の実践的指導力の習得を目指す。 |
| 授業の目標 | 小学校音楽科の授業のあり方を理解した上で模擬授業を行い、音楽科の基礎理論を根拠とした学習指導案を作成できる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエーテーション（講義の進め方、これまでの学校音楽教育・音楽科の新しい授業像） | 8 | 音楽科の指導法(単元構成)<br>・器楽(低学年)の授業事例を交えた解説 |
| 2 | 音楽科の授業観<br>・音楽科の授業デザイン・生成の原理 | 9 | 音楽科の指導法（学習指導の構造）<br>・音楽づくり(高学年)の授業事例を交えた解説 |
| 3 | 教科目標（音楽的な見方・考え方）<br>・歌唱(高学年)の授業事例を交えた解説 | 10 | 学習指導案の作成と模擬授業の準備<br>・教材研究と授業展開(情報機器活用を含む) |
| 4 | 音楽科の指導内容（指導内容、共通事項と指導事項）<br>・鑑賞(高学年)の授業事例を交えた解説 | 11 | 学生グループによる模擬授業と検討 〔歌唱〕 |
| 5 | 表現の指導内容（指導内容の必要性、設定の手順）<br>・歌唱(低学年)の授業事例を交えた解説 | 12 | 学生グループによる模擬授業と検討〔器楽〕 |
| 6 | 鑑賞の指導内容（鑑賞の活動、設定の手順）<br>・鑑賞(低学年)の授業事例を交えた解説 | 13 | 学生グループによる模擬授業と検討〔鑑賞〕 |
| 7 | 音楽科の学力育成と評価<br>・音楽づくり(中学年)の授業事例を交えた解説 | 14 | 学生グループによる模擬授業と検討〔音楽づくり〕 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 模擬授業・講義へ取り組む姿勢・態度 30%，学習指導案等の課題・小テスト 30%，定期試験 40% 模擬授業・講義へ取り組む姿勢・態度、課題の取組み状況や学習指導案等の提出物、試験等を総合的に評価する。 |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 |
| 参考書 | 『新訂版 小学校音楽科の学習指導―生成の原理による授業デザイン―』廣済堂あかつき(2018) 小島律子監修<br>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 毎回の授業を省察するとともに、指導案作成や模擬授業の準備をしておくこと。(週1時間程度)試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 小学校の教職経験を基盤にして理論と実践の往還による教授を重視する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 初等教科教育法(図画工作) | 大橋 功 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、図画工作科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。新しい指導要領の改訂の趣旨をふまえ、「表現」「鑑賞」などの指導領域ごとに、学習目標と内容を具体的事例をもとに演習・講義する。教材研究の仕方、ICT の活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業展開の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。また、教科書研究・教材用具の体験等を通して授業づくりの発想力を培い、小学校教員として、感性を働かせながら創造することの大切さを身につけさせ現場実践力をつけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 小学校図画工作科の意義と目的をもとに、教育や保育内容・方法・評価のあり方について理解する。子どもの主体的学びを支援できる授業構想力を身につけ、感性を働かせ創造的に活動する方法を理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス（LMS-Learning Management System や ICT 機器の活用方法や教科書・副読本等の利用方法について学修する。） | 8 | 表現「表したいことを立体で表す」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて、教科書題材を元に考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 |
| 2 | 小学校学習指導要領・幼稚園教育要領の考え方の要点について学修する。 | 9 | 表現「表したいことを立体で表す」の模擬授業と省察 |
| 3 | 図画工作科（造形表現活動）における学習過程の構造および指導と評価の一体化のあり方について学習する。 | 10 | 表現「表したいことを工作に表す」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて、教科書題材を元に考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 |
| 4 | A 表現「造形遊びをする」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて、教科書題材を元に考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 | 11 | 表現「表したいことを工作に表す」の模擬授業と省察 |
| 5 | 表現「造形遊びをする」の模擬授業と省察 | 12 | B「鑑賞」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて、考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 |
| 6 | 表現「表したいことを絵で表す」の各学年・幼児の発達段階に応じての活動内容と指導・評価のポイントについて、教科書題材を元に考える。また、次回模擬授業担当チーム選出と題材の選び方・学習指導案の作成について説明する。 | 13 | B「鑑賞」の模擬授業と授業内容の省察 |
| 7 | 表現「表したいことを絵で表す」の模擬授業と省察 | 14 | 教材開発の方法を学び、新しい教材を実際に開発する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 模擬授業とその省察 50%, 課題レポート 30%, 授業へ取り組む姿勢・態度 20% |
| 教科書 | 『美術教育概論(新訂版)』日本文教出版(平成30年10月) 大橋功監修・編著<br>『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版(2018年2月) 文部科学省 |
| 参考書 | 文部科学省検定教科書 小学校 図画工作 |

| | |
|---|---|
| 授業外の学習方法 | 各回につき１時間程度、復習及び予習課題に取り組む。 |
| 免　許　・　資　格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 初等教科教育法（体育） | 原まなみ<br>大平誠也 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、体育科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「体つくり運動」「器械運動」「走・跳の運動」「水泳」「ゲーム」「表現運動」「保健」などの指導領域ごとに、教材研究の仕方、ICT の活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、体育科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 小学校体育科の目標についての理解を深め、学習指導要領の内容の配列と関連付けて教科の特性を理解する。その上で、授業を展開していく方法論を理解し、模擬授業を通して効果的な指導方法を身に付ける。レポート課題、指導案作成、模擬授業の実践、チェックリストやビデオを使用した振り返りを通して実践的指導力を育成する。受講生同士のアクティブラーニングを授業の中心に据え、主体的対話的で深い学びを促す。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>～小学校で体育授業を行う教師に必要な資質と能力～ | 8 | 模擬授業①　指導案の説明と授業展開<br>～体つくり運動系～ |
| 2 | 体育のカリキュラム論<br>～体育授業で何を教えるのか～ | 9 | 模擬授業②　指導案の説明と授業展開<br>～陸上運動系～ |
| 3 | 体育科教育のこれまでとこれから<br>～その歴史的変遷～ | 10 | 模擬授業③　指導案の説明と授業展開<br>～保健領域～ |
| 4 | 学習指導要領のこれまでとこれから<br>～より良い学習指導案に向けて | 11 | 模擬授業④　指導案の説明と授業展開<br>～器械運動系～ |
| 5 | 体育授業を行う教師として知っておきたいこと<br>～良い授業に存在するもの～ | 12 | 模擬授業⑤　指導案の説明と授業展開<br>～ボール運動系（ゴール型・ネット型）～ |
| 6 | 学習指導案の作成<br>～単元計画と本時の学習指導案の作成～（ICT の活用含む） | 13 | 模擬授業⑥　指導案の説明と授業展開<br>～水泳系～ |
| 7 | こんな時、どうする<br>～場面指導とマイクロティーチング～ | 14 | 模擬授業の総括　模擬授業の成果と課題 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 40%，レポート課題 20%，模擬授業のクオリティ 20%，<br>授業へ取り組む姿勢・態度（姿勢、発言、振り返りカード） 20% |
| 教科書 | 『初等体育授業づくり入門』大修館書店　岩田靖他著<br>『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社(2018 年 2 月）文部科学省 |
| 参考書 | 『体育科教育学入門』大修館書店(平成 22 年 4 月)高橋健夫他編著<br>『体育の教材を創る』大修館書店(平成 24 年 2 月）岩田靖著<br>『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月）文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 次時の課題について教科書を参考にまとめておく。（週 1 時間程度）<br>課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当する。<br>小学校教員としての経歴を生かし、体育科教育における教育現場の今日的課題を取り上げ、その課題解決に迫るとともに、授業進行のルートマップとなる指導案作成能力育成を図る |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 後期 | 特別活動指導論 | 谷尻 治 | 1 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、特別活動(学級活動 児童会活動 クラブ活動 学校行事)を担当できる力の修得を目指す科目である。学習指導要領にある特別活動の意義、内容、指導法について学ぶ。学校教育における特別活動の意義、特別活動の成立事情、特別活動の理論の基礎的考察、学級活動の理論と指導方法に関する基本事項、児童会活動の指導方法に関する基本事項、学校行事の指導法の基本について扱い、模擬授業などの体験的な活動を通して基本的な指導技術習得を目指す。 |
| 授業の目標 | ①「特別活動」の目標、意義と役割について理解する。<br>②発達段階に即した特別活動の具体的な指導法を理解し、基本的な指導技術を会得する。<br>③特別活動分野ですぐれている実践に共通する考え方または具体的指導をもとに、特別活動の可能性と課題について学ぶ。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「特別活動」意義と役割、目標・学習課題の設定 | 8 | 児童会活動・クラブ活動 |
| 2 | 「特別活動」の歴史 ～誕生から現在まで～ | 9 | 学校行事指導①<br>～文化的行事・遠足・集団宿泊的行事を中心に～ |
| 3 | 「特別活動」の現状と今日的課題<br>～新学習指導要領の視点～ | 10 | 学校行事指導② ～健康安全・体育的行事を中心に～ |
| 4 | 体験的特別活動① ～アクティビティの体験～ | 11 | キャリア形成と特別活動 |
| 5 | 生徒指導と特別活動 ～児童理解に焦点をあて～ | 12 | 児童の権利と特別活動 |
| 6 | 学級活動 ～著名な学級指導実践～ | 13 | 体験的特別活動② ～群読・演劇・合唱指導～ |
| 7 | 学級活動における教師の役割 | 14 | これからの「特別活動」<br>～教科横断・カリキュラムマネジメント～ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | レポート・振り返りシート 40%, 授業でのワークや成果物 40%, 課題 20% |
| 教科書 | 『教師になる「教科書」』小学館(2018 年 4 月) 和歌山大学教職大学院編 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 特別活動編 』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で出す課題を次時までに行うこと。レポート（授業で説明）の作成を行うこと。<br>毎回 2 時間程度の予習・復習を行うこと。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 幼稚園実習Ⅰ | 小田真弓<br>前島美保 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼稚園で2週間80時間の実習を行う。2年次では、見学・観察・参加・責任（部分のみ）実習を行い、園の1日の流れや幼稚園教諭の職務内容、職業倫理などについて知る。参加実習・部分実習の中で幼児と主体的にかかわり、幼児の発達理解を深めると共に、幼稚園教諭としての適性について考える。幼稚園の役割や機能、業務内容、環境構成などについて理解する。また、幼児の生活や幼稚園の実際、幼稚園教諭の業務の実際を実践的、総合的に学び、理解し、身につける。 |
| 授業の目標 | 幼稚園の機能、幼稚園教諭の役割、幼稚園における幼児の発達や遊び、生活の様子、環境のあり方について理解を深める。また、指導案の作成、教材・教具等の準備や保育活動・幼児の発達に応じたかかわり等、実践的な知識・技能・態度を身につける。 |

**授業のテーマ及び内容**

【幼稚園における実習の内容】

1．実習園でのオリエンテーション（具体的な目的・内容や実習方法）
2．幼稚園の役割と機能（教育目標や教育環境）
3．実務実習（園舎内外の環境整備・教材準備など）
4．観察実習（一日の流れ・子ども理解・保育技術・保育内容）
5．部分実習（発達過程と興味関心に応じた保育内容・活動や援助）
6．衛生・安全及び疾病予防への園内の具体的環境や配慮
7．実習内容の記録（幼稚園教育要領に基づく計画の理解と活用・記録に基づく省察・自己評価）
8．幼稚園教諭の役割と倫理
（職務内容・職員間の役割分担とチームワークや連携・幼稚園教諭の役割と職業倫理）

上記1～8について、実習を通して具体的に学び理解する。
実習を通して得た学びや自己課題について「振り返りシート」に記入し提出する。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%，課題レポート 10%，積極的な実習態度 20% |
| 教科書 | 大学で配布する『実習記録』<br>適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『実例でわかる実習の日誌＆指導案作成マニュアル』成美堂出版(2020年2月)矢野真他監修<br>『改訂新版 実習の記録と指導案』ひかりのくに(2018年2月) 田中亨胤監修<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 幼稚園実習指導Ⅰ | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | ２年次の幼稚園実習Ⅰにおける事前・事後の指導を担う。実習への参加態度を身につける科目である。幼稚園教育実習の意義・心得・目的・目標・方法等の基本的理解、子どもとのかかわり、実習記録・指導計画・指導案の書き方等の実践的理解について取り上げる。また、幼稚園へ出向き、教育現場での活動の状況を観察したり、参加したりすることにより子どもの状況や幼稚園の実態について体験的に学ぶ。事後指導では、自身の実習課題を明確化し、その後の授業の中で深めていくことができるようにする。 |
| 授業の目標 | 幼稚園生活の実際や子どもの発達を理解し、教育実習のための基本的理解（意義・心得・目的・目標・方法）、実践的理解（子どもとのかかわり、実習記録・指導計画・指導案の書き方）の習得を目指す。実習終了後は、実習を振り返り、専門性や実践力を身につけるための土台と自己課題を明確化する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（教育実習の意義、目的、内容と方法、手続き、訪問時の留意事項等） | 8 | 部分実習の内容と方法<br>（発達に応じた手遊び、わらべうた等） |
| 2 | 教育実習の内容と課題の明確化 | 9 | 発達に応じた部分実習の指導案の書き方Ⅰ |
| 3 | 実習の態度と留意点<br>（実習生としての態度、子どもの人権尊重、個人情報と守秘義務、安全・衛生管理） | 10 | 発達に応じた部分実習の指導案の書き方Ⅱ |
| 4 | 保育観察の方法と観察記録の記入方法 | 11 | 模擬保育の振り返りを行う |
| 5 | 幼稚園生活の実際と環境構成 | 12 | 幼児の主体的な遊びに関する振り返りと考察 |
| 6 | 幼児の発達とかかわり方 | 13 | 幼児の仲間関係に関する振り返りと考察 |
| 7 | 部分実習の内容と方法<br>（発達に応じた読み聞かせ　絵本・紙芝居等） | 14 | 幼稚園教諭のことばがけに関する振り返りと考察 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 通年 | 幼稚園実習指導Ⅰ | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 実習の振り返り（実習日誌からの振り返り） | 22 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 16 | 実習の振り返り（自己課題を明確にする） | 23 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 17 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 24 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 18 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 25 | 幼稚園教諭の役割と社会的役割について |
| 19 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 26 | 実習における自己評価 |
| 20 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 27 | 実習の総括 |
| 21 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 28 | 教育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の課題の明確化と展望 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題・レポート等の提出物 50%， 積極的な受講態度と授業の参加度 50% |
| 教科書 | 『幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成』フレーベル館(2022 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』<br>適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク 認定こども園対応 改訂版』萌文書林(2020年) 小林育子 他著<br>『実例でわかる実習の日誌＆指導案作成マニュアル』 成美堂出版(2020年2月)矢野真他監修<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。(週 1～2 時間程度)<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2後<br>3前 | 通年 | 保育実習Ⅰ（施設） | 森下順子<br>原　康行 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、施設の役割と機能、施設の生活と一日の流れ、保育者の責務について学ぶ。子どもの観察と記録を通して、子ども理解を深め、状況に応じた援助の方法を学ぶ。実習計画や記録を作成し、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価の方法について学び、専門職としての保育士の役割と倫理について考察する。 |
| 授業の目標 | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、利用児（者）への理解を深めるとともに、施設等の機能と専門職としての保育士の役割や倫理等、その職務について学ぶ。 |

**授業のテーマ及び内容**

居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等での実習：10 日間

1. 施設の役割と機能について理解する。
2. 施設の生活と一日の流れを理解し、参加する。
3. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。
4. 利用児（者）の観察や関わりを通して、個々の状態に応じた援助の必要性を理解する。
5. 利用児（者）の最善の利益についての配慮を学ぶ。
6. 子どもの生活や環境を通して、家庭・地域社会の現状を理解する。
7. 支援計画を理解し、活動や援助に活かそうとする。
8. 保育士としての役割や職業倫理を理解する。
9. 職員間の役割分担と連携について理解する。
10. 介護、介助及び交流等を体験する（介護等の体験）。
11. 健康管理・安全対策への配慮について理解する。
12. 観察・記録に基づく省察や自己評価を行い、自己課題を明確にする。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%，課題レポート 10%，積極的な実習態度 20% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月）厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』<br>適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社（2019）<br>適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業で学んだことを復習する。実習の振り返りと明日への目標を明確にする。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。 |
| 実務経験と教授内容 | 実務経験者が実習責任者として担当。実習現場では現職教員が指導を行う。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2後～<br>3前 | 通年 | 保育実習指導Ⅰ（施設） | 森下順子<br>原　康行 | 1 | 選択 | 演習 |
| 授業の概要 | | 本科目は、保育実習Ⅰ(施設)の事前事後指導を行う科目である。講義を通して、施設での保育実習の意義・目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの課題の明確化を目指す。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、実習の具体的な方法と内容について学ぶ。実習の事後指導を通して、施設の機能と社会的な役割、施設の設備や生活を理解するとともに、施設の子ども・利用者の背景の理解と援助の実際を理解する。実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 | | | | |
| 授業の目標 | | 保育実習の意義・目的及び実習の内容、子どもの人権と最善の利益の考慮や守秘義務等について理解する。実習後、自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・施設実習とは何か | 8 | 施設実習の内容について |
| 2 | 施設実習の意義と目的 | 9 | 子ども・利用者の人権と最善の利益について |
| 3 | 施設における保育士の職務内容 | 10 | プライバシーの保護と守秘義務 |
| 4 | 児童福祉施設についてⅠ（種類と概要） | 11 | 実習の心得 |
| 5 | 児童福祉施設についてⅡ（養護系の施設） | 12 | 実習日誌等の記録について |
| 6 | 児童福祉施設についてⅢ（障害系の施設） | 13 | 実習前の事前確認 |
| 7 | 児童福祉施設についてⅣ（育成系の施設） | 14 | 実習前の事前確認 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 必・選（卒業） | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2後～3前 | 通年 | 保育実習指導Ⅰ（施設） | 森下順子<br>原　康行 | 1 | 選択 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 実習の振り返り（実習日誌からの振り返り） | 22 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） |
| 16 | 実習の振り返り（自己課題を明確にする） | 23 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） |
| 17 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 24 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） |
| 18 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 25 | 保育者の役割と社会的役割について |
| 19 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 26 | 実習における自己評価 |
| 20 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 27 | 実習の総括 |
| 21 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 28 | 課題の明確化・まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題・レポート等の提出物 50%， 積極的な受講態度と授業の参加度 50% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』 |
| 参考書 | 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房、『施設実習パーフェクトガイド』わかば社（2019）、適宜紹介 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先の施設の概要及び施設の役割等について調べる。実習に関する課題作成の時間を確保すること。<br>週 2 時間程度の学習時間を確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。 |
| 実務経験と教授内容 | 実務経験者がすべての回を担当。 |

# 3年
## （2020～21年度入学　2・3期生）

# 講義要項

## 2023年度　シラバス　目次　3年（2020～21年度入学　2・3期生）

| 科目区分 | | | 授業科目の名称 | 教員名 | 実務家教員＊ | 単位数 | 配当年次 | 授業形態 | 卒業に必要な科目・単位 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通基礎科目 | 教養科目 | 教師塾 | インターンシップ（事前・事後指導を含む） | 森﨑陽子　千森督子 | | 2 | ３通年 | 実験実習 | △ | 99 |
| | | | キャリアガイダンスⅠ | 森﨑陽子 | ＊ | 1 | ３通年（隔週） | 講義 | ● | 100 |
| | | | 教師への道Ⅰ | 岸田正幸 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 101 |
| | | | 教師への道Ⅱ | 岸田正幸 | ＊ | 2 | ３後期 | 講義 | △ | 102 |
| | 地域連携科目 | 地域探求科目 | 地域防災教育論 | 宮定章 | | 2 | ３後期 | 講義 | ● | 103 |
| 専門教育科目 | 教科・保育内容の専門領域 | | 音楽表現研究 | 八代健志 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | ○ | 104 |
| | | | 造形表現研究 | 大橋功 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | ○ | 105 |
| | | | 幼児体育Ⅰ | 加藤博之 | | 1 | 幼３前小３後 | 演習 | ○ | 106 |
| | | | 幼児体育Ⅱ | 加藤博之 | | 1 | ３後期 | 演習 | ○ | 107 |
| | | | 鍵盤楽器の表現技法 | 溝口希久生 | ＊ | 2 | ３通年 | 演習 | ○ | 108-109 |
| | 子どもの理解 | | 子ども家庭支援の心理学 | 植田喜樹 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 110 |
| | | | 子どもの健康と安全 | 内海みよ子 | | 1 | ３前期 | 演習 | △ | 111 |
| | | | 子どもの食と栄養Ⅰ | 土井有美子 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | △ | 112 |
| | | | 子どもの食と栄養Ⅱ | 土井有美子 | ＊ | 1 | ３後期 | 演習 | △ | 113 |
| | 子どものニーズ支援 | | 特別支援教育・保育Ⅰ | 原康行 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | ● | 114 |
| | | | 特別支援教育・保育Ⅱ | 原康行 | ＊ | 1 | ３後期 | 演習 | ● | 115 |
| | | | 社会的養護演習 | 岩田智和 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | △ | 116 |
| | | | 子育て支援演習 | 森下順子 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | △ | 117 |
| | | | 教育相談支援 | 村上凡子 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | ● | 118 |
| | | | 地域と子育て支援 | 森下順子 | ＊ | 2 | ３後期 | 講義 | △ | 119 |
| | | | 生徒指導・進路指導の理論と方法 | 岸田正幸　犬塚文雄 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 120-121 |
| | 教育・保育の指導法 | | 保育内容の指導法Ⅱ | 中村俊之　山下悦子 | ＊ | 2 | ３前期 | 演習 | ● | 122-123 |
| | | | 初等教科教育法（算数） | 山本紀代 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 124 |
| | | | 初等教科教育法（社会） | 西端幸信 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 125 |
| | | | 初等教科教育法（理科） | 秋吉博之 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 126 |
| | | | 初等教科教育法（英語） | 辻伸幸 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 127 |
| | | | 初等教科教育法（家庭） | 中根真富 | ＊ | 1 | ３前期 | 演習 | △ | 128 |
| | | | 道徳教育指導論 | 福田光男 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 129 |
| | | | 総合的な学習の時間指導論 | 山本紀代 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 130 |
| | | | 乳児保育Ⅰ | 栗林惠 | ＊ | 2 | ３前期 | 講義 | △ | 131 |
| | | | 乳児保育Ⅱ | 栗林惠 | ＊ | 1 | ３後期 | 演習 | △ | 132 |
| | 実習 | | 幼稚園実習Ⅱ | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 2 | ３通年 | 実験実習 | △ | 133 |
| | | | 幼稚園実習指導Ⅱ | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 1 | ３通年 | 演習 | △ | 134-135 |
| | | | 小学校実習 | 辻伸幸　山本紀代 | ＊ | 4 | ３通年 | 実験実習 | △ | 136 |
| | | | 小学校実習指導 | 辻伸幸　山本紀代 | ＊ | 1 | ３通年 | 演習 | △ | 137-138 |
| | | | 保育実習Ⅰ（保育所） | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 2 | ３通年 | 実験実習 | △ | 139 |
| | | | 保育実習指導Ⅰ（保育所） | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 1 | ３通年 | 演習 | △ | 140-141 |
| | | | 保育実習Ⅰ（施設） | 森下順子　原康行 | ＊ | 2 | ２後期<br>３前期<br>通年 | 実験実習 | △ | 142 |
| | | | 保育実習指導Ⅰ（施設） | 森下順子　原康行 | ＊ | 1 | ２後期<br>３前期<br>通年 | 演習 | △ | 143-144 |
| | | | 保育実習Ⅱ | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 2 | ３後期 | 実験実習 | △ | 145-146 |
| | | | 保育実習指導Ⅱ | 小田真弓　前島美保 | ＊ | 1 | ３後期 | 演習 | △ | 147-148 |
| | 課題探求科目 | 実践研究 | 保育内容実践研究 | 大橋　森下　八代　小田 | | 2 | ３通年 | 演習 | ○ | 149-150 |
| | | | 教科実践研究 | 秋吉　小林　辻　山本 | ＊ | 2 | ３通年 | 演習 | ○ | 151-152 |
| | | 総合研究 | 専門ゼミナールⅠ | 村上　秋吉　小林　岸田<br>大橋　溝口　辻　八代<br>山本　原康 | | 2 | ３通年 | 演習 | ● | 153-154 |

| | | |
|---|---|---|
| ３年合計単位数 | 71 | 省令で定める基準単位数13単位<br>（令元文科省令第6号<br>大学等における修学の支援に関する法律施行規則） |
| （うち、実務家教員＊による単位数） | 60 | |
| 学部内全学年（1～4年）合計単位数（2023年度） | 214 | |
| （うち、実務家教員＊による単位数）（2023年度） | 163 | |

| | |
|---|---|
| ● | 必修 |
| ○ | 選択必修 |
| △ | 選択 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | インターンシップ<br>（事前・事後指導を含む） | 森﨑陽子<br>千森督子 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育者・保育者となる前に、社会人としての勤労意識を養う科目である。民間企業や地方公共団体などで就業体験を行う。実習体験を通じて、その職業に対する理解を深め、社会人として求められる勤労観を深く知ることを目標とする。また、就業体験の前に事前研修を、就業体験の後に研修報告会を行う。さらに、教職・保育職との違いや類似点、大学での学びと実社会との関連などに直接体験を通じて気付き、人間的な成長を図ることを目標とする。 |
| 授業の目標 | インターンシップを通して社会人としての勤労意識を養う科目である。<br>【目標】①自己を理解し適性を知る<br>②就職活動に向けた準備や手続きを理解する<br>③就労の実態を体感し、就職活動の幅を広げる<br>④多様な人々と共に目標に向けて協力する力を養う |

**授業のテーマ及び内容**

授業計画

事前指導

ガイダンスⅠ（インターンシップ意義・目標・心得と実習先の選択、エントリーシート作成等）

ガイダンスⅡ（エントリー練習シートチェックとWebエントリー方法の説明、実習先決定と理解等）

ガイダンスⅢ（事務手続きを含む事前準備、ビジネスマナー、参加にあたっての注意事項等）

実習　1日8時間10日間程度の実習に取り組む(実習期間中は実習要録作成)

事後指導

ガイダンスⅣ（実習要録整理し提出、自己の到達状況把握）

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%， 実習要録 20%， 授業への参加度 10% |
| 教科書 | 教科書は特に指定せず適宜資料を配布 |
| 参考書 | 『大学生のためのキャリアデザイン　自己を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 川﨑友嗣編<br>『インターンシップ入門:就活力・仕事力を身につける』玉川大学出版部　日本インターンシップ学会関東支部監修、折戸晴雄他編 |
| 授業外の学習方法 | 配布資料等の復習を行い、理解を深める。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | キャリアガイダンスⅠ | 森﨑陽子 | 1 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育者・保育者としてキャリアをスタートさせるための準備段階にあたる科目である。討論やロールプレイ等を通して大学や学外実習で身に付けた知識と技能を有機的に結びつけ、教職・保育職への意欲と教育・保育について客観的に考える力の向上を目指す。目指すべき、教育者・保育者像を明確にすると共に、就活の仕方、履歴書の作成、筆記試験対策、面接練習など、採用に至るまでの道筋を、演習形式で学ぶ。 |
| 授業の目標 | 取得する資格、免許に応じ進路を検討するための情報の収集と進路に応じた受験対策を行う。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | キャリアスタートにあたって | 8 | 子どものキャリア発達を考える/<br>地域との連携を進める～コミュニティスクール制度の中で～ |
| 2 | 分野別キャリア対策 | 9 | 県内企業を知る～企業が求める人材とは～ |
| 3 | ゲストによる就職試験対策講座 | 10 | 県内企業を知る～企業合同セミナー～ |
| 4 | 自己分析の方法を知る | 11 | 自己PR・志望動機等の文章構成を学ぶ |
| 5 | 自己分析（性格・活動履歴等を書き出してみよう） | 12 | 自己 PR・志望動機作成講座～実際に文章を作成してみよう～ |
| 6 | 就活マナー（身だしなみ・挨拶の仕方・言葉遣い・所作等） | 13 | エントリーシートの書き方・作成ポイントを学ぶ（分野別） |
| 7 | 面接のマナー | 14 | エントリーシートの作成（分野別） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 40%， 授業への取り組み 60% |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『大学生のためのキャリアガイドブック』 北大路書房 長尾博暢他著 |
| 授業外の学習方法 | 配布される資料の内容を用いて事前事後の予習復習を行う。（各回 1～2 時間程度）<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 教師への道Ⅰ | 岸田　正幸 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 公立小学校・幼稚園、保育所等の教員・保育士あるいは地方公共団体の公務員として勤めるために必要な、一般及び専門教養について学ぶ科目である。特に、和歌山県や近隣の都道府県における教員採用試験や公務員試験の一般教養「人文科学」「社会科学」の分野における頻出問題を例に、その学問的背景と関連する領域について専門のゲストスピーカーを招いて学修し、地域社会の課題に職業人として対応できる、教育者としての真の教養の修得を目指す。 |
| 授業の目標 | 教員採用試験で求められる知識をはじめとして、教師としての仕事をするために必要不可欠となる幅広い教養や実践力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 各教科を教えるための一般教養の力とは(その1) | 8 | 児童生徒をめぐる諸課題を考える(不登校を中心に)(考えるシリーズ3) |
| 2 | 中教審答申を読むその1(令和の日本型学校教育) | 9 | 各教科を教えるための一般教養の力とは(その2) |
| 3 | 学力をめぐる諸課題を考える(考えるシリーズ1) | 10 | 第4期教育振興基本計画を読む |
| 4 | 中教審答申を読むその2(求められる教師像) | 11 | 学校と家庭をめぐる諸課題を考える(考えるシリーズ4) |
| 5 | 中教審答申を読むその3(働き方、チーム学校) | 12 | 第３次学校安全の推進に関する計画を読む |
| 6 | 児童生徒をめぐる諸課題を考える(いじめ問題を中心に)(考えるシリーズ2) | 13 | 和歌山県の教育振興基本計画と人権教育 |
| 7 | 生徒指導提要改訂版を読む | 14 | 情報化社会の教育と諸課題を考える(考えるシリーズ5) |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の課題レポート又は小論文　100% |
| 教科書 | 各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)　文部科学省<br>『生徒指導提要(デジタルテキスト改訂版)』(令和4年12月　文部科学省)<br>教育時事答申、教職及び公務員用の一般教養問題 |
| 授業外の学習方法 | 各回の課題についての予習・復習を行うこと。(週４時間程度) |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 教師への道Ⅱ | 岸田　正幸 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 公立小学校・幼稚園、保育所等の教員・保育士あるいは地方公共団体の公務員として勤めるために必要な、一般及び専門教養について学ぶ科目である。特に、和歌山県や近隣の都道府県における教員採用試験や公務員試験の一般教養「自然科学」「環境・情報科学」の分野における頻出問題を例に、その学問的背景と関連する領域について専門のゲストスピーカーを招いて学修し、地域社会の課題に職業人として対応できる、教育者としての真の教養の修得を目指す。 |
| 授業の目標 | 教員採用試験で求められる知識をはじめとして、教師としての仕事をするために必要不可欠となる幅広い教養や実践力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育基本法と学校教育に関する法律（教職教養シリーズ1） | 8 | 特別支援教育の再整理（教職教養シリーズ7） |
| 2 | 教員の服務等に関する法律（教職教養シリーズ2） | 9 | 豊かな人間性、豊かな体験について考える（考えるシリーズ7） |
| 3 | 教育行政に関する法律（教職教養シリーズ3） | 10 | 教育原理の再整理（教職教養シリーズ8） |
| 4 | 学級経営について考える（考えるシリーズ6） | 11 | 教育心理の再整理（教職教養シリーズ9） |
| 5 | 教職その他の学校教育をとりまく法律（教職教養シリーズ4） | 12 | 目指す教師像について考える（考えるシリーズ8） |
| 6 | 学習指導要領の再整理（教職教養シリーズ5） | 13 | 教育史の再整理（教職教養シリーズ10） |
| 7 | 特別支援教育の再整理（教職教養シリーズ6） | 14 | 教育時事の再整理（教職教養シリーズ11） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の課題レポート又は小論文　100％ |
| 教科書 | 各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月）文部科学省<br>『生徒指導提要（デジタルテキスト改訂版）』（令和4年12月　文部科学省）<br>教育時事答申、教職及び公務員用の一般教養問題 |
| 授業外の学習方法 | 各回の課題についての予習・復習を行うこと。（週 4 時間程度） |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 地域防災教育論 | 宮定　章 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 来るべき災害に備え、子どもたちが主体的に動こうとする知識・判断力・行動力を身に付けるための学習・訓練を行う防災教育の理論と実際について学ぶ科目である。『和歌山県防災教育指導の手引き』に基づき、児童生徒が主体的に動こうとする知識・判断力・行動力を身に付けるための学習と災害を具体的に想定した避難訓練の在り方について学習する。津波避難３原則「想定にとらわれるな」「状況下において最善を尽くせ」「率先避難者たれ」を浸透させ、子どもたちに自らが命を守る主体者としての自覚と、真剣に防災と向き合い、子どもたちと共に考え行動する意識の涵養を目指す。 |
| 授業の目標 | ・災害の現象を理解し、身を守る姿勢を身につける。<br>・日常生活における個人、地域に暮らす者、教師として、地域防災に関する知識と考察・対応能力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域防災教育論とは？<br>ガイダンス(授業の概要と計画、評価の説明等) | 8 | 避難 |
| 2 | 防災計画 | 9 | 避難所、在宅被災者 |
| 3 | 避難所 | 10 | 避難所運営 |
| 4 | 学内の防災設備 | 11 | 地区防災計画と自主防災組織 |
| 5 | 避難情報 | 12 | 防災教育①東日本大震災の事例 |
| 6 | 日常生活や地域における防災 | 13 | 防災教育②教育施設の事例 |
| 7 | 防災ゲームの概要とゲームづくり | 14 | まとめ　地域で取り組む防災 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | ミニレポート 65%，小テスト 35% |
| 教科書 | 毎回の授業で資料を配付する。 |
| 参考書 | 『和歌山県防災教育指導の手引き』(平成25年) 和歌山県教育庁学校教育局健康体育課<br>『「稲むらの火」の文化史』 久山社刊(平成11年) 府川源一郎<br>『教育現場の防災読本』 京都大学学術出版会(平成30年)「防災読本」出版委員会<br>『人が死なない防災』集英社新書(2012年) 片田敏孝 |
| 授業外の学習方法 | 復習とともに、小テストに向けて学習に取り組むこと。(週４時間程度)<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 音楽表現研究 | 八代健志 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 音楽表現の発展的科目である。表現領域の様々な活動と融合させた発展的な音楽表現活動について研究する。音楽あそびのレパートリーを増やし、模擬授業を行いながら実践力を高める。授業で学習した表現活動を活用し、グループでオリジナルの表現活動を創作する。途中経過を毎回発表しあうことで、情報の共有化や自己の振り返りにより、作品を改善する作業を積み重ねる。最後に創作した表現活動をグループごとに記録し、まとめる。 |
| 授業の目標 | 子どもと表現で身に付けた音楽的表現力をさらに高め、教育や福祉の現場等での即実践力、応用力を身につける。表現領域の基礎知識を深め、総合的な表現活動についても研究する。<br>グループ活動に取り組む力や相互の表現を認め、共有化し深めていく力を育成する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 表現することを通して養う、表現力や豊かな感性に関する幼児の音楽表現について | 8 | 楽器あそび (3) 音楽を「つくる」ことの幼児の感性に留意した進め方について |
| 2 | うたによる表現 (1) 手あそび | 9 | 劇あそび (1) 題材について学ぶ |
| 3 | うたによる表現 (2) わらべうたあそび | 10 | 劇あそび (2) 表現手段について学ぶ |
| 4 | リズムあそび (1) お手合わせ | 11 | 劇あそび (3) 脚本づくり |
| 5 | リズムあそび (2) ボディーパーカッション | 12 | 劇あそび (4) 音楽づくり |
| 6 | 楽器あそび (1) 楽器づくりのための素材集め | 13 | 劇あそび (5) 実演と意見交流 |
| 7 | 楽器あそび (2) 手作り楽器によるアンサンブル | 14 | 造形を含む、総合的に「表現」を見た時の音楽表現のあり方について |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 60%, 授業への取り組み 40% |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『保育所保育指針＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省<br>『幼保連携認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 適宜、資料配布、紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 次回までに前時の課題を復習しておくこと。(週 1 時間程度)<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 造形表現研究 | 大橋　功 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育現場に役立つように、造形表現活動の具体的な演習を通して、材料用具の特性、扱い方、技法などに精通し、その支援のあり方（環境構成・導入・展開方法・助言・完成作品の展示方法）について学ぶ。活動は基本的にチーム学習とし、協働的な学びについても実践的に理解できるようにする。また、豊かな心を育成する教室環境として、1年を通じて壁面構成のあり方を研究する。 |
| 授業の目標 | 造形表現の基礎的内容（平面、立体表現）について実技を通して、将来保育者となる受講者自身の造形表現に関わる技能・知識や感性を高める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス　紙で遊ぶ（新聞紙による造形遊び） | 8 | 感触を楽しむ（多様な素材と感触遊び） |
| 2 | 絵の具を遊ぶ（指絵の具、ぬたくり、版遊び） | 9 | 土を遊ぶ（自然土の粘土） |
| 3 | 絵の具を知る（絵の具の種類と目的別活用） | 10 | 土を知る（粘土の種類と目的別活用） |
| 4 | 絵の具を活かす（大きな絵を描こう） | 11 | 身近な素材でつくる１（生活素材からの発想） |
| 5 | パス・クレヨンで遊ぶ（パス・クレヨン・コンテの違いと活用） | 12 | 身近な素材でつくる２（自然素材からの発想） |
| 6 | 紙を知る 紙のオブジェの制作（切る・折る・曲げる） | 13 | 保育者のための色彩学（色彩理論の基礎と演習） |
| 7 | 紙を活かす（紙の多様性と可能性） | 14 | 配色と構成による表現（ダブルイメージボードの制作） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 学修による成果物 50%，演習カードの記述内容 30%，演習時の取り組み状況 20% |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼保連携認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省 |
| 参考書 | 担当教員が作成した演習カード |
| 授業外の学習方法 | 毎回１時間程度、学修したことを整理し「演習カード」にまとめて提出する。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 幼保:前期<br>小幼:後期 | 幼児体育Ⅰ | 加藤博之 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもの基礎運動技能を育むため、子どもの身体活動と運動遊びの具体的な内容について理解・習得し、保育者としての基礎的能力と実践力を身につける科目である。様々な運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。幼児期の体験が生涯の基礎であることの理解に立ち、運動遊びの教育的意義を理解し、体育的指導における基礎知識を深めることを目的とする。幼児期の基礎体力の理解を深め、身体活動の実践をするとともに、運動会や親子体操、幼児期のリズム体操、等、子どもの身体活動と運動遊びの意義を学習する。 |
| 授業の目標 | 幼児の基礎運動技能を育むため、自らいろいろな運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。幼児期の体験が生涯の基礎であることの理解に立ち、体育遊びの教育的意義を理解し、体育的指導における基礎知識を深める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション:保育の中の運動教育について、保育者の関わり方を理解する。 | 8 | 体育器具(2):その他の体育器具(技巧台ほか)や固定遊具を使った遊びとサーキット遊びを理解する。 |
| 2 | 基本的身体運動の実践:基本的な身体操作(歩、走、跳運動)の理解と正確な身体操作の練習をする。 | 9 | 水遊び(1):水遊びの基本を理解し、実践する。 |
| 3 | 組み体操の理解と実践:人の動きの観察と相手の運動に合わせる調整力を養う。 | 10 | 水遊び(2):水上安全とプール遊びを理解し、実践する。 |
| 4 | 幼児の体育遊びの実践(1):伝承遊びの意義を理解し、実践する。 | 11 | 水遊び(3):水遊びの教材を研究し、実践する。 |
| 5 | 幼児の体育遊びの実践(2):ゲーム遊びの意義を理解し、実践する。 | 12 | ボール遊び(1):基本的なボール遊びの意義を理解し、実践する。 |
| 6 | 幼児の体育遊びの実践(3):手具遊びの意義を理解し、実践する。<br>幼児の体育遊びの実践(4):身近な日用品を使った遊びを実践する。 | 13 | ボール遊び(2):各種ボールゲームのアレンジ方法を研究し、実践する。 |
| 7 | 体育器具(1):跳び箱・マット・鉄棒・平均台を使った遊びを理解し、実践する。 | 14 | まとめ:運動教育の考え方、体育遊びの援助の仕方を総括する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 60%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 20% |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『幼児期の運動あそび―理論と実際―』不昧堂出版(平成21年9月) 西田俊夫編著<br>『こうすればできるよ 子どもの運動 マット とび箱 鉄棒』ミネルヴァ書房(平成17年9月) 秋田裕子著<br>『幼児の運動あそびの新しい進め方』学術図書出版(平成7年11月) 浅田隆夫編 |
| 授業外の学習方法 | 週2時間程度の復習を行うこと。レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 幼児体育Ⅱ | 加藤博之 | 1 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼児体育Ⅰに引き続き、子どもの身体活動と運動遊びの具体的な内容を理解・習得し、保育者としての基礎的能力と実践力を身につける。幼児体育Ⅰで学んだ基礎理論を背景に、子どもの基礎的運動技能を育むための教材研究、運動遊びの指導計画の作成、模擬保育の実践、分析、評価、改善活動を通じて実践力を養う。くわえて、運動遊びにおける設備・遊具などの安全管理および安全教育に必要な知識や技能の習得を目指す。 |
| 授業の目標 | 幼児の基礎運動技能を育むため、自らいろいろな運動遊びの実践と理論を踏まえ、個人の活動意欲に応じた適切な運動体験の援助力を養う。また、幼児の年齢に応じた遊びを立案発表、相互評価などの実践練習を行う。幼児期の体験が生涯の基礎であることの理解に立ち、体育遊びの教育的意義を理解し、体育的指導における応用技術を高める。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎体力づくり:幼児期の基礎体力の理解を深め、身体活動の実践をする。 | 8 | 実技指導の実践練習(2):指導案を立案し、模擬指導を行う。 |
| 2 | 運動会:運動会の意義を理解し、活動内容や種目を実践する。 | 9 | 実技指導の実践練習(3):指導案を立案し、模擬指導を行う。 |
| 3 | 親子体操:親子体操の意義を理解し、活動内容や種目を実践する。 | 10 | 実技指導の実践練習(4):指導案を立案し、模擬指導を行う。 |
| 4 | リズム体操(1):幼児期のリズム体操の意義を理解し、グループで振付を立案する。 | 11 | 実技指導の実践練習(5):指導案を立案し、模擬指導を行う。 |
| 5 | リズム体操(2):グループで振付の修正と練習をする。 | 12 | 実技指導の実践練習(6):指導案を立案し、模擬指導を行う。 |
| 6 | リズム体操(3):発表と相互評価を行う。 | 13 | 実技指導の実践練習(7):指導案を立案し、模擬指導を行う。 |
| 7 | 実技指導の実践練習(1):指導案を立案し、模擬指導を行う。 | 14 | 実技指導のまとめ:模擬指導に対する総評を行う。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 60%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 20% |
| 教科書 | 適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『手軽な用具で楽しめる体育あそび素材集』 文化書房博文社(昭和51年) 佐藤和兄・畠山トミ著<br>『幼児の運動あそびの新しい進め方』 学術図書出版(平成7年11月) 浅田隆夫編 |
| 授業外の学習方法 | 週2時間程度の復習を行うこと。レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 鍵盤楽器の表現技法 | 溝口希久生 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 鍵盤楽器演奏上級者を対象とし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要なピアノの演奏技能を高めることをねらいとする。音楽の構造と表現法の学びを深め、保育所・幼稚園・小学校において子どもの音楽表現が引き出せるような伴奏や弾き歌いの技能を高める。学生の課題や実態に適した教材と指導を行い、現場で実践できるピアノの演奏技能の習得を目指す。 |
| 授業の目標 | 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭において、子どもの音楽表現が引き出せるようなピアノ伴奏や弾き歌いの技能を習得する。音楽の理論と表現法を身に付けて、子どもの音楽表現が引き出せるような伴奏や弾き歌いができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業の概要、授業の評価、和音伴奏とは何か） | 8 | Ⅰ Ⅳ Ⅴ Ⅴ7 を使った和音伴奏と移調（へ、イ長調）した伴奏付け（課題曲による演習） |
| 2 | 主要三和音（Ⅰ Ⅳ Ⅴ）で伴奏をつけた和音伴奏付け（課題曲による演習） | 9 | 分散和音の伴奏付け（課題曲による演習） |
| 3 | 主要三和音とその展開形の伴奏付け（課題曲による演習） | 10 | 分散和音伴奏で移調（ト、ニ長調）した伴奏付け（課題曲の移調） |
| 4 | 属七の和音を入れた和音の伴奏付け（課題曲による演習） | 11 | 分散和音伴奏で移調（へ、イ長調）した伴奏付け（課題曲の移調） |
| 5 | 主要三和音で伴奏をつけた移調（ト、ニ長調）した伴奏付け（課題曲の移調） | 12 | 短調による和音伴奏（Ⅰ Ⅳ Ⅴ Ⅴ7）（課題曲による演習） |
| 6 | 主要三和音で伴奏をつけた移調（へ、イ長調）した伴奏付け（課題曲の移調） | 13 | 短調の曲の和音、分散和音の伴奏付け（課題曲による演習） |
| 7 | Ⅰ Ⅳ Ⅴ Ⅴ7を使った和音伴奏と移調（ト、ニ長調）した伴奏付け（課題曲による演習） | 14 | 発表会①：課題曲に伴奏付けをした弾き歌い |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 鍵盤楽器の表現技法 | 溝口希久生 | 2 | 選必 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | オリエンテーション(授業の概要、授業の評価)<br>子どもに届く声で歌う(既習曲の弾き歌いと聴き合い) | 22 | 拍子感<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い |
| 16 | 歌いやすいテンポで歌う<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い | 23 | クレッシェンド、デクレッシェンド<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い |
| 17 | 前奏の工夫<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い | 24 | 曲に合ったフレージング、アティキュレーション<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い |
| 18 | フレージング<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い | 25 | 前奏づくり<br>前奏付けのポイント、既習曲を用いた演習 |
| 19 | 鍵盤を見ないで弾く<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い | 26 | 後奏づくり<br>前奏付けのポイント、既習曲を用いた演習 |
| 20 | 止まらずに弾く<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い | 27 | イメージと音楽表現 |
| 21 | 曲に合った強弱<br>既習曲の弾き歌いと聴き合い | 28 | 発表会②:課題曲をイメージに応じた弾き歌い |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 実技試験 60%, 課題レポート・提出物 20%, 授業へ取り組む姿勢・態度 20% |
| 教科書 | 『こどものうた 100』チャイルド本社(1982 年 4 月)小林 美実<br>『幼稚園教育要領解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 文部科学省<br>『保育所保育指針解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成 30 年 3 月)』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋出版社(2018 年 2 月) 文部科学省 |
| 参考書 | 適宜、プリント・資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業外の練習を十分確保することが大事になる。(週 2 時間程度)<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 子ども家庭支援の心理学 | 植田喜樹 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解すると共に、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家庭関係等について発達的な観点から理解を深める。さらに、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、子育て家庭をめぐる現在の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する。 |
| 授業の目標 | 人の生涯発達のプロセス、子育て家庭を取り巻く社会的な背景や子ども及び子育て家庭への支援の実際についての理解を深め、現場において子どもや保護者と関わり支援していく上で活用できる知見を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 親子関係・家族関係における発達の理論と実際 | 8 | 子育て・仕事とライフコース |
| 2 | 乳幼児期の発達～乳児期から幼児期前半にかけて | 9 | 多様な家庭形態とその理解 |
| 3 | 乳幼児期の発達～幼児期前半から後半にかけて | 10 | 特別な配慮を必要とする家庭の理解と援助 |
| 4 | 学童期・青年期における発達 | 11 | 発達支援の必要な子どものいる家庭の理解と援助 |
| 5 | 成人期・老年期における発達 | 12 | 子どもの生活環境・成育環境と生活習慣の獲得 |
| 6 | 家族・家庭の意義と機能 | 13 | 子どもの心の健康問題 |
| 7 | 子育てを取り巻く社会的状況と課題 | 14 | 子ども家庭支援をめぐる現代の社会的状況と課題 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%， 授業の最後に行う小レポート 20%， 授業への取り組み 10% |
| 教科書 | 『子ども家庭支援の心理学入門』ミネルヴァ書房 大倉得史・新川泰弘 編著 |
| 参考書 | 『子ども家庭支援の心理学』 中央法規 白川佳子・福丸由佳 編集 |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われる教科書の内容をよく読んでおくこと。(週 4 時間程度)<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 行政心理専門職として発達相談、子育て支援等に従事している経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 子どもの健康と安全 | 内海みよ子 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策、感染症対策やまた保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。さらに、子どもの体調不良等に対する適切な対応、健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する。 |
| 授業の目標 | 保育における保健的観点の活用方法を近年のデータや各種ガイドラインなど幅広い情報から理解し、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえ、さらに集団全体の健康と安全を考慮した適切な保健的対応について修得する。演習を取り入れた講義をおこなう。<br>1)保健的観点を踏まえた保育環境を理解し、保育的援助の具体的方法を修得する。<br>2)保育における衛生管理・事故予防及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。<br>3)子どもの体調不良時の対応や感染症対策について、具体的に理解する。<br>4)近年の子どもの発達・状態をデータや各種ガイドラインから理解し、保健的対応について理解する。<br>5)子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や保健活動の実際について理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション(シラバス持参)　子どもの健康維持・増進のための保育環境 | 8 | 保育現場での救急処置及び救急蘇生法 |
| 2 | 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康増進のための援助 | 9 | 感染症の集団発生の最近データから予防対策 |
| 3 | 子ども集団全体の健康と安全・衛生管理 | 10 | 保育現場での感染症集団発生後の対応 |
| 4 | 保育における事故防止及び安全対策 | 11 | 保育における保健的対応の基本的な考え方、3歳未満児への対応 |
| 5 | 保育における危機管理と災害対策 | 12 | 保育現場で個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 |
| 6 | 子どもの体調不良や傷害が発生した場合の対応 | 13 | 保育における保健活動への組織的取組 |
| 7 | 保育現場で起こりやすい救急場面での応急処置 | 14 | 保健活動と関係機関との連携 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 60%, 課題・小テスト等 10%, 受講態度・授業への参加度 30% |
| 教科書 | 『改訂 保育の中の保健 幼稚園・保育所での保健指導の理論と実践』萌文書林(平成22年11月) 巷野悟郎・高橋悦二郎編 |
| 参考書 | 『子どもの保健演習』中山書店(平成29年1月) 大西文子<br>『子どもの保健演習ノート』診断と治療社(平成28年12月) 榊原 洋一、小林 美由紀 |
| 授業外の学習方法 | 週 1～2 時間程度の復習及び課題作成を行うこと。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 子どもの食と栄養Ⅰ | 土井有美子 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子ども理解の基礎科目として、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ科目である。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深めるとともに、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 |
| 授業の目標 | 基礎的な栄養学や食生活の正しい知識を修得する。子どもを取り巻く近年の食生活の現状と問題点、発達、健康状態への影響などを理解したうえで、食生活改善のために具体的な教材作りを身につける。食育の実践的な指導方法を修得するとともに自らも望ましい食生活が実践できる。<br>乳幼児期の食生活について学び、食習慣の基盤づくりを修得する。<br>(1)子どもの発育・発達と食生活の関連を修得する。<br>(2)特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。<br>(3)保育者として、保育のなかでの食生活のもつ意義を発達段階に応じて理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子どもの健康と食生活の意義 :子どもの食生活の特徴 | 8 | 子どもの発育・発達と栄養生理 |
| 2 | 「食」に関する指針など : 保育所に求められるもの | 9 | 子どもの発育・発達と食生活Ⅰ: 授乳期の意義と食生活、母乳の重要性 |
| 3 | 栄養と食品の基礎知識Ⅰ: 栄養と栄養素 | 10 | 子どもの発育・発達と食生活Ⅱ: 離乳期の意義と食生活 |
| 4 | 栄養と食品の基礎知識Ⅱ: 食品の基礎知識、食品成分表の使用法、調理の基本 | 11 | 調乳・離乳食 : 調乳方法と市販の離乳食(テクスチャー等) |
| 5 | 健全な食生活のための指標Ⅰ:日本人の食事摂取基準、食生活指針 | 12 | 離乳食立案 : 離乳開始から完了期まで |
| 6 | 健全な食生活のための指標Ⅱ: 食事バランスガイド | 13 | 子どもの発育・発達と食生活Ⅲ : 幼児期の意義と食生活 |
| 7 | 自身の食生活評価 : 食事バランスガイドによる自己診断と自己評価 | 14 | 手作り離乳食の検討 : グループワーク |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 60%, 課題・小テスト等 30%, 受講態度・授業への参加度 10% |
| 教科書 | 『子どもの食と栄養演習』建帛社 小川雄二 (編著)<br>『新食品成分表 FOODS』とうほう出版 新食品成分表編集委員会編 |
| 参考書 | 『最新 子どもの食と栄養』 学建書院 飯塚美和子他(編)<br>『保育所の食事を通して食育を』学建書院 亀城和子他(著) |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。<br>日ごろから自身の食生活だけでなく周りの人々の食と健康に興味をもつこと。<br>子どもの食事や食育等に関する情報に関心をもつこと。<br>上記内容を週 1 時間程度行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 子どもの食と栄養Ⅱ | 土井有美子 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもの食と栄養Ⅰに引き続き、子ども理解の基礎科目として、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学ぶ科目である。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての理解を目指す。 |
| 授業の目標 | 基礎的な栄養学や食生活の正しい知識を修得する。子どもを取り巻く近年の食生活の現状と問題点、発達、健康状態への影響などを理解したうえで、食生活改善のために具体的な教材作りを身につける。食育の実践的な指導方法を修得するとともに自らも望ましい食生活が実践できる。<br>乳幼児期の食生活について学び、食習慣の基盤づくりを修得する。<br>(1)子どもの発育・発達と食生活の関連を修得する。<br>(2)特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。<br>(3)保育者として、保育のなかでの食生活のもつ意義を発達段階に応じて理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 幼児期の間食:間食の意義、間食(案)づくりと検討 | 8 | 食育の立案と作成:テーマ、食教育媒体作成 |
| 2 | 幼児期の弁当:弁当の条件、立案(献立作成) | 9 | 年間食育指導計画の作成 |
| 3 | 幼児期の弁当レシピづくり:調味パーセント、地元産食材使用 | 10 | 家庭への周知:食育だよりの計画、作成 |
| 4 | 幼児期の手作り弁当づくり:栄養価計算 | 11 | 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 |
| 5 | 幼児期の手作り弁当検討:グループワーク | 12 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養:食事形態・食器具・食事援助の対応 |
| 6 | 学童期・思春期等の栄養と食生活:現状と問題点、望ましい食育 | 13 | 教材発表とロールプレイング:食教材、手作り弁当 |
| 7 | 食育の基本と内容:保育所及び家庭における事例 | 14 | 緊急時、災害時の対応<br>まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 50%, 課題・小テスト等 40%, 受講態度・授業への参加度 10% |
| 教科書 | 『子どもの食と栄養演習』建帛社 小川雄二 (編著)<br>『新食品成分表 FOODS』とうほう出版 新食品成分表編集委員会編 |
| 参考書 | 『最新 子どもの食と栄養』 学建書院 飯塚美和子他(編)<br>『保育所の食事を通して食育を』学建書院 亀城和子他(著) |
| 授業外の学習方法 | 次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。<br>日ごろから自身の食生活だけでなく周りの人々の食と健康に興味をもつこと。<br>子どもの食事や食育等に関する情報に関心をもつこと。<br>上記内容を週1時間程度行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 特別支援教育・保育Ⅰ | 原　康行 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解をねらいとする科目である。在籍する学級を問わず、障害のある幼児、児童及び生徒への教育・保育を進める特別支援教育の理念、その制度についてインクルーシブ教育の観点と照らし合わせながら学ぶ。さらに、個別の教育的支援ニーズに応じた支援の原則や方針を理解できるよう、障害の種別や各々の障害について、身体の発達、心理的・行動的特性及び学習の過程を理解する。 |
| 授業の目標 | 本科目の授業の到達目標は、1）インクルーシブ教育・保育の理念を含めた特別支援教育と保育の理念や法令、制度みを理解していること、2）発達障害や様々な障害（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱等）のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けていること、3）発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解していることである。授業を貫くテーマは、インクルーシブ教育、特別支援教育の理念を踏まえた障害のある子どもたちの特性を理解することである。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「障害」の概念及び特別支援教育と保育の制度、理念 | 8 | 注意欠如・多動性障害児の学習過程と支援の原則 |
| 2 | インクルーシブ教育及び保育と、特別支援教育との関連性 | 9 | 自閉症スペクトラム障害児の心理的・行動的特性 |
| 3 | 軽度の知的障害の特性と学習への支援 | 10 | 自閉症スペクトラム障害児の学習過程と支援の原則 |
| 4 | 知的障害児の特性と学習過程と支援の原則 | 11 | 視覚障害児における学習上及び生活上の困難と支援の原則 |
| 5 | 学習障害児の心理的・行動的特性 | 12 | 聴覚障害児における学習上及び生活上の困難と支援の原則 |
| 6 | 学習障害児の特性に応じた学習過程と支援の原則 | 13 | 肢体不自由・病弱児における学習上及び生活上の困難と支援の原則 |
| 7 | 注意欠如・多動性障害児の心理的・行動的特性 | 14 | まとめ　特別支援教育の理念に基づいた特別の支援ニーズのある幼児、児童及び生徒の理解 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 50%，レポート 30%，各回 復習シート 20% |
| 教科書 | 『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門（第2版）』萌文書林（2019年2月）大塚玲 著 |
| 参考書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業で使用した資料や参考書を熟読し、理解を深めると共に、疑問点等を次回の授業時に質問すること。講義修了時に配布する復習シートの記入，自己の振り返りの時間も確保すること。（週 1 時間程度） |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 全ての回において，特別支援学校教諭免許状を持ち、義務教育諸学校での実務経験のある教員が、その支援や教育の経験を活かし、実践的教育を行う。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 特別支援教育・保育Ⅱ | 原　康行 | 1 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 「特別支援教育と保育Ⅰ」で修得したことに基づいて、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について理解することを目的とする科目である。教育課程の理解のもと、個別の指導計画・保育計画、個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解するために、事例分析に基づいた個別の指導計画の策定の演習を取り入れる。幼・保・小の連携、医療、福祉等の他機関との連携の在り方を理解する。多様な特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性について理解するために実践例を通して学ぶ。 |
| 授業の目標 | 本科目の授業の到達目標は、1)発達障害、軽度の知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法について原則を理解すること、2) 障害はないが社会経済的要因、母語が日本語ではない学習上の要因など多様な側面の要因から生じる教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上、生活上の困難を理解し、校内、校外の社会的資源の活用を含めて、適切な対応について理解することである。授業のテーマは、多様な教育的ニーズへの適切な対応の理解である。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 軽度知的障害児の特性に応じた支援方法 | 8 | 「通級による指導」の教育課程上の位置づけ内容と方法 |
| 2 | 注意欠如・多動性障害の特性に応じた支援の原則 | 9 | 校内の組織的対応、医療・福祉等外部機関との連携ー事例研究を通してー |
| 3 | 保育、教育場面における注意欠如・多動性障害児とその保護者への支援ー事例研究を通してー | 10 | 発達障害児が不登校・不登園になるのを予防するための園・学校の組織的な対応 |
| 4 | 自閉症スペクトラム障害の理解と支援の原則 | 11 | 個別の指導計画作成の意義と方法 |
| 5 | 保育、教育場面における自閉症スペクトラム障害児とその保護者への支援ー事例研究を通してー | 12 | 個別の教育支援計画作成の意義と方法 |
| 6 | 学習障害の支援ー通常の学級におけるユニバーサルデザインの実践を中心にー | 13 | 母語が日本語ではないことから生じる支援ニーズへの支援 |
| 7 | 障害のある子どもたちを対象とした「自立活動」の教育課程上の位置づけ、内容と方法 | 14 | 社会経済的要因により生じる支援ニーズの理解と対応 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績　50%,　レポート　30%,　各回 復習シート　20% |
| 教科書 | 『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門(第2版)』萌文書林(2019年2月)　大塚玲 著 |
| 参考書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業で使用した資料や参考書を熟読し、理解を深めると共に、疑問点等を次回の授業時に質問すること。講義修了時に配布する復習シートの記入，自己の振り返りの時間も確保すること。(週１時間程度) |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 全ての回において，特別支援学校教諭免許状を持ち、義務教育諸学校での実務経験のある教員が、その支援や教育の経験を活かし、実践的教育を行う。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 社会的養護演習 | 岩田智和 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実際について学ぶとともに、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。さらに、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 |
| 授業の目標 | 虐待などの理由により家庭で暮らすことが困難な子どもが増加するなか、「社会全体で子どもを育む」を理念とする社会的養護の役割が重要視されている。本授業において、子どもを取り巻く社会的状況を理解するとともに、社会的養護のもとで暮らす子ども達および社会的養護を担う里親や施設における支援の実際を理解し、子どもの最善の利益を目指した支援やアプローチ法について講義やケース等の演習を通して学ぶ。そのうえで、社会的養護臨床における保育士としての実践的な対人援助技術の習得を目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み①<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 8 | 施設養護における支援の実際③<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |
| 2 | 社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み②<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 9 | 家庭養護(里親)における支援の実際<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |
| 3 | 社会的養護を必要とする子どもの理解と権利①<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 10 | 社会的養護にかかわる相談支援(保育ソーシャルワーク)①<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |
| 4 | 社会的養護を必要とする子どもの理解と権利②<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 11 | 社会的養護にかかわる相談支援(保育ソーシャルワーク)②<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |
| 5 | 社会的養護にかかわる保育士の役割・倫理・責務<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 12 | 社会的養護にかかわる相談支援(保育ソーシャルワーク)③<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |
| 6 | 施設養護における支援の実際①<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 13 | 社会的養護実践における支援計画・記録・評価<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |
| 7 | 施設養護における支援の実際②<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) | 14 | 社会的養護実践における課題と展望<br>ケース等の演習(セルフワーク・グループワーク) |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%, 毎授業後のリアクションペーパー 25%, 授業への参加度 25% |
| 教科書 | 『演習・保育と社会的養護実践 ―社会的養護Ⅱ―』みらい 橋本好市・原田旬哉(編著) |
| 参考書 | 『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』萌文書林(2021年9月) 杉山宗尚・原田旬哉(編著)<br>上記のほか、適宜、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業に関する教科書内容を予習・復習する。あわせて、社会的養護に関する新聞記事や書籍等に関心を寄せて読む。以上の内容を週1時間程度行うこと。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 児童自立支援施設および児童相談所において社会的養護のもとで暮らす児童やその保護者等への相談支援・心理支援・自立支援の実務経験を有する担当教員が、社会的養護の実際および支援のあり方について教授する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 子育て支援演習 | 森下順子 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育士の行う子育て支援の意義と内容、支援の実際と課題を、実践例を通して演習的に学ぶ科目である。保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を、具体例を通して学ぶ。また保育士の行う子育て支援についても、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、体験を通して修得する。 |
| 授業の目標 | 保育者の行う保育の専門性を背景とした、保護者に対する相談支援についての意義と役割を理解する。さらに、子育て支援方法や技術を深め、実践事例や体験を通して理解を深め、実践力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保育者の保育の専門性と意義 | 8 | 社会資源の活用と関係機関等との連携と協働 |
| 2 | 子育て家庭の現状と課題 | 9 | 子育て支援技術（方法と技術、信頼関係の構築、自己決定と秘密保持） |
| 3 | 子育て家庭支援の目的と機能 | 10 | 保育相談支援Ⅰ（理論・意義・機能） |
| 4 | 保育所における子育て支援 | 11 | 保育相談支援Ⅱ（直接的支援と間接的支援） |
| 5 | 地域の子育て家庭に対する子育て支援 | 12 | 保護者のエンパワメントに資する支援 |
| 6 | 気になる子どもや特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 | 13 | 保育者に求められる基本的態度と技術 |
| 7 | 虐待・要保護児童等の家庭に対する子育て支援 | 14 | 多様な支援の展開を目指して　まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%，課題レポート 20%，授業への取り組み 30% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年度告示〉』フレーベル館（2018 年度 9 月）厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年度 9 月）内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 『子育ち・子育て支援学』保育出版社（2011 年 7 月）寺見陽子編著<br>『保育と家庭支援【第 2 版】』みらい（2018 年 3 月）上田衛編集<br>『保育者のための子育て支援入門』萌文書林（2021 年9月）園川緑,中嶌洋編著 |
| 授業外の学習方法 | 配布資料等で 1 週間に 2 時間程度の予習と復習をする。<br>レポート及び発表原稿を作成する。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 教育相談支援 | 村上凡子 | 2 | 必修 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解、他者理解を深め、集団の中で個性の伸長、人格の成長を達成できるよう、心理学が積み上げてきた対人援助に関する基礎的理論及び方法を身に付けることをねらいとしている。このねらいを達成するために必要な各発達段階と発達課題、カウンセリングの技法等に関する基本的な事項を実践的に学ぶ。教育相談には、いじめ、不登校、虐待といった困難な状態を解決する個への問題解決機能、問題の予防を図るための集団を対象とした開発的機能などがある。学校がこうした機能を発揮するために主導的な役割を果たしながら、他職種、他機関と連携し、「チーム学校」の理念を学校場面で実践化する過程を事例に照らして検討する。 |
| 授業の目標 | 授業の目標は、<br>1）教育相談領域に関する現代の課題を確認し、教育相談の意義について理解すること、<br>2）児童生徒理解のためのカウンセリング理論を基盤にした基礎的知識を習得し、カウンセリングの技法、個と集団双方に対する対人援助法の実践力を高めること<br>3）教育相談が計画に基づいて校内で組織的に展開するよう、校内体制の整備、他機関等の連携の必要性を理解すること　の3点である。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育相談の意義と3つの機能 | 8 | 教育相談の組織的体制と教育相談計画の立て方 |
| 2 | 教育相談の基本的対人態度とカウンセリング技法 | 9 | いじめに関する基礎的理論 |
| 3 | 児童生徒理解のための心理検査を用いた評価方法 | 10 | いじめへの対応の原則 |
| 4 | 受容・共感能力、自己表現力を高めるための対人援助法 | 11 | 不登園・不登校、非行への対応 |
| 5 | 集団を対象とした人間関係づくりのための実践的方法 | 12 | 児童虐待に関する基礎的理論 |
| 6 | 感情のコントロール力及び自己調整力向上のための対人援助法 | 13 | 被虐待児への対応 |
| 7 | 発達障がいに関する基礎的理解と対応の原則 | 14 | 教育相談における保護者対応 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 70%，　小テスト 20%，　予習復習ノート 10% |
| 教科書 | 『教育相談の理論と実際　改訂版』図書文化社(2019年）河村茂雄　編 |
| 参考書 | 『いじめとは何かー教育の問題、社会の問題』中央公論社(平成22年7月）森田洋司著 |
| 授業外の学習方法 | 1 週間に 4 時間程度の予習を課す。その内容は、次回に行われる教科書の内容を事前に読み要点の抜き書きや意見を記述しておくことである。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 地域と子育て支援 | 森下順子 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 子どもが育つ環境も保護者が子育てする環境も、危機的な状況にあり、保育者は中心的な子育て支援者として期待が寄せられている。本科目では、地域と家庭の双方を視野に入れた専門性と多様性を理解する。例えば、家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携などについて様々な観点からロールプレイング等を取り入れ体験的に学ぶ。さらに、和歌山市や和歌山県内の施設と連携して、フィールドワークなどを実施して実践力を身につける。 |
| 授業の目標 | 子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。保育者の専門性を活かした子ども家庭支援と、支援体制について理解を深める。さらに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状と課題について理解を深め、実践力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子ども家庭支援の意義と必要性 | 8 | 地域の子育て家庭への支援 |
| 2 | 子ども家庭支援に関する地域社会の現状と課題 | 9 | 子どもの発達に問題を抱える家庭への支援 |
| 3 | 子育ての現状と課題と子育て支援施策等について | 10 | 要保護児童等及びその家庭への支援 |
| 4 | 子育て家庭への支援体制　社会資源の活用と連携 | 11 | 子ども家庭支援に関する現状と課題 |
| 5 | 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 | 12 | 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援 |
| 6 | 保育者の求められる基本的態度(保育マインド) | 13 | 保護者及び地域の子育て力の向上に資する支援 |
| 7 | 保育所等を利用する子ども家庭への支援 | 14 | 家庭支援の専門性、まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 60%， 課題レポート 10%， 授業への取り組み 30% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年度告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 『子育ち・子育て支援学』保育出版社(2011 年 7 月)寺見陽子編著<br>『保育と家庭支援【第 2 版】』みらい(2018 年 3 月)上田衛編集<br>『保育実践に求められる子ども家庭支援』ミネルヴァ書房(2019 年 10 月)橋本好市,直島正樹編著 |
| 授業外の学習方法 | 配布資料等で 1 週間に 4 時間程度の予習と復習をする。子どもや家庭を取り巻く時事問題について関心を持つ。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 生徒指導・進路指導の理論と方法 | 岸田正幸<br>犬塚文雄 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 学校教育における生徒指導と進路指導及びキャリア教育の理論と方法を学ぶ科目である。生徒指導の理念と理論について、様々な生徒指導の事例と課題について具体的に検証する。また、「あり方・生き方指導」を基本理念とする進路指導についてそのあり方を学ぶとともに、ガイダンスやカウンセリングとしてのキャリア教育、学校の教育活動全体の中で展開するキャリア教育の指導のあり方について検証する。 |
| 授業の目標 | 生徒指導･進路指導の意義と適切な生徒理解に則る指導の理念を理解し、クラス、学校全体で取り組む指導のあり方を様々な事例に即して、全体指導や個別指導カウンセリング等も踏まえて「人間としてのあり方生き方」に則る「生きる力」を育成する指導のあり方を検証する。また、生徒自らのあり方･生き方を踏まえ、将来の進路意識の成熟を図ることで、キャリア意識の向上をガイダンスとカウンセリングを通して育成する指導のあり方について、各教科をはじめあらゆる教育活動の中で、総合的に育む指導のあり方を検証する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生徒指導の意義と原理　生徒指導の意義や教育課程における生徒指導の位置付け、集団指導・個別指導の方法原理などについて学ぶ。（犬塚文雄） | 8 | 生徒指導の実際Ⅱ　いじめや不登校、児童虐待について、その定義、構造、心理、対応、解決の方法を、具体例を通して学ぶ。（犬塚文雄） |
| 2 | 教育課程と生徒指導　各教科、道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間の中での生徒指導の意義を学ぶ。（犬塚文雄） | 9 | 学校・家庭・地域・関係機関の連携　学校が家庭・地域・関係機関と連携して生徒指導を行う意義と連携の在り方について学ぶ。（犬塚文雄） |
| 3 | 児童生徒の心理と児童生徒理解　児童生徒理解の基本となる児童期・青年期の心理と発達を学ぶと共に、児童生徒理解のための資料とその収集法について学ぶ。（犬塚文雄） | 10 | 進路指導及びキャリア教育の意義と理論　「あり方･生き方指導」を基本理念とする進路指導及びキャリア教育への理解を深めると共に、教育課程におけるキャリア教育の視点と指導の在り方、組織的な指導体制、家庭や関係機関との連携内容について学ぶ。（岸田正幸） |
| 4 | 学校における体制　学校における生徒指導の体制と組織を理解すると共に、指導計画の意義と作成法、評価と改善の視点について学ぶ。（犬塚文雄） | 11 | キャリア教育の視点に立つカリキュラム･マネイジメントとガイダンス機能　子どもの人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の涵養を目的とする、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントとガイダンス機能を生かしたキャリア教育について理解を深める。（岸田正幸） |
| 5 | 教育相談体制　教育相談の意義と体制の構築方法についての理解を深めると共に、教育相談の進め方や専門機関等との連携、生徒指導体制との違いについて学ぶ。（犬塚文雄） | 12 | カウンセリングとしての進路指導及びキャリア教育ポートフォリオの活用した自己評価の意義やキャリア・カウンセリングの基礎と実践方法について学ぶ。（岸田正幸） |
| 6 | 生徒指導の基本的視点と留意点　生徒指導における教職員の役割や学級担任・教科担任の指導内容、基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、子どもの安全、生徒指導に関する法制度について、その基本的視点と留意点を学ぶ。（犬塚文雄） | 13 | キャリア教育の実践Ⅰ（教科）教科を中心に、学校の教育活動全体を通したキャリア教育の実践例を通して、実践のポイントを学ぶ。（岸田正幸） |
| 7 | 生徒指導の実際Ⅰ　発達障害や喫煙・薬物、非行、暴力、インターネット、生命尊重にまつわる問題について、その構造、心理、対応、解決の方法を、具体例を通して学ぶ。（犬塚文雄） | 14 | キャリア教育の実践Ⅱ（教科以外の活動）　教科以外の活動を中心に、学校の教育活動全体を通したキャリア教育の実践例を通して、実践のポイントを学ぶ。（岸田正幸） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 80%， 確認小テスト・発表 20% |
| 教科書 | 毎回、授業内容のレジュメと資料を配布する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『生徒指導提要(デジタルテキスト改訂版)』(令和4年12月 文部科学省)<br>『小学校キャリア教育の手引き』(平成23年5月 文部科学省) |
| 授業外の学習方法 | 授業内で配布される資料の復習を行うこと。(毎回4時間程度)<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 保育内容の指導法Ⅱ | 中村俊之<br>山下悦子 | 2 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼児の認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を学ぶと共に、保育の構想や指導案の作成を学ぶ。具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む能力の習得を目指す。 |
| 授業の目標 | 1)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。<br>2)各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。<br>3)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。<br>4)各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 200 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション<br>グループに分かれて学習計画を策定する。<br>2 年次の実習を振り返り、幼児の姿を具体的に想定したクラス案を策定する。 | 6 | 領域『環境』に関する教育・保育の動向<br>映像資料や事例を基に、伝統的遊びや科学遊び、草花遊び、飼育・栽培活動など、領域『環境』の具体的活動や行事の実際について学ぶ。<br>グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。 |
| 2 | 領域『言葉』に関する教育・保育の動向<br>絵本や物語、紙芝居など児童文化に触れ、体験することで、幼児にとっての意義を考える。<br>映像資料や事例を通して、言葉に対する感覚を豊かにする活動の実際について学ぶ。<br>グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。 | 7 | 教育・保育の計画<br>事例を基に、教育・保育の計画の重要性と構成について学ぶ。<br>グループに分かれて、中長期の教育・保育計画を策定する。 |
| 3 | 領域『人間関係』に関する教育・保育の動向<br>映像資料や事例を通して、クラスの中での人間関係における個と集団の育ち、協同性を育む活動や遊び野展開、地域の多様な人たちとの関わりの実際について学ぶ。<br>グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。 | 8 | 指導計画案の作成<br>指導計画案の構成と作成のポイントについて学ぶ。<br>グループに分かれ、中長期の計画と幼児の姿に基づく、指導計画案を作成する。 |
| 4 | 領域『健康』に関する教育・保育の動向<br>映像資料や事例を通して、幼児の健康に関する教育・保育実践の動向を学ぶ。<br>グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。 | 9 | 模擬保育と振り返り：テーマ『言葉』<br>代表グループにより模擬保育を行う。<br>撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。 |
| 5 | 領域『表現』に関する教育・保育の動向<br>映像資料や事例を基に、幼児の協同的、創造的な表現を育む国内外の様々な表現活動の動向について学ぶ。<br>グループ討議を通じて、保育者の役割やICTの有効的な活用法について検討する。 | 10 | 模擬保育と振り返り：テーマ『人間関係』<br>代表グループにより模擬保育を行う。<br>撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 | 模擬保育と振り返り:テーマ『健康』<br>代表グループにより模擬保育を行う。<br>撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。 | 13 | 模擬保育と振り返り:テーマ『環境』<br>代表グループにより模擬保育を行う。<br>撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。 |
| 12 | 模擬保育と振り返り:テーマ『表現』<br>代表グループにより模擬保育を行う。<br>撮影した模擬保育の映像を基に、グループ討議を通じて内容を評価し、改善案を提案する。 | 14 | 指導計画案の発表・まとめ<br>改善案を基に修正した指導計画案を発表し、意見交流を図る。<br>授業全体を振り返り、今後の学修課題を考える。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 模擬保育の内容 40%, 指導計画案 30%, 授業へ取り組む姿勢・態度 30% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『保育所保育指針＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館(2018年9月)<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 1週間に2時間程度の予習・復習等を行うこと。<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 幼稚園教諭経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ３ | 前期 | 初等教科教育法（算数） | 山本紀代 | ２ | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、算数科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」などの指導領域ごとに、教材研究の仕方、ICT の活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、算数科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連した理解を深め、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目標とする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 100 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 学習指導要領①－目標と学習内容 | 8 | 教材研究⑥－ＩＣＴの活用 |
| 2 | 学習指導要領②－指導上の留意点と評価 | 9 | 授業実践①－授業設計と学習指導案作成 |
| 3 | 教材研究①－数と計算 | 10 | 授業実践②－模擬授業と省察（数と計算） |
| 4 | 教材研究②－図形 | 11 | 授業実践③－模擬授業と省察（図形） |
| 5 | 教材研究③－測定 | 12 | 授業実践④－模擬授業と省察（測定） |
| 6 | 教材研究④－変化と関係 | 13 | 授業実践⑤－模擬授業と省察（変化と関係） |
| 7 | 教材研究⑤－データの活用 | 14 | 授業実践⑥－模擬授業と省察（データの活用） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%，課題レポート 30%，授業への取り組み 20% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東洋館出版社（2018 年 2 月）文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版（2018 年 2 月）文部科学省<br>『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館（2018 年 9 月）文部科学省<br>算数、数学の各社検定教科書 |
| 授業外の学習方法 | 授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。授業内容に関する調査・考察を含め週 4 時間程度の自主学習。課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 初等教科教育法(社会) | 西端幸信 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、社会科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「地域環境」「地理学習」「歴史学習」などの内容ごとに、教材研究の仕方、 ICT の活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、社会科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 1. 社会科の学習指導方法と教材研究の方法について理解する。<br>2. 学習指導案を作成し、模擬授業を通して具体的な授業イメージを構想する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会科で何を教え、どのような子どもを育てるか | 8 | 第 3 学年の内容の模擬授業と、発問・指示の検討 |
| 2 | 日露戦争を教える | 9 | 第 4 学年の内容の模擬授業と、発問、指示の検討 |
| 3 | 社会科授業の実際と検討 | 10 | 教材研究(ICT の活用含む)と社会科学習指導案の検討②(第 5 学年) |
| 4 | 社会的事象・歴史的事象へのアプローチの視点 | 11 | 第 5 学年の内容の模擬授業と、発問・指示の検討 |
| 5 | 社会科教材の論点・争点を巡る授業づくり | 12 | 教材研究(ICT の活用含む)と社会科学習指導案の検討③(第 6 学年) |
| 6 | 学習指導案作成の要点と模擬授業の計画 | 13 | 第 6 学年の内容の模擬授業と、発問・指示の検討 |
| 7 | 教材研究(ICT の活用含む)と社会科学習指導案の検討①(中学年) | 14 | 小学校社会科学習指導の今後と課題 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 50%, 授業後のレポート及び作成した指導案 50% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版(2018 年 2 月) 文部科学省 |
| 参考書 | 適宜、指示する。 |
| 授業外の学習方法 | 週 4 時間程度の復習及びレポート・指導案作成を行うこと。<br>試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 初等教科教育法(理科) | 秋吉博之 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 理科の目標、教育評価、安全指導など小学校理科学習の基礎的事項を踏まえて、実際に理科学習指導案を作成させる。次いで作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行わせる。模擬授業の実践を通して、観察・実験を生かした授業を展開していくための知識や技術の基礎を身につけさせる。 |
| 授業の目標 | 小学校学習指導要領で示された内容構成を理解し、主体的・対話的で深い学びを実践するための理科の授業づくりの手法について学ぶ。具体的には、各単元学習を踏まえ、学習指導案の作成、板書計画の作成、ワークシートの作成等について学ぶ。これらを基に教材を作成し、模擬授業を実施し、授業記録を基に学習指導を振り返り、評価し、実践的指導力を体得する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学習指導案の書き方 | 8 | 指導計画の作成と理科授業づくり(1)指導計画 |
| 2 | 小学校学習指導要領の変遷、理科の目標 | 9 | 指導計画の作成と理科授業づくり(2)教材作成(ICTの活用含む) |
| 3 | 理科学習と評価(1) 評価の方法 | 10 | 模擬授業:小学校理科3年生 |
| 4 | 理科学習と評価(2) 理科の授業と評価 | 11 | 模擬授業:小学校理科4年生 |
| 5 | 理科学習と環境教育 | 12 | 模擬授業:小学校理科5年生 |
| 6 | 野外活動の方法 | 13 | 模擬授業:小学校理科6年生 |
| 7 | 理科の安全指導 | 14 | 小学校理科の教育課題 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 50%, 理科学習指導案の作成 20%, 模擬授業への取り組み 20%, 授業への取り組み 10% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『理科教育法 第3版』大学教育出版(2018年10月) 秋吉博之編著 |
| 参考書 | 小学校理科検定教科書(東京書籍、啓林館、大日本図書、学校図書、教育出版、信濃教育会出版部) |
| 授業外の学習方法 | 各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回30分程度)<br>グループ活動の実施計画を立て、予行を行うこと。(毎回180分程度)<br>各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回30分程度) |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 初等教科教育法(英語) | 辻伸幸 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、外国語活動・外国語の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。外国語活動・外国語に係る背景知識である外国語教育導入の経緯と現状、学習指導要領、小・中・高等学校の系統性、第二言語習得、主教材、多様な学習活動、児童や学校の多様性への対応等について理解を深めると共に、授業実施に必要な基本的で実戦的な指導技術や授業設計力、授業実践力を身に付ける。ペアワークやグループワークなどの協働学習を導入し主体的、対話的に学んでいく。また、実践的な授業立案力と授業実践力を身に付けるために授業観察、授業体験、模擬授業を組み入れていく。個人やグループでの学びの振り返りを行い到達目標の達成状況や課題の発見等も行っていく。 |
| 授業の目標 | 小学校における外国語活動・外国語に係る基本的な背景知識を理解し、それらを生かした実践的な指導技術、授業設計力、授業実践力を身に付ける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、小学校外国語教育授業概要、学習指導要領 | 8 | 読む・書くことの指導 |
| 2 | 単元・授業構成、教科書や教材、学習指導案 | 9 | 指導技術と授業設計 4(外国語導入) |
| 3 | Small Talk、聞く・話すことの指導 | 10 | 指導技術と授業設計 5(外国語展開) |
| 4 | 指導技術と授業設計 1(外国語活動導入) | 11 | 指導技術と授業設計 6(外国語まとめ) |
| 5 | 指導技術と授業設計 2(外国語活動展開) | 12 | 模擬授業 2(外国語授業) |
| 6 | 指導技術と授業設計 3(外国語活動まとめ) | 13 | 小学校外国語教育導入の経緯、小中高の系統性、児童や学校・地域の多様性、諸外国の小学校外国語教育 |
| 7 | 模擬授業 1(外国語活動) | 14 | 授業実践に必要な知識・技能獲得に向けて |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 30%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 40% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版(2018年2月)文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 毎回のミニテストの準備をしっかり行う。 1週間に4時間程度の予習・復習を行う。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 初等教科教育法（家庭） | 中根真富 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、家庭科の授業を担当できる力の修得を目指す科目である。「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」などの指導領域ごとに、子どもの生活実態や生活課題に根ざした教材研究の仕方、家庭科技術の習得、ICT の活用、目的と指導事項を明確にした単元構想と学習指導案の作成及び授業研究の方法、学習評価の仕方を演習や模擬授業を通して身に付ける。小学校教員として、家庭科の授業を担当する力量を身につけることを目的とする。 |
| 授業の目標 | 小学校家庭科についてこれまでの教育方法を問い直し、一人ひとりに生きる力を身につけさせる指導方法について学ぶ。そのための題材構成や教材の工夫・開発を通して小学校教員における家庭科指導の資質を養う。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス・小学校における家庭科教育について | 8 | 教材研究④ B衣食住の生活(3) 調理実習（茹でる・味噌汁・炊飯）の扱い方 |
| 2 | 家庭科の学習指導について① 小学校の家庭科と学習指導要領 | 9 | 教材研究⑤ B衣食住の生活(4) 衣服の着用と手入れ |
| 3 | 家庭科の学習指導について② 小学校教科書の分析（デジタル教科書を含む） | 10 | 教材研究⑥ B衣食住の生活(5) 生活に役立つ物の製作 |
| 4 | 年間計画と指導案（ICT の活用含む） | 11 | 教材研究⑦ B衣食住の生活(6) 製作実習（手縫い・ミシン縫い）の扱い方 |
| 5 | 教材研究① A家族・家庭生活 | 12 | 教材研究⑧ B衣食住の生活(7) 快適な住まい方 |
| 6 | 教材研究② B衣食住の生活(1) 食事の役割と栄養 | 13 | 教材研究⑨ C消費生活・環境 |
| 7 | 教材研究③ B衣食住の生活(2) 調理技能 | 14 | 一人ひとりに生きる力を身につけさせる指導方法について（まとめ） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 60%， レポート 40% |
| 教科書 | 小学校検定教科書『わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂 鳴海多恵子、石井克枝、堀内かおる 著作者代表<br>小学校検定教科書『新しい家庭 5・6』東京書籍 浜島京子、岡陽子 編集者代表<br>『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（2018年2月） 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社（2018年2月） 文部科学省 |
| 参考書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 週１時間程度の復習及び予習を行うこと。<br>定期試験対策、及びレポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 道徳教育指導論 | 福田光男 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 道徳教育及び道徳科の特質や内容について理解を深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う指導のあり方について理論と実践の両面から学んでいく科目である。学校教育における道徳教育の目標と内容、道徳性の発達と評価に関する基礎的理論、学校における道徳教育及び「特別の教科　道徳」の内容と進め方について理解を深めると共に、学習指導案の作成の仕方及び授業の進め方等、基本的な指導技術習得を目指す。さらに、子どもたちの生活意識や行動に見られる現代的問題を、道徳性の発達の視点から解明し、その克服と子どもたちの自立のための道徳教育のあり方を検討・考察する。 |
| 授業の目標 | 小学校学習指導要領を踏まえ、豊かな心を養いよりよく生きるための資質・能力を培う道徳の意義・原理を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法について理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「特別の教科 道徳」について | 8 | 学校における道徳教育の指導計画とよりよい学校生活:集団生活と人間関係の深まり |
| 2 | 道徳教育の歴史と課題、子どもの豊かな心と道徳性を養うための道徳教育 | 9 | 道徳科における支援と学習評価の在り方について |
| 3 | 学習指導要領の目標と主な内容と教材(1)主として自分自身に関すること | 10 | 各教育活動で養われた道徳性が調和的に生きる:全教育活動の要、補充・深化・統合 |
| 4 | 学習指導要領の目標と主な内容と教材(2)主として人との関わりに関すること | 11 | 道徳科の学習指導案づくり |
| 5 | 学習指導要領の目標と主な内容と教材(3)主として集団や社会との関わりに関すること | 12 | 道徳科の学習指導案づくりと模擬授業について |
| 6 | 学習指導要領の目標と主な内容と教材(4)主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | 13 | 模擬授業と振り返りについて |
| 7 | 道徳科の時間の学習・指導過程と学習・指導方法の工夫について | 14 | 子どもや学級がよりよく変わる道徳教育 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 50%, 模擬授業 20%, 授業中に作成した学習指導案 20%,<br>日々の振り返りシート 10% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』あかつき教育図書(2018年2月)<br>文部科学省 |
| 参考書 | 和歌山市で採用している道徳の教科書、和歌山県道徳教材「心のとびら」 |
| 授業外の学習方法 | 週4時間程度の復習及び予習を行うこと。<br>試験対策及び指導案作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 総合的な学習の時間指導論 | 山本紀代 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校教員として、総合的な学習の時間を担当できる力の修得を目指す科目である。学習指導要領にある総合的な学習の意義、内容、指導法について学ぶ。論議を通した課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った指導方法について理解を深めると共に、学習指導案の作成の仕方及び授業の進め方等、模擬授業などの体験的な活動を通して、基本的な指導技術習得を目指す。 |
| 授業の目標 | 総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など各学校の創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的な能力を身に付け、指導と評価及び実践上の留意点を理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「総合的な学習の時間」の背景 | 8 | 学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動例に基づく論議（地域連携） |
| 2 | 「総合的な学習の時間」の創設理念 | 9 | 学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動例に基づく論議（環境教育） |
| 3 | 「総合的な学習の時間」の目標構成と趣旨理解 | 10 | 特色ある教育活動案の作成演習と論議（国際理解教育） |
| 4 | 「総合的な学習の時間」の全体計画の作成に関する理解 | 11 | 特色ある教育活動案の作成演習と論議（地域連携） |
| 5 | 「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成に関する理解 | 12 | 特色ある教育活動案の作成演習と論議（環境教育） |
| 6 | 「総合的な学習の時間」の学習指導のポイントの理解 | 13 | 「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方の理解 |
| 7 | 学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動例に基づく論議（国際理解教育） | 14 | 「総合的な学習の時間」の評価の方法の理解 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験 30%， 課題レポート 30%， 授業への取り組み 40% |
| 教科書 | 適宜、必要な資料を配布。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 授業計画に沿って、準備学習と復習を行う。授業内容に関する調査・考察を含め週 4 時間程度の自主学習。課題作成及び試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 前期 | 乳児保育Ⅰ | 栗林惠 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題、3 歳未満児の発達を踏まえた保育内容と運営体制について、学ぶと共に、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携について理解する。 |
| 授業の目標 | ・乳児の誕生、成長、発達を掴み、その発達を保証する保育内容を理解する。<br>・子どもの生活やあそびを理解し、保育の環境整備を学ぶ。<br>・保育士の役割、連携、協働及び保護者、地域関係機関との連携を理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 乳児保育の基本 | 8 | 家庭的保育における保育 |
| 2 | 乳児保育の歴史的変遷 | 9 | 3 歳未満児をとりまく社会的環境と子育て支援 |
| 3 | 乳児保育の役割、意義と目的 | 10 | 3 歳未満児の生活と環境 |
| 4 | 乳児保育における養護と教育 | 11 | 3 歳未満児の発育と発達 |
| 5 | 乳児保育の現状と課題 | 12 | あそびと環境 |
| 6 | 保育所における乳児保育 | 13 | 発達に伴う援助や関わり |
| 7 | 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）の保育 | 14 | 乳児保育における関係機関との連携・協働（まとめ） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 60%， 課題・小テスト等 30%， 受講態度・授業への参加度 10% |
| 教科書 | 『はじめて学ぶ乳児保育 第三版』同文書院（2022年） 志村聡子 編著 |
| 参考書 | 『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館（2018年9月） 厚生労働省<br>『保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）』フレーベル館（2018 年 3 月） 厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 週 4 時間程度の復習を行うこと。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 保育士・保育教諭経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 乳児保育Ⅱ | 栗林惠 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。また、養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実際について学ぶと共に、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 |
| 授業の目標 | ・3 歳未満児の生活を具体的に学び、その特性を踏まえ援助や関わりの基本を学ぶ。<br>・養護と教育の一体性を踏まえ生活や遊び、保育の方法及び環境を具体的に理解する。<br>・乳児保育における配慮の実際を理解する。<br>・乳児の成長発達を支える保育の為の保育計画の作成を具体的に理解する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保育士との関わりの重要性 | 8 | 子どもの発達と援助・健康・観察記録 |
| 2 | 個別的配慮、援助、受容と応答的な関わり | 9 | 子どもの心身の健康と安全・情緒の安定を図るための配慮 |
| 3 | 子どもの育ち、主体性の尊重 | 10 | 集団生活の意味と配慮 |
| 4 | 子どもの体験と学び表現 | 11 | 環境移行の為の配慮と保育 |
| 5 | 子どもの生活と保育の流れ | 12 | 乳児保育の計画、必要となる書類 |
| 6 | 子どもの遊びと環境 | 13 | 長期計画・短期計画 |
| 7 | 子どもの事故と対応 | 14 | 連絡帳等、保護者との関わり（まとめ） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 定期試験の成績 60%， 課題・小テスト等 30%， 受講態度・授業への参加度 10% |
| 教科書 | 『はじめて学ぶ乳児保育 第三版』同文書院（2022 年） 志村聡子 編著 |
| 参考書 | 『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館（2018年9月） 厚生労働省<br>『保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）』フレーベル館（2018 年 3 月） 厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 週 2 時間程度の復習を行うこと。<br>小テスト・試験対策の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 保育士・保育教諭経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 幼稚園実習Ⅱ | 小田真弓<br>前島美保 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 幼稚園で2週間80時間の実習を行う。3年次では、参加・責任（部分・半日・全日）実習を行い、実際に保育の指導計画の立案と実施を行うことで、保育の理論と技術を総合的に体験する。前回実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的、主体的に活動に参加し、保育の理論と技術を総合的に体験することによって幼稚園教諭として必要な保育観、知識、価値、態度、技能を修得する。 |
| 授業の目標 | 幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定の仕方、学級経営の方法など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。幼稚園教育に関する正しい知識と方法、技術を身につけるとともに、保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究し、コミュニケーション能力・創造的表現力・論理的思考力・問題解決能力、表現力、保育技術など、幼稚園教諭として必要な技能を身につける。自らの人間性と専門性の向上に努めるとともに他の実習生や現場教員と連携した協働等の実践的な指導力の基礎を培う。 |

**授業のテーマ及び内容**

【幼稚園における実習の内容】

1. 幼稚園の役割と機能（教育目標や教育環境）
2. 幼稚園における保育の実際
   ①幼稚園教育要領やデイリープログラムの把握
   ②園内外の環境整備や教材準備
   ③幼児の発達や個性の理解
   ④個々の子どもや集団に対する適切な対応方法の理解
   ⑤発達過程に応じた教材研究
   ⑥指導計画の作成と実際・事後指導
   ⑦保護者や家族、地域、園内に出入りされる方等への対応
3. 多様な保育・教育の展開と幼稚園教諭の職務・職業倫理
4. 実習した保育の省察と指導助言に基づいた自己評価分析

上記1～4について、実習を通して具体的かつ理論的に学び理解する。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%， 課題レポート 10%， 積極的な実習態度 20% |
| 教科書 | 大学で配布する『実習記録』<br>適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『実例でわかる実習の日誌＆指導案作成マニュアル』成美堂出版(2020年2月) 矢野真他監修<br>『改訂新版　実習の記録と指導案』ひかりのくに(2018年2月) 田中亨胤監修<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館（2018年3月） 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 幼稚園実習指導Ⅱ | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | ３年次の幼稚園実習Ⅱにおける事前・事後の指導を担う。幼稚園実習Ⅰの経験をもとに、自分の実習課題を明確化し、実習全体を見通した実習計画を立て、積極的、主体的に実習に挑む態度を培う。子どもの発達に応じた遊びや活動、教材・指導計画・指導案作成し、実践力を養う。事後指導では、実習の総括として具体的かつ個人的な体験を理論的に理解し、討議を重ねることにより考察する。また、幼稚園教諭の専門性と職業倫理への理解を深め、自身の課題を省察し、自分の理想とする幼稚園教諭像を確かなものにする。 |
| 授業の目標 | 教育実習の意義・目的・内容を理解し、幼児教育に関する基本的な知識や論理的思考・判断力、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について総合的に理解する。実習終了後は、各自の成果と課題を省察するとともに、他者の反省からの学びを深め、新たな課題や学習目標を明確化し、新たな課題や学習目標を明確化する。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（教育実習の意義、目的、内容、方法の理解） | 8 | 全日保育の計画と展開、指導案作成Ⅰ |
| 2 | 実習の態度と留意点（実習生としての態度、子どもの人権尊重、個人情報と守秘義務、安全・衛生管理） | 9 | 全日保育の計画と展開、指導案作成Ⅱ |
| 3 | 実習課題の明確化と目標・実習記録の意義と方法の理解 | 10 | 全日保育の模擬保育（演習） |
| 4 | 保育技術の習得　個に応じた指導と援助（事例から検討） | 11 | 模擬保育の振り返りを行う |
| 5 | 保育技術の習得　集団・学級全体への指導と援助（事例から検討） | 12 | 個に応じた指導に関する振り返りと考察 |
| 6 | 保育技術の習得　仲間関係作りと学級経営、子どもの人権を尊重した保育（事例から検討） | 13 | 集団・学級全体への指導に関する振り返りと考察 |
| 7 | 部分実習、全日実習の内容と方法、教材研究 | 14 | 子どもの人権を尊重した保育に関する振り返りと考察 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 幼稚園実習指導Ⅱ | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 実習の振り返り（実習日誌からの振り返り） | 22 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 16 | 実習の振り返り（自己課題を明確にする） | 23 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 17 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 24 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 18 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 25 | 幼稚園教諭の役割と社会的役割について |
| 19 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 26 | 実習における自己評価 |
| 20 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 27 | 実習の総括 |
| 21 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 28 | 教育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の課題と新たな学習目標の明確化 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題・レポート等の提出物 50%，積極的な受講態度と授業の参加度 50% |
| 教科書 | 『幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成』フレーベル館(2022 年 3 月)<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』<br>適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『改訂新版　実習の記録と指導案』ひかりのくに(2018 年 2 月) 田中亨胤監修<br>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2018年9月) 文部科学省<br>『幼稚園教育要領解説〈平成30年3月〉』フレーベル館(2018年3月) 文部科学省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。(週 1～2 時間程度)<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許選択必修科目、幼稚園教諭免許必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 小学校実習 | 辻　伸幸<br>山本紀代 | 4 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 学校現場において子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教科指導や生活指導等の観察および実践を行い、小学校教師をめざすものとして必要な知識、技能、態度等の実践的指導力を修得する科目である。特に、深い教育的愛情とたゆまぬ児童理解を根幹とし、教科指導や生活指導等の教育実践を理解し、主体的に取り組むことを目指す。また、学校での諸活動に関わりながら、組織として機能している教職員の職務を通じて、教員の役割や職業倫理についての理解を深めるとともに、教師としての自己課題の明確化を図る。これらの学びを大学での学びと関連付け、豊かな人間性をもち学び続ける教師の出発点とする。 |
| 授業の目標 | 実際の小学校教育現場において指導教員のもと観察・参加・実習・省察することを通して、教員としての深い教育的愛情とたゆまぬ児童理解を深め教職に必須の知識・理解・技能を身に付け、使命感を高める。 |

**授業のテーマ及び内容**

第1週：勤務の内容及び児童の実態把握を中心に
　勤務の内容把握　授業の観察と記録
　講話（学習指導要領、教育課程、特別支援教育、職責、校務、安全管理等）
　児童の実態把握　児童との信頼関係の構築、児童の特性や性格、授業での学習状況、生活面での課題

第2週：学年・学級経営把握を中心に
　学年・学級経営把握　授業、授業以外の諸活動の観察と記録、相互観察
　講話（養護教育、給食教育、情報教育、防災教育、特別活動等）

第3週：教科・領域別授業実習を中心に
　指導案作成、教材研究、教材準備、授業の実際、授業と評価の方法
　実地授業、実地授業以外の諸活動の観察と記録、相互観察

第4週：実地・研究授業実施と教育実習全般の省察
　研究授業・実地授業、模擬授業、研究協議、一日担任の実施
　教育実習全般の省察　自己評価、教職に向けての自己の課題整理，　教育実習の記録のまとめ

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 教育実習評価表 70%，　教育実習の記録（教育実習学びの軌跡）20%，<br>レポート課題 10% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』 東洋館出版社（2018 年 2 月） 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説』各教科編　東洋館出版社（2018 年） 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 教育実習を行うことを念頭に関連する教科をしっかりと学ぶ。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 小学校実習指導 | 辻　伸幸<br>山本紀代 | 1 | 選択 | 演習 |
| 授業の概要 | | 小学校教育実習の事前・事後指導を担う科目である。事前指導では、教育実習の目的理念、基本的教養や実習の心構え、児童観察の仕方と理解のための方法、学習指導案や略案の作成方法と模擬授業・研究協議、教育実習記録簿、教育実習校への訪問等について実践的な準備を行う。事後指導では、実習生各自が教育実習での経験を深く反省吟味し、かつグループでディスカッションを行い、教育実習の総まとめとする。実習における教育実践の省察を通じて、教師としての自身の課題を明確にし、教職に向けての今後の展望を持てるようにする。その上で、教育実習での学びを生かして、実習後の模擬授業を立案、実施し研究協議を協働的に行い実践的指導力のさらなる向上を目指す。 | | | | |
| 授業の目標 | | 教育実習の意義や内容等を理解し、実習への意欲を高めるとともに、教科等指導、生活指導、児童理解、職務理解の基礎的なスキルを身につけることを目指す。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育実習のねらい、心構え、内容、留意点 | 8 | 教育実習記録簿「教育実習学びの軌跡」の書き方 |
| 2 | 児童理解とその方法①　認知・理解 | 9 | 教育実習記録簿「教育実習学びの軌跡」の書き方 |
| 3 | 児童理解とその方法②　対人関係 | 10 | 模擬授業①　教科並びに領域の授業設計 |
| 4 | 児童理解とその方法③　個に応じた環境設定 | 11 | 模擬授業②　教科の指導案作成 |
| 5 | 学校行事について①　健康安全・体育的行事 | 12 | 模擬授業③　領域の指導案作成 |
| 6 | 学校行事について②　儀式的行事・文化的行事 | 13 | 模擬授業④　教科の模擬授業 |
| 7 | 教育実習受け入れ側（教諭）の先生から学ぶ① | 14 | 模擬授業⑤　領域の模擬授業 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 小学校実習指導 | 辻 伸幸<br>山本紀代 | 1 | 選択 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 模擬授業の振り返り | 22 | 教育実習体験の共有① グループで討議 |
| 16 | 学校・学級経営について | 23 | 教育実習体験の共有② グループでまとめ |
| 17 | 教育実習受け入れ側(管理職)の先生から学ぶ② | 24 | 教育実習体験の共有③ グループで発表 |
| 18 | 教育実習を始めるにあたって① 心得 | 25 | 教育実習の自己評価 |
| 19 | 教育実習を始めるにあたって② 内容 | 26 | 教育実習後の学びを深める① 自身の課題 |
| 20 | 教育実習のための事前訪問について | 27 | 教育実習後の学びを深める② 自身の目標 |
| 21 | 教育実習後の実務について | 28 | 教育実習後の学びを深める③ 将来の計画 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 50%, 授業への取り組み 50% |
| 教科書 | 適宜、資料配布。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説』各教科編 東洋館出版社(2018 年) 文部科学省 |
| 授業外の学習方法 | 教育実習の事前・実施・事後に関連する教科をしっかりと学ぶ。(週 1～2 時間程度)<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 保育実習Ⅰ（保育所） | 小田真弓<br>前島美保 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育所(園)での見学・参加実習を通して、保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する科目である。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めるとともに、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解するとともに、保育士の業務内容や職業倫理についての理解を目指す。 |
| 授業の目標 | 保育所の生活に実際に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育者の職務について学び、自らの人間性と専門性の向上に努め、保育に関する基本的知識について総合的に理解する。 |

**授業のテーマ及び内容**

【保育所実習における実習の内容】

1．保育所の役割と機能(保育所の生活や一日の流れ)
2．子ども理解(子どもの観察とその記録・発達過程)
3．保育技術(保育者の援助や関わり)
4．保育内容(保育課程に基づく保育内容・乳幼児の発達過程に応じた活動や援助)
5．保育環境(乳幼児の発達過程に応じた援助とかかわり・衛星、安全及び疾病予防の環境設定や配慮)
6．計画と記録(保育課程に基づく計画の理解と活用・記録に基づく省察、自己評価)
7．専門職としての保育士の役割と倫理
(保育士の業務内容・職員間の役割分担とチームワークや連携・保育士の役割と職業倫理)

上記1～7について、実習を通して具体的に学び理解する。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%， 課題レポート 10%， 積極的な実習態度 20% |
| 教科書 | 大学で配布する『実習記録』<br>適宜、資料を紹介する。 |
| 参考書 | 『育児担当制における乳児保育　子どもの育ちを支える保育実践』中央法規(2019 年 5 月) 西村真実著<br>『育児担当制による乳児保育　実践編　一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助』中央法規(2021 年 8 月) 西村真実著<br>『実例でわかる実習の日誌＆指導案作成マニュアル』成美堂出版(2020 年 2 月)矢野真他監修<br>『改訂新版　実習の記録と指導案』ひかりのくに(2018 年 2 月) 田中亨胤監修<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省<br>『保育所保育指針解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 保育実習指導Ⅰ（保育所） | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 本科目は、保育実習Ⅰ（保育所）の事前事後指導を行う科目である。講義を通して、保育実習の意義・目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの課題の明確化を目指す。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることを目標とする。 |
| 授業の目標 | 保育実習Ⅰ（保育所）に必要な保育所や児童福祉施設の状況、実習の意義・内容・留意点を知ることにより、各自の習得課題を明確にして実習への意欲を高め、準備を行うことを目標とする。また、実習の経験を振り返ることにより、習得したことがらを関連科目の学習や進路選択などに活かすことができるようにする。実習の意義、目的、内容、方法、留意事項を具体的に理解し、説明することができる。保育参加・補助の方法、子ども理解の方法、実習日誌の記録の仕方、子どもの年齢に応じた指導計画の作成方法等を検討することができる。実習を自己点検・反省・評価し、自分の課題を抽出し、探究することができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（保育実習の意義、目的、内容と方法、手続き、訪問時の留意事項等） | 8 | 保育課程の理解と実習記録の意義・方法（書き方） |
| 2 | 保育実習の内容と課題の明確化 | 9 | 保育実習指導案の書き方の意義・方法（書き方） |
| 3 | 実習の態度と留意点（実習生としての態度、子どもの人権尊重と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務、乳幼児の健康・安全・衛生管理） | 10 | 実習に際しての留意事項（子ども・利用者の人権と最善の利益） |
| 4 | 保育所および施設の背景となる法制度の理解 | 11 | 実習に際しての留意事項（プライバシーの保護と守秘義務） |
| 5 | 保育所保育指針と子どもの発達から生活と保育者のかかわりを理解する（0歳から2歳） | 12 | 実習の際しての留意事項（実習生としての心構えとマナー） |
| 6 | 保育所保育指針と子どもの発達から生活と保育者のかかわりを理解する（3歳から就学前） | 13 | 実習計画と記録 |
| 7 | 園生活と保育環境、活動と保育者のかかわり、保育表現技術について理解する | 14 | 実習前の事前確認 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 保育実習指導Ⅰ（保育所） | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 実習の振り返り（実習日誌からの振り返り） | 22 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 16 | 実習の振り返り（自己課題を明確にする） | 23 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 17 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 24 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) |
| 18 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 25 | 園生活と保育環境に関する振り返りと考察 |
| 19 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 26 | 活動と保育者のかかわりに関する振り返りと考察 |
| 20 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 27 | 子どもの人権と最善の利益についての考察 |
| 21 | 実習体験の共有(各自の学びと振り返りについて発表) | 28 | 保育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の学習課題の明確化と展望 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題・レポート等の提出物 50%， 積極的な受講態度と授業の参加度 50% |
| 教科書 | 大学で配布する『実習記録』<br>適宜、資料を紹介する。 |
| 参考書 | 『育児担当制における乳児保育　子どもの育ちを支える保育実践』 中央法規(2019 年 5 月) 西村真実著<br>『育児担当制による乳児保育　実践編　一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助』 中央法規(2021 年 8 月) 西村真実著<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)　厚生労働省<br>『保育所保育指針解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。（週 1～2 時間程度）<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2後<br>3前 | 通年 | 保育実習Ⅰ（施設） | 森下順子<br>原　康行 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、施設の役割と機能、施設の生活と一日の流れ、保育者の責務について学ぶ。子どもの観察と記録を通して、子ども理解を深め、状況に応じた援助の方法を学ぶ。実習計画や記録を作成し、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価の方法について学び、専門職としての保育士の役割と倫理について考察する。 |
| 授業の目標 | 居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における観察・参加実習を通して、利用児（者）への理解を深めるとともに、施設等の機能と専門職としての保育士の役割や倫理等、その職務について学ぶ。 |

**授業のテーマ及び内容**

居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等での実習：10 日間

1. 施設の役割と機能について理解する。
2. 施設の生活と一日の流れを理解し、参加する。
3. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。
4. 利用児（者）の観察や関わりを通して、個々の状態に応じた援助の必要性を理解する。
5. 利用児（者）の最善の利益についての配慮を学ぶ。
6. 子どもの生活や環境を通して、家庭・地域社会の現状を理解する。
7. 支援計画を理解し、活動や援助に活かそうとする。
8. 保育士としての役割や職業倫理を理解する。
9. 職員間の役割分担と連携について理解する。
10. 介護、介助及び交流等を体験する（介護等の体験）。
11. 健康管理・安全対策への配慮について理解する。
12. 観察・記録に基づく省察や自己評価を行い、自己課題を明確にする。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%，課題レポート 10%，積極的な実習態度 20% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月）厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』<br>適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社（2019）<br>適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業で学んだことを復習する。実習の振り返りと明日への目標を明確にする。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。 |
| 実務経験と教授内容 | 実務経験者が実習責任者として担当。実習現場では現職教員が指導を行う。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2後～<br>3前 | 通年 | 保育実習指導Ⅰ（施設） | 森下順子<br>原　康行 | 1 | 選択 | 演習 |
| 授業の概要 | | 本科目は、保育実習Ⅰ(施設)の事前事後指導を行う科目である。講義を通して、施設での保育実習の意義・目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの課題の明確化を目指す。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、実習の具体的な方法と内容について学ぶ。実習の事後指導を通して、施設の機能と社会的な役割、施設の設備や生活を理解するとともに、施設の子ども・利用者の背景の理解と援助の実際を理解する。実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 | | | | |
| 授業の目標 | | 保育実習の意義・目的及び実習の内容、子どもの人権と最善の利益の考慮や守秘義務等について理解する。実習後、自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・施設実習とは何か | 8 | 施設実習の内容について |
| 2 | 施設実習の意義と目的 | 9 | 子ども・利用者の人権と最善の利益について |
| 3 | 施設における保育士の職務内容 | 10 | プライバシーの保護と守秘義務 |
| 4 | 児童福祉施設についてⅠ（種類と概要） | 11 | 実習の心得 |
| 5 | 児童福祉施設についてⅡ（養護系の施設） | 12 | 実習日誌等の記録について |
| 6 | 児童福祉施設についてⅢ（障害系の施設） | 13 | 実習前の事前確認 |
| 7 | 児童福祉施設についてⅣ（育成系の施設） | 14 | 実習前の事前確認 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 必・選（卒業） | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2後～3前 | 通年 | 保育実習指導Ⅰ（施設） | 森下順子<br>原　康行 | 1 | 選択 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 50 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 実習の振り返り（実習日誌からの振り返り） | 22 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） |
| 16 | 実習の振り返り（自己課題を明確にする） | 23 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） |
| 17 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 24 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） |
| 18 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 25 | 保育者の役割と社会的役割について |
| 19 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 26 | 実習における自己評価 |
| 20 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 27 | 実習の総括 |
| 21 | 実習体験の共有（学びと振り返りについて発表） | 28 | 課題の明確化・まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題・レポート等の提出物 50%， 積極的な受講態度と授業の参加度 50% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』 |
| 参考書 | 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房、『施設実習パーフェクトガイド』わかば社（2019）、適宜紹介 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先の施設の概要及び施設の役割等について調べる。実習に関する課題作成の時間を確保すること。<br>週 2 時間程度の学習時間を確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。 |
| 実務経験と教授内容 | 実務経験者がすべての回を担当。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 保育実習Ⅱ | 小田真弓<br>前島美保 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育所（園）で参加・責任実習を行い、その役割や機能、保育士の責務について具体的な実践を通して理解を深める科目である。子どもの観察やかかわりの視点を明確化することを通して保育の理解を深めるとともに、既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育や発達及び保護者への支援について総合的に学ぶ。乳幼児の生活、保育の計画、内容、環境、観察、記録及び省察や自己評価等について理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己課題明確化を目指す。 |
| 授業の目標 | 保育所（園）実習において、子ども理解を深めるとともに保育者の役割を実践的に学び、責任実習を行う。理論や知識、技術を実践に応用し、保育の理論と実践を深めていくとともに、自己の課題を明確化し、保育観を構築していくことをねらいとする。 |

**授業のテーマ及び内容**

【保育所実習における実習の内容】

1. 保育所の役割と機能
2. 保育所における保育の実際
   ①保育課程やデイリープログラムの把握
   ②園内外の環境整備・教材準備
   ③乳幼児の発達や個性の理解・個々の子どもや集団に対する適切な対応方法の理解
   ④発達過程に応じた教材研究・指導計画の作成と実際・事後指導
   ⑤多様なサービス(延長保育等)の体験と必要性の理解
   ⑥保護者や家族、地域、園内に出入りされる方等への対応
   ⑦地域社会との連携
3. 多様な保育の展開と保育士の業務、保育士の職業倫理
4. 実習した保育の省察と指導助言に基づいた自己評価分析

上記1～4について、実習を通して具体的かつ理論的に学び理解する。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価 70%， 課題レポート 10%， 積極的な実習態度 20% |
| 教科書 | 大学で配布する『実習記録』<br>適宜、資料を紹介する。 |
| 参考書 | 『育児担当制における乳児保育　子どもの育ちを支える保育実践』中央法規(2019 年 5 月) 西村真実著<br>『育児担当制による乳児保育　実践編　一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助』中央法規(2021 年 8 月) 西村真実著<br>『実例でわかる実習の日誌＆指導案作成マニュアル』成美堂出版(2020 年 2 月)矢野真他監修<br>『改訂新版　実習の記録と指導案』ひかりのくに(2018 年 2 月) 田中亨胤監修<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)　厚生労働省<br>『保育所保育指針解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |

| | |
|---|---|
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先について調べる。 |
| 免　許　・　資　格 | 保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 後期 | 保育実習指導Ⅱ | 小田真弓<br>前島美保 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 本科目は、保育実習Ⅱの事前事後指導を担う科目である。講義を通して、保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培うことを目的とすると共に、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育士の専門性と職業倫理への理解を深め、保育に対する課題や認識を明確にする。 |
| 授業の目標 | 実習の意義・目的・内容を理解し、保育士の業務内容や役割等に関する基本的な知識や論理的思考・判断力、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について総合的に理解する。実習終了後は、各自の成果と課題を省察するとともに、他者の反省からの学びを深め、新たな課題や学習目標を明確化する。保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育改善や事例を通して学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括を自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（保育実習の意義、目的、内容と方法、手続き、訪問時の留意事項等） | 8 | 全日保育の計画と展開、保育実習指導案作成する。 |
| 2 | 実習の態度と留意点（実習生としての態度、子どもの人権尊重と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務、乳幼児の健康・安全・衛生管理） | 9 | 全日保育の模擬保育（演習） |
| 3 | 実習課題の明確化と目標・実習記録の意義と方法を理解する。 | 10 | 模擬保育の振り返りを行う。 |
| 4 | 保育技術の習得　個に応じた対応と援助（事例から検討） | 11 | 個に応じた対応に関する振り返りと考察をする。 |
| 5 | 保育技術の習得　子どもの人権と最善の利益を尊重した保育（事例から検討） | 12 | 子どもの人権と最善の利益を尊重した保育に関する振り返りと考察をする。 |
| 6 | 多様なニーズ（保護者・家族対応、子育て支援、他専門機関との連携）に応じた対応の実際を理解する。 | 13 | 保育士の専門性と職業倫理を考察し理解する。 |
| 7 | 部分実習、全日責任実習の内容と方法、教材研究を行う。 | 14 | 保育実習の振り返りとまとめ・今後の自身の課題と新たな学習目標の明確化する。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題・レポート等の提出物 50%，積極的な受講態度と授業の参加度 50% |
| 教科書 | 大学で配布する『実習記録』<br>適宜、資料を紹介する。 |
| 参考書 | 『育児担当制における乳児保育　子どもの育ちを支える保育実践』中央法規(2019 年 5 月) 西村真実著<br>『育児担当制による乳児保育　実践編　一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助』中央法規(2021 年 8 月) 西村真実著<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)　厚生労働省<br>『保育所保育指針解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月)　内閣府・文部科学省・厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館(2018 年 3 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |

| | |
|---|---|
| 授業外の学習方法 | 授業で配布された資料やテキスト等の復習を行い、理解を深める。（週 1～2 時間程度）<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免　許　・　資　格 | 保育士資格選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 保育内容実践研究 | 大橋　功　森下順子<br>八代健志　小田真弓 | 2 | 選必 | 演習 |
| 授業の概要 | | 幼稚園教育要領・保育所保育指針にある保育の内容と遊びを通しての保育の援助・指導の在り方を実践的に学ぶ科目である。複数の担当教員の下、自身の課題とする領域分野に基づき、少人数に分かれて学びを深める。グループ討議や事例研究、教育現場の観察、視聴覚教材による学習、教材研究、指導計画案の作成、模擬保育、評価と改善等を通じて、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する保育について体感的に学習し、より良い保育を目指して、探求する態度を身につける。 | | | | |
| 授業の目標 | | 幼稚園教育要領・保育所保育指針にある保育の内容と遊びを通しての保育の援助・指導の在り方を実践的に学ぶ科目である。<br>・より良い保育を目指して、学び続け、探求する態度が身についている。<br>・領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる<br>・領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材研究の手法や情報機器の利用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 100 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>保育内容の意義について理解する。 | 8 | 指導案をグループで共有し、課題について探求する |
| 2 | 保育内容に関する自己課題や、理解を深めるべき内容を明らかにする。 | 9 | 模擬保育の準備 |
| 3 | 事例研究：保育の実際について視聴覚教材や資料を基に事例研究を行う。 | 10 | 模擬保育の実践と振り返り（グループ協議） |
| 4 | 事例研究：保育の実際について視聴覚教材や資料を基に事例研究を行う。 | 11 | 模擬保育の実践と振り返り（グループ協議） |
| 5 | 保育内容の研究：指導案の書き方の基本を学び、保育内容の理解を深める。 | 12 | 模擬保育の実践と振り返り（グループ協議） |
| 6 | 保育内容の研究:保育内容について探求しながら、指導案を作成する。 | 13 | 模擬保育の実践と振り返り（グループ協議） |
| 7 | 保育内容の研究:保育内容について探求しながら、指導案を作成する。 | 14 | 模擬保育の改善案を含む検討とまとめ |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 保育内容実践研究 | 大橋 功 森下順子<br>八代健志 小田真弓 | 2 | 選必 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 実習の振り返り、実習から得たこと、自身の成果と課題を考える。 | 22 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 |
| 16 | 実習での部分実習をもとに保育内容を探求する。 | 23 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 |
| 17 | 部分実習の保育内容について自己課題を探求する。 | 24 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 |
| 18 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 | 25 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 |
| 19 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 | 26 | 保育内容の研究発表：自己の振り返りと課題 |
| 20 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 | 27 | 保育内容の研究発表：自己の振り返りと課題 |
| 21 | 保育内容の研究：自身の課題とする領域の保育内容について、探求する。 | 28 | よりよい保育を目指すための保育内容の意義について、まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 指導計画案と模擬保育 30%， 研究発表 10%， レポート 40%， 受講態度 20% |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月） 文部科学省<br>『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館（2018 年 9 月） 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業内容の整理と次回までの課題に取り組む。（週 1～2 時間程度）<br>課題レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格必修科目、幼保コース実習参加要件 |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 教科実践研究 | 秋吉博之　小林康宏<br>辻　伸幸　山本紀代 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校学習指導要領にある、教科の内容と、指導法を実践的に学ぶ科目である。複数の担当教員の下、自身の課題とする教科分野に基づき、8～10 人程度の少人数に分かれて学びを深める。グループ討議や事例研究、教育現場の観察、視聴覚教材による学習、教材研究、指導計画案の作成、模擬授業、評価と改善等を通じて、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する教育について体感的に学習し、より良い教育を目指して、探求する態度を身につける。 |
| 授業の目標 | 小学校学習指導要領に示されている、教科の内容と、指導法を実践的に学ぶなかで、次の態度や能力を身につける。<br>・より良い教育を目指して、学び続け、探求する態度が身についている。<br>・教科の特性に応じた教育実践の動向を知り、教科構想の向上に取り組むことができる。<br>・教科の特性や児童の体験との関連を考慮した教材研究の手法や情報機器の利用法を理解し、授業の構想に活用することができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教科指導の内容と方法 | 8 | グループ活動①指導案作成Ⅰ<br>(A-国語、B-算数、C-理科、D-英語) |
| 2 | 教科指導(英語) | 9 | グループ活動②模擬授業Ⅰ<br>(A-国語、B-算数、C-理科、D-英語) |
| 3 | 教科指導(国語) | 10 | グループ活動①指導案作成Ⅰ<br>(A-算数、B-理科、C-英語、D-国語) |
| 4 | 教科指導(算数) | 11 | グループ活動②模擬授業Ⅰ<br>(A-算数、B-理科、C-英語、D-国語) |
| 5 | 教科指導(理科) | 12 | グループ活動①指導案作成Ⅰ<br>(A-理科、B-英語、C-国語、D-算数) |
| 6 | グループ活動①指導案作成Ⅰ[グループ A～D 毎]<br>(A-英語、B-国語、C-算数、D-理科) | 13 | グループ活動②模擬授業Ⅰ<br>(A-理科、B-英語、C-国語、D-算数) |
| 7 | グループ活動②模擬授業Ⅰ<br>(A-英語、B-国語、C-算数、D-理科) | 14 | 前期の成果と課題 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 教科実践研究 | 秋吉博之　小林康宏<br>辻　伸幸　山本紀代 | 2 | 選必 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 教科指導のあり方 | 22 | グループ活動①指導案作成Ⅱ<br>(A-国語、B-算数、C-理科、D-英語) |
| 16 | 教科指導(英語) | 23 | グループ活動②模擬授業Ⅱ<br>(A-国語、B-算数、C-理科、D-英語) |
| 17 | 教科指導(国語) | 24 | グループ活動①指導案作成Ⅱ<br>(A-算数、B-理科、C-英語、D-国語) |
| 18 | 教科指導(算数) | 25 | グループ活動②模擬授業Ⅱ<br>(A-算数、B-理科、C-英語、D-国語) |
| 19 | 教科指導(理科) | 26 | グループ活動①指導案作成Ⅱ<br>(A-理科、B-英語、C-国語、D-算数) |
| 20 | グループ活動①指導案作成Ⅱ[グループ A～D 毎]<br>(A-英語、B-国語、C-算数、D-理科) | 27 | グループ活動②模擬授業Ⅱ<br>(A-理科、B-英語、C-国語、D-算数) |
| 21 | グループ活動②模擬授業Ⅱ<br>(A-英語、B-国語、C-算数、D-理科) | 28 | 教科指導の課題 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 学習指導案の作成 40%, 模擬授業の実施 40%, 受講態度・授業への取り組み 20% |
| 教科書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 算数編』日本文教出版(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 理科編』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』開隆堂出版(2018年2月)文部科学省 |
| 参考書 | 適宜、図書・資料を提示する。 |
| 授業外の学習方法 | 各回に授業で指示する内容について予習をする。(毎回 30 分程度)<br>グループ活動の実施計画を立て予行等を行う。(毎回 60 分程度)<br>各回に授業で指示する内容について復習をする。(毎回 30 分程度) |
| 免許・資格 | 小幼コース実習参加要件 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 専門ゼミナールⅠ | 村上　秋吉<br>小林　岸田<br>大橋　溝口<br>辻　八代<br>山本　原康 | 2 | 必修 | 演習 |
| 授業の概要 | | 自身の興味・関心に基づき、教育・保育に関する課題を深く探求する科目である。関心に基づくテーマについて、少人数のグループに分かれ、指導する教員や学生とともに、議論しながら学んでいく。テキストや論文の輪読、自主学習の成果発表、研究発表会等において意見交換や討議をすることで知識を深める。必要に応じて、グループでの共同研究やフィールドワーク（現地調査や事情視察など）を実施する。 | | | | |
| 授業の目標 | | 受講者の興味・関心に基づき、教育・保育に関する課題を深く探求し、少人数のゼミ活動を通じて専門知識を深めるなかで、次の態度や能力を身につける。<br>・主体的に学び探求する態度を身につけている。<br>・専門分野の文献内容を理解し、探求活動に活かすことができる。<br>・討議を通じて、相手の意見を理解し、自身の考えを分かりやすく伝えることができる。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | テーマ設定 | 8 | 研究計画の発表と討議Ⅱ（学生による発表と討議②） |
| 2 | 輪読と論文紹介Ⅰ（学術論文①の紹介） | 9 | 研究計画の発表と討議Ⅲ（学生による発表と討議③） |
| 3 | 輪読と論文紹介Ⅱ（学術論文②の紹介） | 10 | 研究計画の発表と討議Ⅳ（学生による発表と討議④） |
| 4 | 輪読と論文紹介Ⅲ（学術論文③の紹介） | 11 | 研究論文構想に関する報告と討論Ⅰ（学生による報告と討議①） |
| 5 | 輪読と論文紹介Ⅳ（学術図書①の紹介） | 12 | 研究論文構想に関する報告と討論Ⅱ（学生による報告と討議②） |
| 6 | 輪読と論文紹介Ⅴ（学術図書②の紹介） | 13 | 研究論文構想に関する報告と討論Ⅲ（学生による報告と討議③） |
| 7 | 研究計画の発表と討議Ⅰ（学生による発表と討議①） | 14 | 研究の進捗状況の確認及び後期の研究計画の策定 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 通年 | 専門ゼミナールⅠ | 村上　秋吉<br>小林　岸田<br>大橋　溝口<br>辻　八代<br>山本　原康 | 2 | 必修 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 個人の研究テーマの発表 | 22 | 研究報告会と討論Ⅲ（学生による発表と討議③） |
| 16 | 論文作成のための情報収集Ⅰ（文献検索の方法） | 23 | 研究計画の発表と討議Ⅳ（学生による発表と討議④） |
| 17 | 論文作成のための情報収集Ⅱ（文献検索の実際） | 24 | 研究計画の発表と討議Ⅴ（学生による発表と討議⑤） |
| 18 | 論文作成のための情報収集Ⅲ（学術図書の検索） | 25 | 研究論文（中間）発表会Ⅰ（学生による発表①） |
| 19 | 論文作成のための情報収集Ⅳ（査読論文の検索） | 26 | 研究論文（中間）発表会Ⅱ（学生による発表②） |
| 20 | 研究報告会と討論Ⅰ（学生による発表と討議①） | 27 | 研究論文（中間）発表会Ⅲ（学生による発表③） |
| 21 | 研究報告会と討論Ⅱ（学生による発表と討議②） | 28 | ゼミナールでの学修成果と課題に関する省察 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 研究レポート 50%，プレゼンテーション 30%，受講態度 20% |
| 教科書 | 適宜、図書・論文等を紹介する。 |
| 参考書 | 『よくわかる卒論の書き方　第2版』ミネルヴァ書房（平成25年2月）白井　利明、高橋　一郎 著 |
| 授業外の学習方法 | 週1～2時間程度の予習・復習を行うこと。<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

# 4年
## （2020～21年度入学　2・3期生）

# 講義要項

## 2023年度　シラバス　目次　4年（2020～21年度入学　2・3期生）

| 科目区分 | | | 授業科目の名称 | 教員名 | 実務家教員＊ | 単位数 | 配当年次 | 授業形態 | 卒業に必要な科目・単位 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通基礎科目 | 教養科目 | 教師塾 | キャリアガイダンスⅡ | 森﨑陽子 | ＊ | 1 | 4通年（隔週） | 講義 | △ | 157 |
| | | | 教師への道Ⅲ | 岸田正幸 | ＊ | 2 | 4前期 | 講義 | △ | 158 |
| 専門教育科目 | 実習 | | 保育実習Ⅲ | 森下順子　原康行 | ＊ | 2 | 4前期 | 実験実習 | △ | 159 |
| | | | 保育実習指導Ⅲ | 森下順子　原康行 | ＊ | 1 | 4前期 | 演習 | △ | 160 |
| | 課題探求科目 | 実践研究 | 教職実践演習（幼・小） | 小林　山本　原康 | ＊ | 2 | 4後期 | 演習 | ○ | 161 |
| | | | 保育・教職実践演習（幼） | 森下　八代　小田 | ＊ | 2 | 4後期 | 演習 | ○ | 162 |
| | | 総合研究 | 専門ゼミナールⅡ | 村上　秋吉　小林　岸田<br>大橋　溝口　辻　八代<br>山本　原康 | | 2 | 4通年 | 演習 | ● | 163-164 |
| | | | 卒業研究 | 村上　秋吉　小林　岸田<br>大橋　溝口　辻　八代<br>山本　原康 | | 4 | 4通年 | 演習 | ● | 165-166 |

| | | |
|---|---|---|
| 4年合計単位数 | 16 | 省令で定める基準単位数13単位<br>（令元文科省令第6号<br>大学等における修学の支援に関する法律施行規則） |
| （うち、実務家教員＊による単位数） | 10 | |
| 学部内全学年（1～4年）合計単位数（2023年度） | 214 | |
| （うち、実務家教員＊による単位数）（2023年度） | 163 | |

| | |
|---|---|
| ● | 必修 |
| ○ | 選択必修 |
| △ | 選択 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 通年 | キャリアガイダンスⅡ | 森﨑陽子 | 1 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 教育者・保育者としてキャリアをスタートさせるための準備段階にあたる科目である。キャリアガイダンスⅠに引き続き討論やロールプレイ等を通して、目指すべき、教育者・保育者像を明確にすると共に、就職試験対策として各種課題（保育技術・作文）や筆記試験対策などを、演習形式で学ぶ。また、就職後の研修や、免許更新講習、キャリアアップの方法についても概説し「学び続ける教師」像の確立を目指す。 |
| 授業の目標 | 取得する資格、免許に応じ進路に応じた一連の就職活動に必要な事務手続き・活動方法・受験方法を体験し身に付ける。また、内定後は必要な、社会人・教員・保育者としての基本的なマナーを理解するとともに、卒業後それぞれの就職先におけるキャリアアップの方法を学ぶ。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 50 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>職業人となるために | 8 | 社会人としての心得Ⅱ−①<br>ビジネス上の手紙・メールの書き方など |
| 2 | 採用試験対策① 筆記試験対策 | 9 | 社会人としての心得Ⅱ−②<br>ビジネス上の手紙・メールの書き方など |
| 3 | 採用試験対策② 個人面接試験対策 | 10 | 社会人としての心得Ⅲ−①<br>コンプライアンス・クレーム対応など |
| 4 | 採用試験対策③ 集団面接試験対策 | 11 | 社会人としての心得Ⅲ−②<br>コンプライアンス・クレーム対応など |
| 5 | 採用試験対策④ 論文等試験対策 | 12 | 社会人としての心得Ⅳ<br>メンタルヘルスなど |
| 6 | 社会人としての心得Ⅰ−①<br>服装・挨拶・言葉遣い・接客など | 13 | 社会人としての心得Ⅴ−①<br>卒業後のキャリアアップなど |
| 7 | 社会人としての心得Ⅰ−②<br>服装・挨拶・言葉遣い・接客など | 14 | 社会人としての心得Ⅴ−②<br>豊かな人生を構築するために |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 40%， 授業への取り組み 60% |
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『大学生のためのキャリアガイドブック』北大路書房 長尾博暢他著<br>他適宜、資料を配布する。 |
| 授業外の学習方法 | 配布される資料を用いての予習復習や、各自関係する情報の収集に努める。（各回 1〜2時間程度）<br>レポート作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 前期 | 教師への道Ⅲ | 岸田 正幸 | 2 | 選択 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 公立小学校・幼稚園、保育所等の教員・保育士あるいは地方公共団体の公務員として勤めるために必要な、一般及び専門教養について学ぶ科目である。特に、和歌山県や近隣の都道府県における教員採用試験の「教職教養」「専門教養」の分野における頻出問題を例に、その学問的背景と関連する領域について専門のゲストスピーカーを招いて学修し、地域社会の課題に職業人として対応できる、教育者としての真の教養の修得を目指す。 |
| 授業の目標 | 教員採用試験で求められる知識をはじめとして、教師としての仕事をするために必要不可欠となる幅広い教養や実践力を身につける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小論文の書き方と演習（小論文シリーズ1） | 8 | 外国語科の指導と目標（小学校専科シリーズ5） |
| 2 | 国語科の指導と目標（小学校専科シリーズ1） | 9 | 教育課題に対する集団面接（面接シリーズ2） |
| 3 | 社会科の指導と目標（小学校専科シリーズ2） | 10 | 面接の指導（面接シリーズ3） |
| 4 | 教育課題に対する集団面接（面接シリーズ1） | 11 | 面接の指導（面接シリーズ4） |
| 5 | 算数科の指導と目標（小学校専科シリーズ3） | 12 | 面接の演習（面接シリーズ5） |
| 6 | 理科の指導と目標（小学校専科シリーズ4） | 13 | 面接の演習（面接シリーズ6） |
| 7 | 小論文の演習（小論文シリーズ2） | 14 | 面接の演習（面接シリーズ7） |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 毎回の課題レポート又は小論文 100％ |
| 教科書 | 各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月) 文部科学省<br>『生徒指導提要（デジタルテキスト改訂版）』（令和4年12月 文部科学省）<br>教育時事答申、教職及び公務員用の一般教養問題 |
| 授業外の学習方法 | 各回の課題についての予習・復習を行うこと。（週 4 時間程度） |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験のある担当者がすべての回を担当する。 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 前期 | 保育実習Ⅲ | 森下順子<br>原　康行 | 2 | 選択 | 実験・実習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 児童福祉施設等（保育所以外）で参加・指導実習を行い、その役割や機能、保育士の責務について、実践を通して理解を深める。子ども・利用者の心に寄り添う共感力を背景に、家庭と地域の生活実態にふれ、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解するとともに、保育士としての自己課題を明確にする。 |
| 授業の目標 | 児童福祉施設等（保育所以外）での役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭や地域の実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。 |

**授業のテーマ及び内容**

1．児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能

2．施設における支援の実際

⑴受容し共感する態度

⑵個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解

⑶個別支援計画の作成と実際

⑷子どもの家族への支援と対応

⑸多様な専門職との連携

⑹地域社会との連携

3．保育士の多様な業務と職業倫理

4．保育士としての自己課題の明確化

上記1～4について、実習を通して具体的かつ理論的に学び理解する。

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 外部評価　70%，　課題レポート10%，　積極的な実習態度20% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成29年告知〉』フレーベル館（2018年9月）厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』適宜資料を配布する |
| 参考書 | 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社(2019)<br>適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業で学んだことを復習する。実習の振り返りと明日への目標を明確にする。 |
| 免許・資格 | 保育士資格選択必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 前期 | 保育実習指導Ⅲ | 森下順子<br>原　康行 | 1 | 選択 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 本科目は、保育実習Ⅲの事前事後指導を担う科目である。講義を通して施設実習の意義と目的を理解する。実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ実践力を培うことを目的とすると共に、観察、記録及び自己評価等を踏まえた改善について実践事例等を通して学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育士としての専門性と職業倫理への理解を深め、課題や認識を深める。 |
| 授業の目標 | 施設実習の意義と目的を理解し、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえて実践力を培う。観察、記録及び自己評価を踏まえた改善について実践や事例検討を通して学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解が深まる。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、自己課題を明確にする。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション・保育実習Ⅲの目的と意義 | 8 | 施設実習の振り返り（実践・記録に基づく課題） |
| 2 | 保育実習Ⅰ（施設）の課題について振り返る | 9 | 施設実習の振り返り（保育実践の改善に向けての検討） |
| 3 | 保育実習Ⅰ（施設）の課題について共有する | 10 | 施設実習を終えて（グループワーク等で共有） |
| 4 | 保育実習Ⅲにむけて目標を明確にする | 11 | 施設実習を終えて（グループワーク等で共有） |
| 5 | 施設実習による総合的な学び（子ども・利用者への理解と保護者支援） | 12 | 保育士の専門性と職業倫理 |
| 6 | 実践のための表現技術の指導計画案の理解と検討 | 13 | 実習の課題の明確化 |
| 7 | 施設実習直前ガイダンス | 14 | 実習の総括と評価・まとめ |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 50%，　授業への取り組み 50% |
| 教科書 | 『保育所保育指針〈平成 29 年告知〉』フレーベル館（2018 年 9 月）厚生労働省<br>大学で配布する『実習記録』適宜資料を配布する |
| 参考書 | 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社(2019)<br>適宜紹介する。 |
| 授業外の学習方法 | 授業で配布した資料、実習記録ファイル等を復習する。実習先の施設の概要及び施設の役割等について調べる。実習に関する課題作成の時間を確保すること。<br>週 2 時間程度の学習時間を確保すること。 |
| 免許・資格 | 保育士資格選択必修科目<br>小学校教諭免許状取得のための介護等体験に読み替えるものとする。 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 後期 | 教職実践演習(幼 ・ 小) | 小林 康宏<br>山本 紀代<br>原 康行 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 小学校の教員として必要な、①使命感や責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力③子ども理解や学級経営④教科・保育内容等の指導力などの資質・能力が最低限身についたかを確認する、全学年を通じた学びの軌跡の集大成となる科目である。教育現場経験者の講義や、現地調査、事例研究、グループ討議、現場を想定した模擬授業、クラス経営案の作成、などを通じて、教員になる上での自己の課題を認識し、不足している知識や技能等の補足、定着を図る。このため、授業では、学生一人一人の履修状況を記した「履修カルテ」を参照して、個別に補完的な指導を行い、円滑な教師生活のスタートに役立てることを目標とする。 |
| 授業の目標 | 学校の教員として必要な、①使命感や責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力③子ども理解や学級経営④ICT を活用した教科等の指導力などの資質・能力を身に付ける。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 200 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション<br>自己課題の明確化、及び、履修計画立案 | 8 | 自律的な行動と協働的な校務推進の基礎を学ぶ②<br>地域連携、社会人としての所作に関する協議・演習 |
| 2 | 指導主事による講演<br>教育に関する今日的課題についての講演と協議 | 9 | 学習指導案作成及び教科別研究会報告<br>自己課題に基づく指導案作成と授業参観報告 |
| 3 | 子ども理解、保護者対応の基礎を学ぶ<br>いじめ、不登校、保護者対応に関する協議・演習 | 10 | 模擬授業の実施と検討①<br>模擬授業(含;ICT 活用)・協議会実施と改善案立案 |
| 4 | 人権意識、自己抑制の基礎を学ぶ<br>人権・アンガーマネージメントに関する協議・演習 | 11 | 模擬授業の実施と検討②<br>模擬授業(含;ICT 活用)・協議会実施と改善案立案 |
| 5 | 学級経営の基礎を学ぶ①<br>朝・帰りの会、給食・清掃指導等に関する協議・演習 | 12 | 模擬授業の実施と検討③<br>模擬授業(含;ICT 活用)・協議会実施と改善案立案 |
| 6 | 学級経営の基礎を学ぶ②<br>クラス経営案作成等、学級経営に関する協議・演習 | 13 | 模擬授業の実施と検討④<br>模擬授業(含;ICT 活用)・協議会実施と改善案立案 |
| 7 | 自律的な行動と協働的な校務推進の基礎を学ぶ①<br>校務分掌、非違行為全般に関する協議・演習 | 14 | 学びの総括、及び、学級開きの心構え<br>学修内容の振り返り、及び、学級開きに向けた協議 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 課題レポート 50%, 授業への取り組み 50% |
| 教科書 | 適宜、資料を配付する。 |
| 参考書 | 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』東洋館出版社(2018 年 2 月) 文部科学省<br>(小学校実習日誌、教職履修カルテ) |
| 授業外の学習方法 | 3 年次までの教職履修カルテの全項目の記入が済んでいることを履修の最低条件とする。<br>開講期間中に開催される教科別研究会に必ず参加し、授業の中で随時報告を行う。受講した授業の内容を復習カードにまとめ、次時の授業で行う内容を予習カードにまとめる等、1 週間に 2 時間程度の予習・復習等を行うこと。課題作成等の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許選択必修科目 |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 後期 | 保育・教職実践演習(幼) | 森下 順子<br>八代 健志<br>小田 真弓 | 2 | 選必 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | 保育者に必要な①使命感や責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力③子ども理解や学級経営④保育内容等の指導力などの資質と能力が最低限身についたかを確認する、全学年を通じた学びの軌跡の集大成となる科目である。幼児教育・保育の現場経験者による講義や現地調査、事例研究、実技の演習、模擬保育、グループ討議、クラス経営案の策定を取り入れ、互いに研鑽し合う。このため、授業では学生一人ひとりの履修状況を記した「履修カルテ」を参照して、個別に補完的な指導を行い、円滑な保育者生活のスタートに役立てることを目標とする。 |
| 授業の目標 | ・保育者に必要な 4 つ(上記)の資質と能力などについて理解し、自己課題を確認することができる。<br>・自己課題の達成に向けて、積極的に本演習に取り組むことができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 200 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(本演習の目的とねらい・教職履修カルテより自己課題を明確にする) | 8 | 現地調査Ⅱ(幼稚園・保育所・こども園) |
| 2 | ① 使命感や責任感、教育的愛情について | 9 | 現地調査の振り返り |
| 3 | ② 社会性や対人関係能力について | 10 | 模擬保育の準備 |
| 4 | ③ 子ども理解や学級経営について | 11 | 模擬保育Ⅰ(ICT 活用を含む) |
| 5 | ④ 教科・保育内容等の指導力について | 12 | 模擬保育Ⅱ(ICT 活用を含む) |
| 6 | 現地調査にむけてのオリエンテーション | 13 | 現場経験者による講話「保育現場が求める保育者像」 |
| 7 | 現地調査Ⅰ(幼稚園・保育所・こども園) | 14 | まとめ(4つの資質と能力について振り返り、自己課題と今後の目標を明確にする) |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 総合的な学習経験と想像的思考力(45%),教育的愛情(35%),保育の指導力(10%),社会性(10%)の4つの観点より、レポート・受講態度・授業への参加度・模擬保育の実践等を通して、総合的に評価する。 |
| 教科書 | 『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月) 文部科学省<br>『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月) 厚生労働省<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館(2018 年 9 月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 |
| 参考書 | 『保育・教職実践演習 自己課題への発見・解決に向けて』 萌文書林(平成 28 年 8 月) 生野金三・井口真美・田中正浩 編著<br>(実習記録・教職履修カルテ) |
| 授業外の学習方法 | 3 年次までの教職履修カルテの全項目の記入が済んでいることを履修の最低条件とする。1 週間に 2 時間程度の予習・復習等を行うこと。課題作成等の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | 幼稚園教諭免許選択必修科目、保育士資格必修科目, |
| 実務経験と教授内容 | 教員経験者が全ての回を担当 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 通年 | 専門ゼミナールⅡ | 村上　秋吉<br>小林　岸田<br>大橋　溝口<br>辻　八代<br>山本　原康 | 2 | 必修 | 演習 |

| | |
|---|---|
| 授業の概要 | ３年次の専門ゼミナールⅠに引き続き、少人数のグループに分かれて、教育・保育に関する課題を深く探求する科目である。指導する教員や３年次学生とともに、議論しながら深い学びの達成を目指す。指導教員の下、テキストや論文の輪読、自主学習の成果発表等における意見交換や討議に加え、各自の研究テーマに基づく卒業研究のための調査、成果発表や研究レポート作成を通じ、課題探求力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論理的思考力・文章力を培う。 |
| 授業の目標 | 教育・保育に関する課題を深く探求し、課題探求力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、論理的思考力・文章力を培う。<br>・主体的に学び探求する態度を身につけている。<br>・文献で得られた知見を背景に、独自の視点で新たな課題解決策を提示することができる。<br>・自身の考えを様々な手法を用いて伝達・表明することができる。 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 1 | 卒業論文のテーマ決定 | 8 | 論文作成のための情報収集・グループ討議Ⅰ |
| 2 | 輪読と論文紹介Ⅰ | 9 | 論文作成のための情報収集・グループ討議Ⅱ |
| 3 | 輪読と論文紹介Ⅱ | 10 | 論文作成のための情報収集・グループ討議Ⅲ |
| 4 | 輪読と論文紹介Ⅲ | 11 | 各グループの論文構想に関する報告と討論Ⅰ |
| 5 | 輪読と論文紹介Ⅳ | 12 | 各グループの論文構想に関する報告と討論Ⅱ |
| 6 | 輪読と論文紹介Ⅴ | 13 | 各グループの論文構想に関する報告と討論Ⅱ |
| 7 | 卒業研究計画の発表と討議 | 14 | 研究の進捗状況の確認及び後期の研究計画の策定 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 通年 | 専門ゼミナールⅡ | 村上　秋吉<br>小林　岸田<br>大橋　溝口<br>辻　八代<br>山本　原康 | 2 | 必修 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | | 各回 100 分 |
|---|---|---|---|
| 15 | 3年生の研究テーマ発表会と討議 | 22 | 4年生の研究報告会と討論Ⅲ |
| 16 | 論文作成のための情報収集Ⅰ | 23 | 卒業論文研究計画の発表と討議Ⅰ |
| 17 | 論文作成のための情報収集Ⅱ | 24 | 卒業論文研究計画の発表と討議Ⅱ |
| 18 | 論文作成のための情報収集Ⅲ | 25 | 卒業論文発表会直前対策 |
| 19 | 論文作成のための情報収集Ⅳ | 26 | 卒業論文発表会Ⅰ |
| 20 | 4年生の研究報告会と討論Ⅰ | 27 | 卒業論文発表会Ⅱ |
| 21 | 4年生の研究報告会と討論Ⅱ | 28 | ゼミナールでの学修成果と課題に関する省察 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 研究レポート 40%，プレゼンテーション 30%，受講態度 30% |
| 教科書 | 適宜、図書・論文等を紹介する。 |
| 参考書 | 『よくわかる卒論の書き方　第2版』ミネルヴァ書房（平成25年2月）白井　利明、高橋　一郎 著 |
| 授業外の学習方法 | 週1～2時間程度の予習・復習を行うこと。<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業<br>必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 通年 | 卒業研究 | 村上　秋吉<br>小林　岸田<br>大橋　溝口<br>辻　八代<br>山本　原康 | 4 | 必修 | 演習 |
| 授業の概要 | | 大学生活の集大成となる科目である。これまでの学習成果をもとに、各自がそれぞれの研究テーマについて、教員から直接個別指導を受け、観察、調査、実験を行い、そのデータを分析・考察し、卒業論文にまとめる。教育・保育に関する自らの問題意識を深めるとともに、客観的で幅広い視野をもって課題を探求し、独自の視点で問題解決を図る、創造的思考力の涵養を目指す。また、論文作成や発表会を通して、基本的なプレゼンテーション能力の修得を図る。 | | | | |
| 授業の目標 | | 教育・保育に関する自らの問題意識を深めるとともに、客観的で幅広い視野をもって課題を探求し、独自の視点で問題解決を図る、創造的思考力の涵養を目指す。また、論文作成や発表会を通して、基本的なプレゼンテーション能力の修得を図る。<br>・教育・保育の課題に、客観的で幅広い視野を持って探求する態度が身についている。<br>・教育・保育の課題に、独自の視点で問題解決にあたることができる。<br>・自身の考えを様々な手法を用いて伝達・表明することができる。 | | | | |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 200 分 | |
|---|---|---|---|
| 1 | テーマ設定 | 8 | 論文作成（序論と方法）Ⅲ |
| 2 | 論文作成のための文献研究と討議Ⅰ | 9 | 調査のための準備Ⅰ |
| 3 | 論文作成のための文献研究と討議Ⅱ | 10 | 調査のための準備Ⅱ |
| 4 | 論文作成のための文献研究と討議Ⅲ | 11 | 調査のための準備Ⅲ |
| 5 | 論文作成（序論と方法）Ⅰ | 12 | 調査研究Ⅰ |
| 6 | 論文作成（序論と方法）Ⅱ | 13 | 調査研究Ⅱ |
| 7 | 卒業研究計画の発表と討議 | 14 | 調査研究の状況報告 |

| 配当年次 | 開講期 | 科目名 | 担当者 | 単位 | 卒業必・選 | 授業形態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 通年 | 卒業研究 | 村上　秋吉<br>小林　岸田<br>大橋　溝口<br>辻　八代<br>山本　原康 | 4 | 必修 | 演習 |

| 回 | 授業のテーマ及び内容 | 各回 200 分 | |
|---|---|---|---|
| 15 | 調査結果の分析Ⅰ | 22 | 論文作成・卒業研究発表会準備Ⅲ |
| 16 | 調査結果の分析Ⅱ | 23 | 論文作成・卒業研究発表会準備Ⅳ |
| 17 | 論文作成(結果)Ⅰ | 24 | 論文作成・卒業研究発表会準備Ⅴ |
| 18 | 論文作成(結果)Ⅱ | 25 | 卒業論文発表会直前対策 |
| 19 | 論文作成(結果)Ⅲ | 26 | 卒業論文発表会Ⅰ |
| 20 | 論文作成・卒業研究発表会準備Ⅰ | 27 | 卒業論文発表会Ⅱ |
| 21 | 論文作成・卒業研究発表会準備Ⅱ | 28 | 研究成果と課題に関する省察 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 卒業論文 50%，プレゼンテーション 30%，受講態度 20% |
| 教科書 | 適宜、図書・論文等を紹介する。 |
| 参考書 | 『よくわかる卒論の書き方　第2版』ミネルヴァ書房（平成25年2月）白井　利明、高橋　一郎 著 |
| 授業外の学習方法 | 週1～2時間程度の予習・復習を行うこと。<br>課題作成の時間も確保すること。 |
| 免許・資格 | |
| 実務経験と教授内容 | |

和歌山信愛大学
教育学部　子ども教育学科

〒640-8022　和歌山市住吉町1番地
TEL ：073-488-3120（教学センター）
Mail：kyogaku-c@shinai-u.ac.jp

学　　年＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿